

文京区バリアフリー基本構想(案)について

1 趣旨

文京区バリアフリー基本構想の改定について、文京区バリアフリー基本構想推進協議会等での検討及びパブリックコメントでの意見を踏まえ、案を作成したため報告する。

2 検討経緯

令和 7 年	5 月	第 1 回文京区バリアフリー基本構想推進協議会
	9 月	第 2 回文京区バリアフリー基本構想推進協議会
	11 月	第 3 回文京区バリアフリー基本構想推進協議会
	12 月	パブリックコメント（12 月 5 日～1 月 5 日） パネル展示型説明会
令和 8 年	1 月	第 4 回文京区バリアフリー基本構想推進協議会

3 素案に関する意見

パネル展示型説明会 【別紙 1 のとおり】	開催日・会場	令和 7 年 12 月 18 日(木)～12 月 20 日(土) 文京シビックセンター
	来場者数	70 人
パブリックコメント 【別紙 1 のとおり】	募集期間	令和 7 年 12 月 5 日(金)～令和 8 年 1 月 5 日(月)
	提出者（意見数）	10 人（31 件）
子どもの意見 【別紙 2 のとおり】	募集期間	令和 7 年 12 月 5 日(金)～令和 8 年 1 月 5 日(月)
	① 高齢者、障害者等のためにまちにあるとよい工夫	
	② 動画を見た感想	
	提出者	485 人

4 文京区バリアフリー基本構想（案）

別紙 3 のとおり

5 今後のスケジュール（予定）

令和 8 年	2 月	議会報告 「文京区バリアフリー基本構想（案）について」
	3 月	文京区バリアフリー基本構想改定
令和 8 年度		文京区バリアフリー基本構想に基づき重点整備地区別計画を改定

文京区バリアフリー基本構想（素案）に対する意見及び区の考え方

■ 意見募集の概要

件名	文京区バリアフリー基本構想（素案）
意見募集期間	令和7年12月5日(金)～令和8年1月5日(月)
意見提出方法	①パネル展示型区民説明会での意見提出 令和7年12月18日(木)～12月20日(土) 10:00～16:00 文京シビックセンター1階アートサロン 来場者 70 名 ②郵送／電子申請／ファクシミリ／都市計画部都市計画課への持参による意見提出
意見提出人数及び件数	①3人 5件（住所の記載がない方も含んでいます） ②7人 26件 <u>合計 10人 31件</u>

■ ご意見に対する区の考え方

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
1-1	パネル展示型区民説明会の開催	<p>こんにちは。いつもお世話になっております。簡条書きで順不同で失礼致します。パネル展示型説明会をアートサロンで開催していただきありがとうございます。とても参加しやすいです。1階でしてくれる所も大変助かります。今後も各課や各取組みで同様に開催されると嬉しいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーの考えに心・情報も含まれると知り勉強になりました。 ・映像もパネルも紙資料も大変見やすく分かりやすいです。 	<p>今後も各課所管の計画についてパブリックコメントを行う際には、今回のような説明会の開催などを含め、わかりやすい計画内容の公表に努めてまいります。</p>	①

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
1-2	福祉避難所に関する情報提供	福祉避難所に変な関心を持っています。精神障害や発達障害の人も避難出来ると良いなあと考えています。情報になかなかたどり着けず、福祉避難所についてもパネル展示型説明会があると嬉しいです。	福祉避難所は、介護を要する高齢者や障害がある方等で、区立小中学校等に設置される避難所の生活に支障が生ずるなど、特別な配慮を必要とする方が対象となります。また、受入対象者については、本人の障害等の状況や心身の健康状態等から区が総合的に判断し、優先順位をつけて福祉避難所へ移動する方を決定します。 福祉避難所については、以下のとおりホームページに掲載しているほか、区が作成する冊子等に情報を掲載しておりますが、引き続き周知に努めてまいります。 https://www.city.bunkyo.lg.jp/b016/p000023.html	①
1-3	支援機器や人的支援	・文京バリアフリー基本構想素案 令和7年 11 月 文京区 P. 56～57 こんなに沢山支援機器がそろえられている事に感謝します。こちらにあげられているバリアフリー福祉機器、人的取組を体験したいです。便利な物が沢山作られています、支援する側も支援される障害者側も「それ」の使い方になれていなかったり「それ」を使ってどう便利になるのか、自分の障害に合う支援なのかが分からない状態と感ずます。なので、実現可能不可能を考えず書くのですがバリアフリー機器体験ツアー学習会質問会等を開催されたら自分の学びにも非常になり助かります。支援する側、される側、使う側、使って貰う側共に学ぶ形とか出来ないでしょうか？あった	素案 P. 56～57 では、区窓口等における情報のバリアフリー推進に係る取組等をお示ししておりますが、バリアフリー福祉機器という点では、障害の特性に応じて多種多様なものがございます。障害福祉課職員も毎年開催される国際福祉機器展等に参加し、見識を深めているところです。こちらの福祉機器展については事前登録制ではありますが、一般・学生の方もご参加いただけるようですので、よろしければ以下の URL をご参照ください。 https://hcr.or.jp/exhibitions/ また、事前連絡が必要ですが、日本点字図書館においては視覚障害のある方のための機器を展示しており、一般の方でもご覧いただけますので、よろし	①

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
		<p>ら良いなあという提案です。色々な所で探していますが見付かりません。</p> <p>それでは、これからもどうぞ宜しくお願い致します。</p>	<p>ければ以下の URL をご参照ください。</p> <p>https://www.nittento.or.jp/</p>	
2	点字ブロックの設置	<p>白山駅（A1 出口）の地上入口へ通じる都道に、誘導点字ブロックがなく、設置を希望します。音声アナウンスもないので、いずれかの設置を検討して欲しいです。特に、点字ブロックの設置を優先して欲しいです。該当箇所は、人通りや自転車がが多く、曲がる位置が分かりづらくなっています。</p>	<p>平成 30 年 3 月に策定した「文京区バリアフリー基本構想重点整備地区別計画【山の手地域（東部・中央・西部）】」において、該当の都道 301 号（白山通り・旧白山通り）は生活関連経路に、白山駅は生活関連施設に設定されており、特定事業（バリアフリー化に関する事業）を進めてまいりました。今回改定する基本構想においても、該当箇所は生活関連施設・経路に設定されているため、いただいたご意見を踏まえ、来年度の地区別計画の改定にあたり、引き続き、施設設置管理者等とバリアフリー化の推進に取り組んでまいります。</p>	①
3	利用者目線での整備	<p>「バリアフリー」は障害者の「移動」を中心に考えられていると思います。（エレベーターの設置、段差をなくす etc）もっとその人の「生活」に目を向けて欲しいと思います。駅で切付を買う、スーパーで置物をする、トイレをつかう、その他、生活に不便を感じる人が多いです。障害者用トイレに小供用イスを置くということがありましたが、トイレが狭くなり、とても不自由です。子供用イスを置くのであればそれなりの広さが必要になると思います。</p>	<p>移動だけでなく、施設の利用においても施設設置管理者等の方々に可能な限り配慮していただきたい事項として、本基本構想（素案）P. 35～53 に「移動等円滑化に向けた配慮事項」を整理しております。来年度の地区別計画の検討の際にも、移動等円滑化に向けた配慮事項を施設設置管理者等へ周知し、これらを踏まえた特定事業（バリアフリー化に関する事業）を定めていただけるよう、働きかけてまいります。</p>	①

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
		<p>又ペーパータオルが手の届かない場所にあたりゴミ箱がとんでもなく遠くに置いてあることは多いです。施設など設計する人は使う人の身になって考えて欲しいです。一度、車イスで生活してみてください。スーパーやコンビニなどの支払いも車イスの人には支払い場所が高すぎてうまくタッチができません。もう一歩すすんで設備の中味についても検討して下さい。</p>	<p>また、利用者目線での施設の課題等を把握するため、来年度に協議会の区民委員や関係団体当事者等の参加のもと、まち歩きワークショップを予定しております。ワークショップでのご意見につきましても、各施設設置管理者等へ共有し、これらを踏まえた特定事業（バリアフリー化に関する事業）を定めていただけるよう働きかけてまいります。</p>	
4	化学物質過敏症患者および香害被害者への配慮	<p>1. 意見提出の趣旨</p> <p>文京区が策定を進めている「文京区バリアフリー基本構想（素案）」は、「共生社会の実現」及び「社会的障壁の除去」を理念として掲げ、ハード・ソフト両面からバリアフリーの推進を図るものとして高く評価します。</p> <p>一方で、本素案においては、化学物質過敏症患者および香害被害者への配慮に関する記載が見当たらず、現実存在する「見えないバリア」が十分に反映されていないと考えます。香料や揮発性化学物質による健康被害は、当事者にとって移動や施設利用、社会参加そのものを困難にする重大な障壁であり、段差や設備不足と同様に、バリアフリー施策の対象として位置づける必要があります。</p> <p>ついては、以下の観点から、本構想への修正・追記を求めます。</p>	<p>化学物質過敏症につきましては、国の「バリアフリー法及び関連施策の在り方に関する検討会」でも同様の意見が挙げられていることを承知しておりますが、化学物質との因果関係や発生のメカニズムがいまだ解明されていない点も多く、今後の研究課題と認識しております。国や都の動向を注視し、情報収集に努めてまいります。</p> <p>また、合理的配慮の提供については、障害者差別解消法に基づき求められるものであり、そのことについては記載しております（素案 P. 56 参照）。</p> <p>なお、香りへの配慮については、区のホームページに掲載し、周知・啓発に努めているところです。</p>	②

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
		<p>2. 香害・化学物質過敏症は「社会的障壁」であることについて</p> <p>化学物質過敏症は、微量の化学物質への曝露により、頭痛、めまい、呼吸困難、吐き気、集中力低下等の症状が生じ、日常生活や社会生活に著しい制限を受ける健康被害です。</p> <p>近年は、合成洗剤や柔軟剤等に使用される香料マイクロカプセル技術の普及により、香料等成分が長時間・広範囲に拡散する状況が生じています。そのほか、公共施設に設置された芳香剤や過剰な抗菌消臭性能をうたった製品、公共施設等における事前告知のない床ワックス塗布、内外装塗装・防水・道路工事、公園等での殺虫剤・除草剤等の使用、人が集まる場所における着衣などからの香料の拡散といった要因により、公的サービスを受けることや外出自体が困難になる事例が増えています。</p> <p>これは個人の嗜好や我慢の問題ではなく、環境側に存在する明確な人為的障壁であり、バリアフリー法が掲げる「社会的障壁の除去」の趣旨に照らしても、配慮が必要な課題であると考えます。</p> <p>3. 公共施設・生活関連施設における具体的な課題</p> <p>文京区内の公共施設や生活関連施設において、以下のような状況が見られます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芳香剤、消臭剤等の設置 		

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
		<ul style="list-style-type: none"> ・清掃や改修等作業における化学物質使用の事前周知不足 ・職員や関係業者、利用者に対する香害についての啓発不足 ・区民などが多く参集する公共施設等における香料等化学物質の充満 ・利用者が有害化学物質を回避するための選択肢がないこと <p>これらは、化学物質過敏症患者や香害被害者にとって、施設等の利用や公的サービスへのアクセスを事実上不可能にする「見えないバリア」となっています。</p> <p>4. 災害時・避難所における深刻な問題</p> <p>本素案では、公立小中学校や福祉避難所を生活関連施設として位置づけていますが、香害・化学物質過敏症への配慮は明記されていません。</p> <p>しかし現実には、香料や有害化学物質が充満した避難所では、避難したくても避難できない、滞在が不可能で健康状態が悪化する、といった事態が生じています。</p> <p>これは「避難所が存在しても利用できない」という、命に関わるバリアであり、災害時のバリアフリーとしても重要な視点です。</p> <p>5. 基本構想への具体的な修正提案</p>		

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
		<p>以上を踏まえ、以下の点を「文京区バリアフリー基本構想（素案）」に明確に位置づけることを要望します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香害・化学物質過敏症を、見えない社会的障壁の一つとして明記すること ・「心のバリアフリーの取組」に、外見から分かりにくい障害・健康被害への理解促進を含めること ・公共施設・生活関連施設において、無香料・低化学物質を原則とする考え方、化学物質使用時の事前周知、合理的配慮としての調整や代替手段を検討・明記すること ・避難所・福祉避難所において、化学物質過敏症の人も利用可能な環境整備を検討すること ・教育啓発特定事業において、香害・化学物質過敏症に関する正しい理解の普及を行うこと <p>6. おわりに</p> <p>香害や化学物質過敏症への配慮は、特定の人のための特別な対応ではなく、誰もが将来当事者になり得る健康・環境問題であり、真の意味でのバリアフリーの一部です。文京区が目指す「だれもが暮らしやすいまち」を実現するため、本構想において、化学物質・香料による見えないバリアへの配慮を明確に位置づけることを強く要望します。いかに追記案を示します。</p>		

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
		<p>【１】用語・考え方に関する追記 （第１章 または 第３章 共通理念部分） ＜追記案＞ ※本構想における「社会的障壁」には、段差や設備等の物理的障壁に加え、化学物質、香料、揮発性物質等の環境要因により、移動、施設利用又は社会参加が困難となる状況を含むものとする。</p> <p>【２】基本方針への追記 第３章 第４節「基本方針」 （２）心のバリアフリーの推進 ＜現行文に追記＞ また、外見からは分かりにくい障害や健康被害についても理解を深め、化学物質過敏症や香害等、環境要因による困難を抱える人々に対する配慮を含めた心のバリアフリーの推進を図る。</p> <p>【３】移動等円滑化に向けた配慮事項への新規項目追加 第５章 第２節「移動等円滑化に向けた配慮事項」 ＜新規項目として追記＞ （新）⑥ 化学物質・香料等に関する配慮 公共施設、生活関連施設及びその管理運営に当たっては、化学物質過敏症等により香料や揮発性化学物質に曝露することで健康被害を受ける人がいることを踏まえ、以下の点に配慮する。</p>		

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
		<p>芳香剤、消臭剤、香り付き製品等については、無香料又は使用しないことを原則とする。</p> <p>清掃、改修、床ワックス、塗装、防虫剤・防カビ剤等の使用に当たっては、事前に実施内容、日時、使用物質等について周知を行うよう努める。</p> <p>可能な範囲で、低化学物質・低刺激性の製品の選択や、換気、作業時間の調整等の配慮を行う。</p> <p>利用者からの申出に応じ、合理的配慮として代替手段や調整を検討する。</p> <p>【４】生活関連施設・避難所に関する追記 第４章 第２節「生活関連施設の設定」 第６章 第３節「その他の取組の推進」 ＜追記案＞</p> <p>災害時においても、すべての人が安全に避難・滞在できるよう、避難所及び福祉避難所の運営に当たっては、化学物質過敏症や香害等への配慮を含めた環境整備の検討を行う。特に、人が集まる空間において香料等が拡散することにより利用が困難となる場合があることから、無香料環境の確保、換気、ゾーニング等の対応について検討する。</p> <p>【５】教育啓発特定事業への追記 第６章 第１節「心のバリアフリーの推進」 ＜追記案＞</p> <p>教育啓発特定事業においては、香害や化学物質過敏</p>		

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
		<p>症に関する正しい理解の促進を図り、これらが個人の嗜好の問題ではなく、健康や生活に重大な影響を及ぼす課題であることについて、職員、事業者及び区民への啓発を行う。</p> <p>【6】情報のバリアフリーへの追記</p> <p>第6章 第2節「情報のバリアフリーの推進」</p> <p><追記案></p> <p>工事、清掃、薬剤散布等に関する情報については、化学物質への配慮が必要な人が事前に判断できるよう、実施内容や時期等の情報提供の充実に努める。</p>		
5	化学物質過敏症患者および香害被害者への配慮	<p>文京区バリアフリー基本構想（案）は、「共生社会の実現」や「社会的障壁の除去」を基本理念として掲げ、障害を個人の問題ではなく、社会や環境の側がつくり出す障壁として捉える「障害の社会モデル」に基づいた構成となっており、その方向性に強く賛同します。</p> <p>一方で、本構想においては、「心のバリアフリー」や「合理的配慮」、「情報のバリアフリー」といった重要な視点が示されているものの、香料や消臭剤、洗剤等に含まれる化学物質により、公共施設や交通機関、イベント等の利用が著しく制限される化学物質過敏症についての言及が見られません。</p> <p>化学物質過敏症は、身体機能の問題ではなく、周囲</p>	<p>化学物質過敏症につきましては、国の「バリアフリー法及び関連施策の在り方に関する検討会」でも同様の意見が挙げられていることを承知しておりますが、化学物質との因果関係や発生のメカニズムがいまだ解明されていない点も多く、今後の研究課題と認識しております。国や都の動向を注視し、情報収集に努めてまいります。</p> <p>また、合理的配慮の提供については、障害者差別解消法に基づき求められるものであり、そのことについては記載しております（素案P.56参照）。</p> <p>なお、香りへの配慮については、区のホームページに掲載し、周知・啓発に努めているところです。</p>	②

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
		<p>の環境に存在する化学物質によって社会参加が妨げられるという点で、まさに「社会的障壁」によって生じる困難であり、本構想が重視する理念と整合的な課題であると考えます。また、外見からは分かりにくく、善意や配慮のつもりで行われている香料や抗菌剤・消臭剤の使用が、結果として利用者の排除につながってしまう点がある点において、「心のバリアフリー」の観点からの啓発が特に重要であると考えます。</p> <p>加えて、化学物質過敏症のある人にとっては、施設や行事を「利用できるかどうか」を事前に判断できる情報提供が不可欠です。清掃や消臭剤、香料使用の有無等を事前に明示することは、大規模な設備改修を伴わない「情報のバリアフリー」であり、過重な負担を伴わずに実施可能な合理的配慮の一例と考えます。特に、災害時の避難所など、代替手段の選択が難しい場面においては、香料や消臭剤等の使用状況に関する事前の情報提供や配慮の有無が、利用の可否を左右する重要な要素となります。</p> <p>つきましては、本構想の中で、見えにくい障害の一例として化学物質過敏症に触れ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員研修や啓発の対象に含めること ・ 合理的配慮の具体例として位置づけること ・ 情報提供の重要性の文脈で明示すること 		

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
		について、ご検討いただきたいと思います。これらの取り組みは、化学物質過敏症を抱える人だけでなく、高齢者、子ども、妊娠中の方など、より多くの区民にとって利用しやすい環境づくりにつながるものと考えます。		
6	化学物質過敏症患者および香害被害者への配慮	<p>香害、「空気のバリアフリー」についても早急に対策をお願いしたいと思います。既に過敏症を発症している方々にとって、タバコは勿論、柔軟剤の香りによって身体が反応してしまい、公共の施設もバスも使えない状況です。また、まだ症状の出ていない人にとっても触れる頻度が高い程、より病気や過敏症を発症しやすくなってしまいます。特に体の小さい子供や赤ちゃん、妊婦さんにとってはより健康への影響が大きく問題だと思えます。</p> <p>タバコや柔軟剤など空気中から吸い込んでしまう化学物質は、健康被害を被るのが使用している本人だけならまだしも、どうしても周りの人達が受動的に吸うことになってしまいます。弱者にとっても安全な空気環境を配慮する必要があると思えます。</p> <p>現状から ベビーカーを押していたり子供と歩く時、前をタバコを吸いながら歩いている人の煙をよけるためには追い抜かなければならず、息を止めて走るのも限界です。電子タバコなら吸って良いと勘違いして</p>	<p>化学物質過敏症につきましては、国の「バリアフリー法及び関連施策の在り方に関する検討会」でも同様の意見が挙げられていることを承知しておりますが、化学物質との因果関係や発生のメカニズムがいまだ解明されていない点も多く、今後の研究課題と認識しております。国や都の動向を注視し、情報収集に努めてまいります。</p> <p>また、合理的配慮の提供については、障害者差別解消法に基づき求められるものであり、そのことについては記載しております（素案 P. 56 参照）。</p> <p>なお、香りへの配慮については、区のホームページに掲載し、周知・啓発に努めているところです。</p> <p>公共の場所における喫煙等につきましては、本区では、喫煙者自らがマナーを守る環境づくりを目指しているため、「文京区公共の場所における喫煙等の禁止に関する条例」では、違反に対する過料の規定はありませんが、是正指導に従わずに、生活環境を著しく害している方に対し、その行為の是正又は中</p>	②

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
		<p>いる人もいますので周知して頂きたいです。他の区のように罰金にすることで効果が出るようであればお願いしたいです。</p> <p>子供が園で着てきた衣類は、毎回どこかの柔軟剤の香りが強く残っています。特に乳幼児の頃は、子供を抱っこしてくれた、おそらく先生のエプロンの柔軟剤の香りが強く残っており、お世話していただいて有難い反面、肌の弱い子供への影響が出ないか心配でした。吸い込んだ香り成分（マイクロカプセル）も体の中に残りやすく、タバコと同じように今後の影響が心配です。タバコの健康被害は有名ですが、柔軟剤（マイクロカプセル化されて香りが残るようになっているもの）からの健康被害はまだ広く知られておらず、周知や配慮が足りておりません。公共の場で香り付き柔軟剤を使った衣類の使用を控えるよう呼びかける掲示物やガイドラインなどで対策をお願いします。</p>	<p>止を勧告することができます。また、その勧告にも従わない場合は、公表することもできるとしております。</p> <p>区としては、引き続き喫煙者自身がマナーを守るという点に重きを置き、路上喫煙の禁止、喫煙マナー向上の周知啓発を粘り強く実施してまいります。</p> <p>いただいたご意見につきましては、今後の施策の参考とさせていただきます。</p>	
7	聴覚障害者等への情報保障	<p>文京区都市計画部都市計画課都市計画担当 ご担当者様 お世話になっております。</p> <p>文京区内の団体「ご近所 de BOSAI」で活動している●●と申します。私は、聴覚障害があります。</p> <p>この度、団体内でこのような意見が上がり、バリアフリーとユニバーサルデザインの観点および障害</p>	<p>区では、聴覚障害者等（区内在住の身体障害者手帳所持者）を主たる構成員とする団体に対し、手話通訳者派遣に係る費用について負担しております。</p> <p>いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>	②

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
		<p>者差別解消法（2016 施行）の観点から下記の通り意見を提出いたします。</p> <p>また、現在の日本では、聴覚障害者に対する情報保障は普及しつつありますが、講座や勉強会、講演会、ワークショップ、体験会などへの情報保障はまだ遅れているのが現状です。当事者のひとりとして、行政と民間、区民が一同にこの課題に向き合い、問題解決に向けた取り組みが進むことを願っています。</p> <p>課題</p> <p>「文京区内で団体が主催して開催する際、手話通訳および文字通訳を派遣した場合、団体側が費用を負担する形になっていること」</p> <p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聴覚障害者が在籍している団体側の金銭的な負担が大きい ・ 聴覚障害者が参加するたびに金銭的な負担が大きいため手話通訳や文字通訳の派遣を断念せざるを得ない状況が発生する ・ 2016 年の障害者差別解消法にて合理的配慮の義務化が導入されたように、我が国でも手話通訳や文字通訳の配置が浸透しつつある。その効果は、聴覚障害者だけではなく、文京区に住む外国人や日本語を勉強されている方、音声の聞き取りに困難がある方、高齢者などにとっても大きな助けに 		

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
		<p>なる。</p> <p>提案</p> <p>「聴覚障害者が在籍する団体においては、文京区に届け出た上で手話通訳や文字通訳などの情報保障に関する費用を全部または一部支援していただく」文京区を拠点に手話通訳や文字通訳の派遣をより普及させ、聴覚障害者に対する合理的配慮が誰にとっても負担ではない社会になることを願っています。</p>		
8	「聞こえ」に関する防災の課題	<p>文京区バリアフリー基本構想（素案）への提言 ― 「聞こえ」に関する防災の課題について―</p> <p>ご近所 de BOSAI ●●● ●●●●●</p> <p>①「聞こえ」に関する課題</p> <p>日本ではこの10年で10～30代の若者の聴力低下が報告されており、加齢による難聴も含め「聞こえにくさ」は誰にとっても身近な課題である。</p> <p>当団体が、2025年12月14日に実施した防災啓発イベントのアンケートでは、災害時に助けが必要な人として「高齢者」「子ども」は多く認識されている一方、聞こえない・聞こえにくい人への配慮は18%にとどまり、地域理解が十分とは言えない。</p> <p>法整備や区施設・職員対応は大きく前進しているが、町会・避難所訓練において文字情報や手話通</p>	<p>本区では、避難所における要配慮者への対応についても、重要な課題の一つと捉えており、ホームページや防災アプリのほか、エリアメール、Lアラート、SNS等、複数のツールを活用し、全ての方に災害情報が確実に届くよう努めております。</p> <p>避難所においても、手話通訳アプリがインストールされたタブレット端末を配備するほか、当事者団体の要望を伺いながら、手書き電光掲示板を全避難所に配備するなど、聴覚障害者に対する情報伝達が確保されるよう取り組んでいるところです。</p> <p>いただいたご意見についても、今後の参考とさせていただきます。</p>	②

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
		<p>訳の導入はほとんど見られず、区民意識が追いついていない。</p> <p>災害直後 72 時間は通訳等の専門支援が届きにくく、情報弱者となるリスクが高い。</p> <p>② 被災地からの教訓</p> <p>「放送が分からず、避難方法・配給情報が得られない」「助けを呼べない」「家族と連絡が取れない」「筆談だけでは必要な情報に届かない」など、命と生活に直結する困難が多数報告されている。</p> <p>能登半島地震のあった石川県では、聴覚障害者を一つの場所に集めて、手話通訳者の常駐や安否確認・集約の仕組みにより、聴覚障害者の孤立防止が比較的円滑に行われた。</p> <p>「やさしい日本語」や図示などの簡素で視覚的な情報は、聴覚障害者にとっても誤解を減らし、迅速な理解に有効である。</p> <p>緊急時に最も頼りになるのは近隣の人であり、平時からの関係づくりと心のバリアフリーが防災力を左右する。</p> <p>③ ご近所 de BOSAI からの提言</p> <p>1. 防災情報の「原則・視覚化」</p> <p>音声情報には必ず文字・手話等の視覚情報両方を入れること。</p>		

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
		<p>防災イベント・訓練への文字情報表示・翻訳対応ディスプレイの無償貸与、遠隔手話通訳の無料派遣、文字修正者派遣の無料派遣。</p> <p>2. 地域訓練・避難所運営への組み込み 町会・自主防災組織に、耳マーク腕章、筆談用具、コミュニケーション支援ボードの貸与。 避難所責任者向けに、聞こえにくい人のニーズ確認・定期相談時間の設置・当事者の役割参加の配慮を明記。</p> <p>3. やさしい日本語と情報リテラシーの普及 自主防災組織向け「やさしい日本語」研修の実施。訓練チラシの作成訓練など。 図・ピクトグラムを用いた避難所掲示の標準化。</p> <p>4. 平時からの連携と教育 聞こえを研究している大学・専門機関・当事者団体と平時から連絡体制を構築。 聴覚障害者と連携し、防災訓練後の改善点の収集・反映を行う機会の創出。 文京区防災アプリに、指さしで意思表示できるコミュニケーション支援ツールと「耳マーク」表示機能を導入。「耳マーク」を誰もが目にするようにすること。</p> <p>5. ご近所の助け合いを可視化 黄色いタオル等の安否確認ツールと、必要な世帯</p>		

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
		<p>には耳マークマグネット等を配布し、近所の連携が命を守ることを周知する。安心して取り組めるように、文京区独自の火事場泥棒対策についての提言を行ない、全区民が参加する必要性を理解できるようにする。防犯・防災の両立を指導。</p> <p>6. 啓発プログラムの活用</p> <p>当団体提供の「クロスロード（ダイバーシティ編）」講習会や、聾者と外国人メンバーが実施するインクルーシブ体験企画を、区の防災啓発事業で採用し多様性を楽しく学べる場を提供する。</p> <p>結びに</p> <p>「聞こえ」への配慮は特定の人のためではなく、誰もが当事者になり得る防災課題です。文京区が掲げる「誰も取り残さない防災」を、地域の訓練と日常の実践に落とし込むことを強く提言します。以上</p>		
9-1	全国の自治体の事例	<p>【総論として】</p> <p>①文京区が「一歩先行く自治体」を目指しているからには、全国の自治体のバリアフリー基本構想や方針、指針等を丁寧にリサーチし、後れを取ることのない構想内容にしていきたい。また、この基本構想においてどの項目・内容が「一歩先行く自治体」のものであると胸を張れるのか、しっかり明示し、区民においても文京区が「一歩先行く自治体」であ</p>	<p>バリアフリー基本構想は、住民の意見等や、それぞれの自治体の特徴を踏まえ作成されていると認識しておりますが、本基本構想も区民の意見等や、区の地域特性を踏まえたものとなっております。</p> <p>多くの自治体が特定の地域を重点整備地区と定めている中、本区は、区全域を重点整備地区と定めていることが大きな特色です。</p>	②

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
		ることをわかるようにしていただきたい。もし、そうした丁寧なりサーチをしない／できない／したくない、区民にわかりやすく丁寧な記載をしない／できない／したくないということであれば、その理由を区民に丁寧に説明し、区民の理解と納得を得る最大限の努力を尽くしていただきたい。		
9-2	名称	①思考停止に陥ったような、これまでの踏襲的な「文京区バリアフリー基本構想」という名称ではなく、より包括的な理念と思想を反映させるために、「『文の京』ユニバーサルデザイン基本構想』とか「『文の京』インクルーシブマスタープラン」といったように、名称自体をアップデートし、区民への訴求力を高める工夫をしていただきたい。実際に、全国の自治体を見渡すと、名称を工夫する動きがあり、区もそうした丁寧なりサーチの労を厭わないでいただきたい。	本基本構想自体の周知につきましても、本区におけるバリアフリーの推進の一環と考えており、平成 28 年 3 月の策定以降現在の名称で区民の皆さまや施設設置管理者等の方々への周知を進めているため、名称の変更は想定しておりません。	②
9-3	目標年次と進捗管理の仕組み	②目標年次と進捗管理の仕組みも、思考停止に陥ったような、これまでの踏襲的な枠組みのままであり、「おおむね 10 年後」と定めています。しかし、社会状況の急激な変化（高齢化や人口構造、多様性の拡大、テクノロジーの急速な進展など）を考慮すると、3～5 年ごとの中間見直しと更新を確実な仕組みとして盛り込むべきであり、ぜひともそうしていただきたい。	目標年次の中間年度にあたる令和 12 年度に中間評価を実施し、必要に応じて見直しを図る予定としております（素案 P. 70 参照）。	②

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
9-4	情報の可視化と公開性の強化、区民参加	③あらゆる情報の可視化と公開性の強化において足りず、整備状況や未整備箇所、優先度、スケジュール、責任主体をはじめとして、区民が理解しやすく分かりやすく飲み込みやすい全く新しい「バリアフリーマップ」の作成や、区HPでの進捗状況の丁寧な公開、「住民が意見を出し、対話をし、熟議できる新たな場の創設」も盛り込んでいただきたい。	「文京区バリアフリー基本構想」について、来年度、特定事業（バリアフリー化に関する事業）を検討し、地区別計画としてとりまとめ、策定・公表する予定です。その中では、具体的な事業の実施時期や実施主体をお示しする予定です。 また、本基本構想の目標として区民参加の機会の充実を図ることとしており、地区別計画の検討や中間評価にあたり、協議会の区民委員や関係団体当事者等の参加のもと、まち歩きワークショップを実施する予定です。	②
9-5	移動等円滑化促進地区と経路	【各論として】 ①この素案では「区のまちづくりの方針を踏まえ」とか「公共交通、道路、公園、建築物など関連施策との整合を図る」とか記載していますが、杉並区のように「移動等円滑化促進地区（またはゾーン）」を基本構想の段階でしっかり定め、区内のどのエリアを優先的に面的整備するかを明記していただきたい。また、将来的な整備対象を施設だけでなく、「経路（歩行経路・交通結節点など）」も対象に含めていただきたい。もし、しない／できない／したくないということであれば、その理由を区民に丁寧に説明し、区民の理解と納得を得る最大限の努力を尽くしていただきたい。	本区では、区内全域を重点整備地区に定めております。移動等円滑化促進地区がバリアフリー化の方針を示すのに対し、重点整備地区はより具体的な特定事業（バリアフリー化に関する事業）も定めるものです。 また、バリアフリー施策の対象となるのは施設（生活関連施設）だけでなく、そこへの経路（生活関連経路）も含まれております（素案 P. 27～30 参照）。	②
9-6	情報提供・	②全国の他の自治体の先進事例と比べると、文京区	本区では、整備に当たり配慮していただきたい事項	②

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
	案内、コミュニケーション支援	<p>の場合、情報提供・案内、コミュニケーション支援の仕組みが弱く、先進事例を見ると公共施設で多言語案内やコミュニケーションボード、視覚／聴覚サポート、アクセス情報の可視化などを導入し、拡充する動きがありますが、文京区の基本構想は周回遅れで、一步も二歩も後れを取っています。文京区においても「案内標識・情報提供の多様化」や「視覚・聴覚障害を持つ人への配慮」「多言語対応」「デジタル／紙両面のバリアフリーマップ整備と公開」をもっともっと盛り込み、例えば区内のあらゆる公共施設、交通施設などに「見やすく／分かりやすいサイン（大きい文字、ピクト・点字、音声、自動読み上げなど）」の表示を促す、あるいは努力目標として義務づけるような施策を加えていただきたい。もし、しない／できない／したくないということであれば、その理由を区民に丁寧に説明し、区民の理解と納得を得る最大限の努力を尽くしていただきたい。</p>	<p>として、移動等円滑化に向けた配慮事項を設定しており、情報提供・案内、コミュニケーション支援に関する事項も含まれております（素案 P.35～53 参照）。来年度の地区別計画の改定にあたり、これらを踏まえた特定事業（バリアフリー化に関する事業）を位置づけていただくよう、施設設置管理者等に働きかけてまいります。</p>	
9-7	誘導基準適合建築物の認定制度	<p>③建築物バリアフリー整備を巡り、国や東京都では、単なる義務的な基準（移動等円滑化基準）に加えて、より高い「誘導基準」に適合した建築物整備を促す認定制度を整えているのに、文京区は無為無策を決め込み、独自のより高水準の「誘導基準」を整えることに背を向けているとしか思えません。基</p>	<p>バリアフリー法第 17 条に基づく特定建築物の認定制度は既に設けられております。</p> <p>なお、本基本構想において、アンケートや地域懇談会等における区民の意見等を踏まえ、移動等円滑化に向けた配慮事項を整理しており、来年度の地区別計画の改定にあたり、これらを踏まえた特定事業</p>	②

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
		本構想の中に、新規建築物・改修建築物に対して、義務的な基準だけでなく「誘導基準」への適合を奨励／促進する枠組みを明記するとともに、区の条例や要綱、基準として「誘導基準適合建築物」の認定制度を導入するよう、せめて検討する旨を盛り込んでいただきたい。もし、しない／できない／したくないということであれば、その理由を区民に丁寧に説明し、区民の理解と納得を得る最大限の努力を尽くしていただきたい。	（バリアフリー化に関する事業）を位置づけていただくよう、施設設置管理者等に働きかけてまいります。	
9-8	民間施設や住宅のバリアフリー化	④商業施設、集合住宅、店舗など民間施設や事業者への働きかけや協力の呼び掛けが総じて弱く、素案は主に公共施設、道路、区施設などに限定しているように映ります。しかし、実際の区民生活に鑑みれば民間施設や住宅のバリアフリー化は極めて重要であり、文京区においても民間建築物や集合住宅、店舗、事業所も含めたバリアフリー促進の項目を目立つように加え、区によるインセンティブ（助成金、容積率緩和、認定制度など）や、事業者・住宅所有者への啓発・支援制度を明記していただきたい。もし、しない／できない／したくないということであれば、その理由を区民に丁寧に説明し、区民の理解と納得を得る最大限の努力を尽くしていただきたい。	民間施設においても特定事業（バリアフリー化に関する事業）を定めた場合は、実施することが法に基づく義務となり、毎年度進捗状況の調査をしております。 なお、本区の住宅のバリアフリー整備に係る助成や店舗における合理的配慮など社会的課題に対する取り組みに係る経費への補助につきましても、引き続き周知に努めてまいります。	②
9-9	継続性と更新	⑤文京区の基本構想においても、モニタリングや区	本区では、「文京区バリアフリー基本構想推進協議	②

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
		<p>民参加、ワークショップなどを含めているものの、いわゆる「継続性」と「更新」の仕組みが限定的となっています。区の職員研修や啓発、心のバリアフリーの取組にとどまらず、「区民や障害のある当事者の参画」「定期的な点検／まち歩き」「対話と意見交換、熟議の場」「改善を確実に行うためのPDCAサイクル」をもっと強調する必要があります。ユニバーサルデザイン点検に主眼を置いた「まち歩き」や、行政と区民、区民同士の対話と熟議を促す「区民ワークショップ」、「障害のある当事者・高齢者・子育て世代などの積極的な参画を促し仕組み」「中立・公平・公正なモニタリングと評価基準の確立及び区民への公開」「改善サイクル（見直し、更新）の詳細を明記」することなどを制度として確立し、区民が主体的に関われる具体的な仕組みを盛り込んでいただきたい。もし、しない／できない／したくないということであれば、その理由を区民に丁寧に説明し、区民の理解と納得を得る最大限の努力を尽くしていただきたい。</p>	<p>会」を設置し、バリアフリー基本構想に基づく地区別計画の策定（Plan）、事業の実施（Do）、評価（Check）、改善（Action）のPDCAサイクルに基づき、バリアフリー基本構想の段階的かつ継続的な発展（スパイラルアップ）を推進することとしております（素案 P.70 参照）。また、区民参加の仕組みとして、来年度の地区別計画の検討や、令和 12 年度の間評価の際に、協議会の区民委員や関係団体当事者等の参加のもと、まち歩きワークショップを予定しており、さらなる改善の提案等を行ってまいります。</p>	
9-10	基本構想の対象者と具体的施策	<p>⑥文京区の基本構想でも「心のバリアフリー」や「人的支援」に言及しているものの、精神障害や発達障害、外国人、高齢認知症者、ベビーカー利用者など、多様なニーズへの配慮や、公共交通利用時の支援（例えばヘルプ体制や多言語対応、事前情報提供な</p>	<p>「高齢者、障害者等」とは、バリアフリー法の解説では、高齢者、障害者（身体障害者・知的障害者・精神障害者・発達障害者を含む、全ての障害者）、妊産婦、けが人などのこととされておりますが、本基本構想では、ベビーカー利用者、子ども連れの人、外</p>	②

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
		ど）はあまり具体化されていないと言わざるを得ません。国のバリアフリー／ユニバーサルデザインの理念において「障害の社会モデル」にしっかり立ち、日常生活全般における「多様性」と「公平性（インクルージョン）」を目指すことが求められているにもかかわらずです。これらの点で、基本構想を大幅に拡充し、身体的な障害だけでなく、知的／精神／発達障害、認知症、後期高齢者、外国人、子育て世代、妊婦、ベビーカー利用者など、移動制約や不便を抱えるあらゆる人を対象とするインクルーシブな定義を明記した上で、「人的支援」「コミュニケーション支援」「地域ボランティア／NPO／民間事業者との協働」「アクセス情報の提供（Web、アプリ、紙）」などを具体的施策として盛り込んでいただきたい。もし、しない／できない／したくないということであれば、その理由を区民に丁寧に説明し、区民の理解と納得を得る最大限の努力を尽くしていただきたい。	国人も移動や施設の利用に制約があることから、対象者に含めて検討を行っております（素案 P.1 参照）。また、対象者の特性を踏まえて、施設整備にあたり配慮していただきたい事項として、移動等円滑化に向けた配慮事項を設定しております（素案 P. 35～53 参照）。	
9-11	生活関連施設・生活関連経路	⑦国の指針を見ると、対象となる「生活関連施設・経路」が網羅され、明示されていますが、文京区の素案は限定的で不足しています。「旅客施設を中心とした地区」にとどまらず、病院、福祉施設、公共施設、公園、商業施設、住宅、道路など、多様な施設や経路を含めることが想定すべきです。素案にお	本基本構想で設定した生活関連施設につきましては、素案 P. 33 の表 7 生活関連施設一覧にお示ししております。生活関連経路につきましては、素案 P. 31 の図 18 重点整備地区図にお示ししております。各生活関連施設・生活関連経路における事業の実施時期や規模、具体的な事業内容につきまして	②

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
		いて対象としている「生活関連施設」や「生活関連経路（歩行経路、交通結節点、公共交通、商店街など）」を全て網羅し、リスト化し、どの施設・経路を優先整備するか、また整備水準やスケジュールの目安を示していただきたい。特に、医療機関、買い物、住居、公共交通、学校、子育て支援施設など、日常生活で利用頻度が高い施設や経路を明確に示していただきたい。もし、しない／できない／したくないということであれば、その理由を区民に丁寧に説明し、区民の理解と納得を得る最大限の努力を尽くしていただきたい。	は、来年度改定予定の地区別計画にお示しする予定です。	
10-1	他自治体の事例	<p>【全体として】</p> <p>（１）全国の自治体を見渡すと、以下のような最新事例があり、文京区として「一步先行く自治体」を目指すのであれば、参考にすべきは参考にし、取り入れるべきは取り入れ、少なくとも後れを取ることのないよう詳細かつ丁寧リサーチし、研究・分析することが欠かせないのに、この基本構想の素案づくりではそれらが蔑ろにされているとしか思えません。</p> <p>■中野区バリアフリー基本構想（改定素案） https://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/machizukuri/toshi/barrierfreekisokoso/bfikenkoukan.files/soan_gaiyouban.pdf</p>	<p>本基本構想におきましても、素案の以下の箇所にご指摘いただいた内容を記載しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的：P. 4 ・ 期間：P. 24 ・ 地区選定：P. 25・26 ・ 施設分類：P. 28・33 ・ 生活関連経路：P. 30・31 ・ ソフト・ハード両面の施策：P. 34～68 ・ モニタリング体制：P. 70 <p>また、庭園における整備が難しい場合の対応や悪路対応車いすの貸出など具体的な配慮事項について素案 P. 35～53 に記載しております。</p>	②

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
		<p>■杉並区バリアフリー基本構想 https://www.city.suginami.tokyo.jp/s092/6223.html https://www.city.suginami.tokyo.jp/documents/6223/barrierfree-kihonkousou-r5-2-pdf.pdf</p> <p>■台東区バリアフリー基本構想改定（計画期間は令和4年度から13年度の10年間です） https://www.city.taito.lg.jp/kenchiku/toshikeikaku/keikaku/kotsubarrier-free/20221001.files/honpen.pdf</p> <p>■目黒区交通バリアフリー推進基本構想の改定 https://www.city.meguro.tokyo.jp/toshikeikaku/kusei/keikaku/bariafurikihonnkousoukaitei.html</p> <p>■姫路市バリアフリー基本構想の改定（令和7年3月） https://www.city.himeji.lg.jp/sangyo/0000006953.html</p> <p>■奈良市バリアフリー基本構想（令和6年度改定／令和7年度改定） https://www.city.nara.lg.jp/soshiki/172/8070.html</p> <p>これらはあくまで一例ですが、例えば中野区では「移動等円滑化促進方針」や「心のバリアフリー」</p>		

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
		<p>を明確な形で取り入れ、構想の「目的」「期間」「地区選定」「施設分類」「生活関連経路」「ソフト & ハード両面の施策」「モニタリング体制」を網羅していて、これにより「誰もが利用しやすいまち」「継続的改善」の方向性が明確になり、区民の理解と納得を得られるやすくなっています。</p> <p>例えば奈良市の最近の改定では、重点整備地区の見直しに加え、歴史的建造物や観光施設など、バリアフリー化が難しい施設に対する配慮や、「ソフト面・代替手段・創意工夫」の重要性を認め、事例集を作成しています。これにより、バリアフリーの裾野を広げ、単なる設備改修に留まらない包括的な取り組みを実現しており、文京区も断じて後れを取ることのないようにしていただきたい。</p>		
10-2	バリアフリー化が難しい施設	<p>（２）文京区は古い建物や歴史的建築、密集した住宅地が多い地域であるにもかかわらず、歴史的建造物・難整備施設への多角的な配慮やアプローチが足りないと言わざるを得ません。「バリアフリー化が難しい」という理由から除外や後回しにするのではなく、代替策や創意工夫、柔軟な対応が必要であり、「困難施設の扱いに関する方針」を盛り込み、例えば歴史建築物や密集地の公営施設に対しては「情報提供・案内整備」「段差のない出入口」「仮設スロープ」「サポートスタッフ配置」「利用時間、利用</p>	<p>素案 P. 35～53 にお示ししている移動等円滑化に向けた配慮事項では、ハード・ソフト両面に関する事項を設定しております。こちらの内容を踏まえたうえで、ハード整備によるバリアフリー化が困難な施設につきましても、ソフト施策による取組を推進していただけるよう、来年度の地区別計画の改定にあたり、各施設設置管理者等の方々に働きかけてまいります。</p>	②

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
		方法の工夫」など、ソフト面を充実させた柔軟な対応を併記し、困難施設での先進事例集も参考として盛り込んでいただきたい。これらを盛り込むためには、全国の自治体の事例を愚直に調べ上げねばならず、文京区においてはそのための努力が足りず、安直過ぎます。		
10-3	横浜市の事例	<p>【個別の項目】</p> <p>（１）横浜市の「ユニバーサルデザインまちづくり推進計画」を参考に、文京区においても区民参画型ワークショップによる課題の抽出や解決策の模索を基本構想に盛り込んでいただきたい。また、ＩＣＴ活用による情報バリアフリーの強化について、もっと詳細かつ具体的に、先進的な事例を参考事例として盛り込んでいただきたい。行政と民間事業者との連携による公共空間の段階的なバリアフリー化のモデルケースも載せていただきたい。</p>	<p>本基本構想の改定にあたり、協議会の区民委員や関係団体当事者等の参加のもと地域懇談会を実施しており、課題の抽出やそれに対する解決策の一案として、移動等円滑化に向けた配慮事項を設定しております（素案 P. 35～53 参照）。</p> <p>ICT の活用による情報バリアフリーの推進については、区議会でのリアルタイム字幕システムの導入や窓口への音声を変えて文字にする透明ディスプレイの設置など写真付きで掲載しております（素案 P. 51、56、57 参照）。</p> <p>また、民間の生活関連施設も含んだ重点的かつ一体的なバリアフリー化の実現に向けた「文京区バリアフリー基本構想」の進捗管理として、毎年度進捗状況の概要をまとめてホームページにて掲載しており、進捗状況の概要には主な完了事業を写真付きで紹介しております。来年度改定予定の地区別計画の内容も踏まえ、バリアフリー基本構想の段階的かつ継続的な発展（スパイラルアップ）を推進してまい</p>	②

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
			ります。	
10-4	神戸市の事例	（２）神戸市の「誰もが使いやすい都市づくり基本方針」を参考に、文京区においても障害のある当事者によるモニタリング制度を導入したり、バリアフリー評価指標の定量化を試みたりしていただきたい。また、多言語対応とインクルーシブデザイン重視も前面に打ち出していきたい。	本区においても、本基本構想策定時や改定時において、協議会の区民委員や関係団体当事者等の参加のもと、まち歩き点検等のワークショップの実施や、事業の進捗率を整理したうえで、最終評価などを行っており、今後も引き続き取り組んでまいります。区民アンケートや地域懇談会でのご意見を反映した移動等円滑化に向けた配慮事項に多言語対応について記載しております。 また、本基本構想においては、高齢者、障害者団体や区民公募委員等の多様な当事者の方々からのご意見を伺っており、インクルーシブデザインの考え方を踏まえて改定に向け検討を行っております。	②
10-5	福岡市の事例	（３）福岡市の「バリアフリー推進条例」を参考に、文京区においても条例による民間施設への改善義務化を検討していただきたい。バリアフリー化の定期的な進捗状況の公開と、区民意見を定期的に集め、それらを確実に反映させる仕組みを整えていただきたい。	本区内の一定規模以上の建築物や、特定の用途に供される建築物については、東京都の「建築物バリアフリー条例」及び「東京都福祉のまちづくり条例」によりバリアフリー化を義務付けられております。また、バリアフリー基本構想の特定事業（バリアフリー化に関する事業）の進捗状況は、毎年度調査し、区のホームページで公開しております。 区では、区民委員を構成委員とする「文京区バリアフリー基本構想推進協議会」を設置しており、バリアフリー基本構想に基づく地区別計画の策定から評価・改善までをPDCAサイクルで推進することで、	②

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
			区民意見も踏まえ、段階的かつ継続的な発展（スパイラルアップ）を図っております。（素案 P.70 参照）。	
10-6	区民参加	（４）素案では「地域住民と協働し、課題を把握する」と記載されているところ、区民参加が限定的であり、具体的な参加方法も曖昧であるため、 「区民参画型ワークショップの開催や区民アンケート等を定期的に実施し、多様な区民の意見・要望・アイデアを確実に反映する仕組みを導入する」ことを明記していただきたい。	これまでの本基本構想の策定や改定にあたっては、協議会の区民委員や関係団体当事者等の参加のもと、まち歩き点検等のワークショップや区民アンケートを行うことで、多様なご意見の反映に努めてまいりました。今後も引き続き、取り組んでまいります。	②
10-7	民間施設への働きかけ	（５）素案では「公共施設・交通機関の段差解消を推進する」とあるところ、民間施設への働きかけが総じて弱く、条例等による義務化の動きが足りません。「民間施設に対してもバリアフリー化を推進し、条例制定などによる義務付けを検討する」ことを基本構想に盛り込み、基本構想を机上の空論で終わらせず、実効性と実現性を上げる努力をしていただきたい。	特定事業（バリアフリー化に関する事業）の対象施設である生活関連施設として、大規模小売店舗や宿泊施設などの民間施設も定めており、来年度の地区別計画の改定にあたり具体的な特定事業（バリアフリー化に関する事業）を設定いただけるよう働きかけてまいります。	②
10-8	当事者参画、評価指標	（６）「啓発活動や職員研修を行う」とはしているものの、障害のある当事者の参画や評価指標の設定がないため、「障害のある当事者を含むモニタリング制度の導入及びバリアフリー評価指標の策定・公開を行う」ことを盛り込んでいただきたい。	評価指標に関しては、来年度改定予定の地区別計画において、現行計画と同様に具体的な特定事業（バリアフリー化に関する事業）等と実施時期を明確化する予定です。 また、本区においても、本基本構想策定時や改定時において、協議会の区民委員や関係団体当事者等の	②

No.	項目	ご意見（原文）	区の考え方	提出方法
			参加のもと、まち歩き点検等のワークショップの実施や、事業の進捗率を整理したうえで、最終評価などを行っており、今後も引き続き取り組んでまいります。	
10-9	情報提供強化	（７）高齢者・障害者向け案内表示を整備促進の観点で、多言語対応やＩＣＴ活用、情報バリアフリーの観点の言及が足りないので、「多言語・ユニバーサルデザイン対応案内表示、およびＩＣＴ（Ｗｅｂサイト・アプリ等）による情報提供強化」を盛り込んでいただきたい。	本区では、整備にあたり配慮していただきたい事項として、移動等円滑化に向けた配慮事項を設定しており、情報提供・案内、コミュニケーション支援に関する事項も含まれております（素案 P. 35～53 参照）。来年度の地区別計画の改定にあたり、これらを踏まえた特定事業（バリアフリー化に関する事業）を位置づけていただくよう、施設設置管理者等に働きかけてまいります。	②
10-10	地域住民との協働	（８）地域住民との協働で課題を把握することが極めて大切なのに、進捗状況の公開や区民意見の反映機能が弱いと言わざるを得ず、「施策の進捗状況を定期的に公開し、区民からのフィードバックを反映する体制を整備する」旨を盛り込んでいただきたい。	本区では、「文京区バリアフリー基本構想推進協議会」を設置し、バリアフリー基本構想に基づく地区別計画の策定（Plan）、事業の実施（Do）、評価（Check）、改善（Action）の PDCA サイクルに基づき、バリアフリー基本構想の段階的かつ継続的な発展（スパイラルアップ）を推進することとしております（素案 P. 70 参照）。また、区民参加の仕組みとして、来年度の地区別計画の検討や、令和 12 年度の間接評価の際に、協議会の区民委員や関係団体当事者等の参加のもと、まち歩きワークショップを予定しており、さらなる改善の提案等を行ってまいります。	②

区立小中学生へのアンケート調査結果

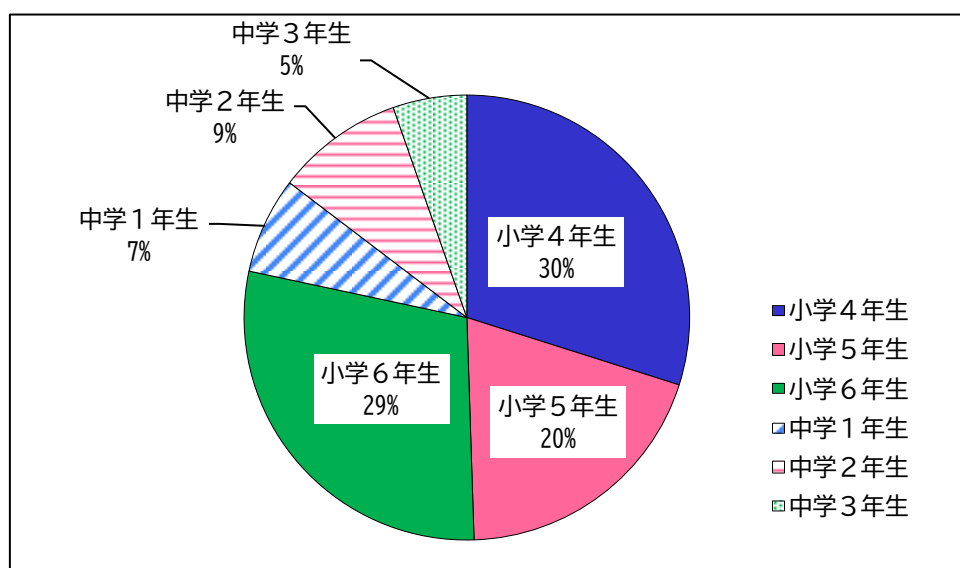
■ 調査の概要

件名	文京区のバリアフリーについてのアンケート
調査期間	令和7年12月5日(金)～令和8年1月5日(月)
調査対象	・区立小学校の小学4年生から小学6年生の児童 ・区立中学校の中学1年生から中学3年生の生徒
調査方法	文京区バリアフリー基本構想(素案)の子ども向け周知用動画を配信し、動画視聴後、Webアンケートフォームへの回答を依頼
調査項目	①該当学年 ②高齢者、障害者等のためにまちにあるとよい工夫 ③動画を見た感想
回答数	485件

■ 調査結果の概要

① 該当学年 (n=485)

No.	項目	回答数
1	小学4年生	145
2	小学5年生	95
3	小学6年生	140
4	中学1年生	34
5	中学2年生	45
6	中学3年生	26

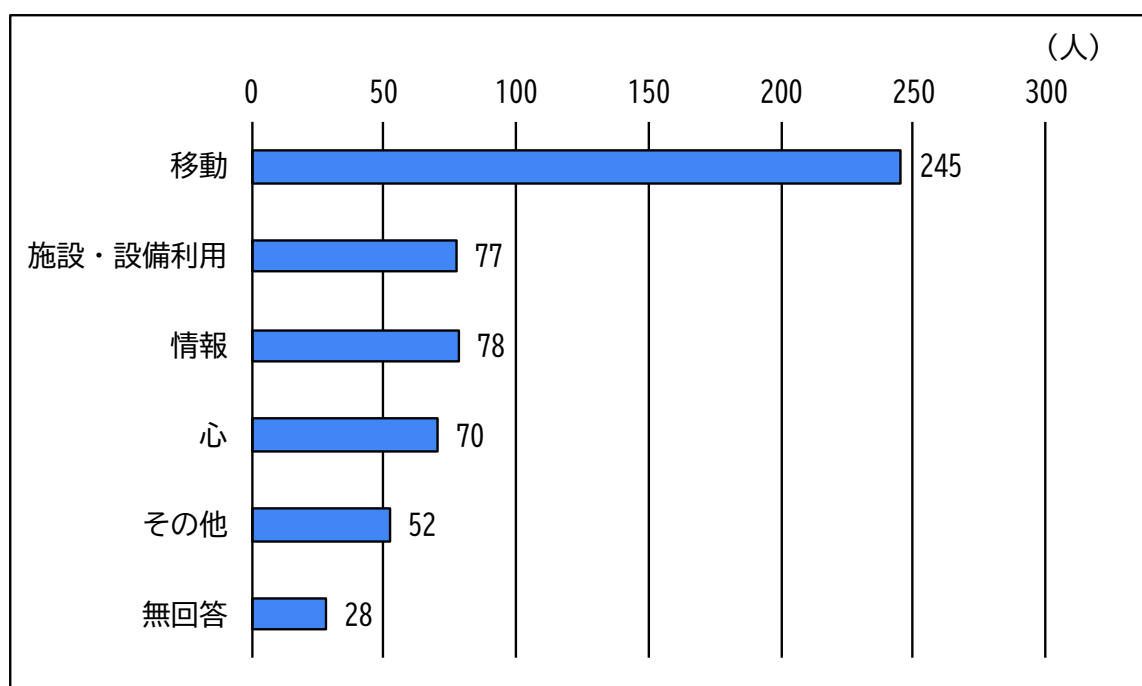


② 高齢者、障害者等のためにまちにあるとよい工夫 (n=485)

No.	項目	回答数	主な意見内容
1	移動 道路、駅、電車、バス、段差、坂、信号など移動に関する内容	245	<ul style="list-style-type: none"> ・通りやすいように道を広げる。 ・歩道を広くしたり、ガードレールがあると安心して暮らせるかと思う。 ・歩道の段差や傾きをなくす。信号が青になると音が鳴る装置を増やす。階段の手すりを設置する。 ・信号に音をつけたほうがいいと思う。 ・藤坂などの急な坂に手すりが付いていないから手すりを付ける。 ・暗闇坂にエスカレーターが欲しい。 ・階段だけではなく、スロープをいろんなところに設置したりすると暮らしやすくなると思う。 ・階段をエレベーターにすればよい。 ・千駄木などは道が狭い地域が多く、自転車と歩行者の距離が近くなってしまい危険なので、それを解決すれば良いと思う。 ・歩道では自転車が通るので危ない。だから自転車だけが通る道を作ると良いと思う。 ・お年寄りや障害者のために車椅子用のタクシーや、あまり遠回りにならないように専用の近道を作ったりすると思う。
2	施設・設備利用 建物、施設、公園、トイレ、エレベーター等の利用に関する内容	77	<ul style="list-style-type: none"> ・エレベーターやエスカレーターを増やしたり、お店では座敷だけではなくテーブル席も用意したりすると思う。 ・お店に入るときの段差をなめらかなスロープなどに変えたとお年寄りや車いすもお店に入りやすいと思う。 ・バリアフリーの自動販売機が少なかったり、お店のレジが狭くて通れなかったりするから、車いすの人でも過ごしやすい工夫が必要だと思う。 ・いちいちエレベーターに乗らなくてもいいように、ベビーカーも車いすもショッピングカートも乗れるエスカレーターを設置する。 ・エレベーターに車椅子が入りやすいようになるべく鏡を設置するのがいいと思う（閉所恐怖症の人のためにも）。 ・学校にも誰でもトイレを設置する。 ・公園にバリアフリートイレを増やす。 ・動画で紹介されていた取り組みをもっと広い範囲に増やす。

No.	項目	回答数	主な意見内容
3	情報 案内、地図、 点字、音声、 分かりやすさ等 の情報に関する 内容	78	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンなどで、すぐに駅の構造や施設の地図などが見られるようにすればいい。 ・点字ブロックをもっとつける。 ・橋とかにも点字ブロックがあると良いと思う。いつも橋で困っている人を登校中に毎日見かける。 ・外国人のために、エレベーターの音声案内は日本語が流れたら、次に英語を流れるようにする。 ・物事を文字や音で表したり、外国語表記にする。 ・眼鏡をかけたら文字がレンズに映る眼鏡があり、自分がしゃべったことや相手がしゃべったことを翻訳してくれる。
4	心 助け合い、 思いやり、 声かけ、理解、 配慮など人の 意識・行動	70	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの人たちが年寄りや障害がある人たちを助ける。 ・電車やバスの席を譲る。 ・障害がある人に坂を上るのを手伝ったりしたらいいと思う。 ・点字ブロックの上に物などを置かないようにする。 ・子どもたちや大人たちなど、年齢差関係なく障害について学ぶ機会を作る。 ・小学校全体で手話を習えばいいと思う。 ・障害がある人はそれぞれのマークを付けた方がいいと思う。
5	その他	52	<ul style="list-style-type: none"> ・動画で紹介されていた取り組みをもっと広い範囲に増やす。

※複数の項目に該当する意見があったため、回答数の合計と回答者数は一致しません。

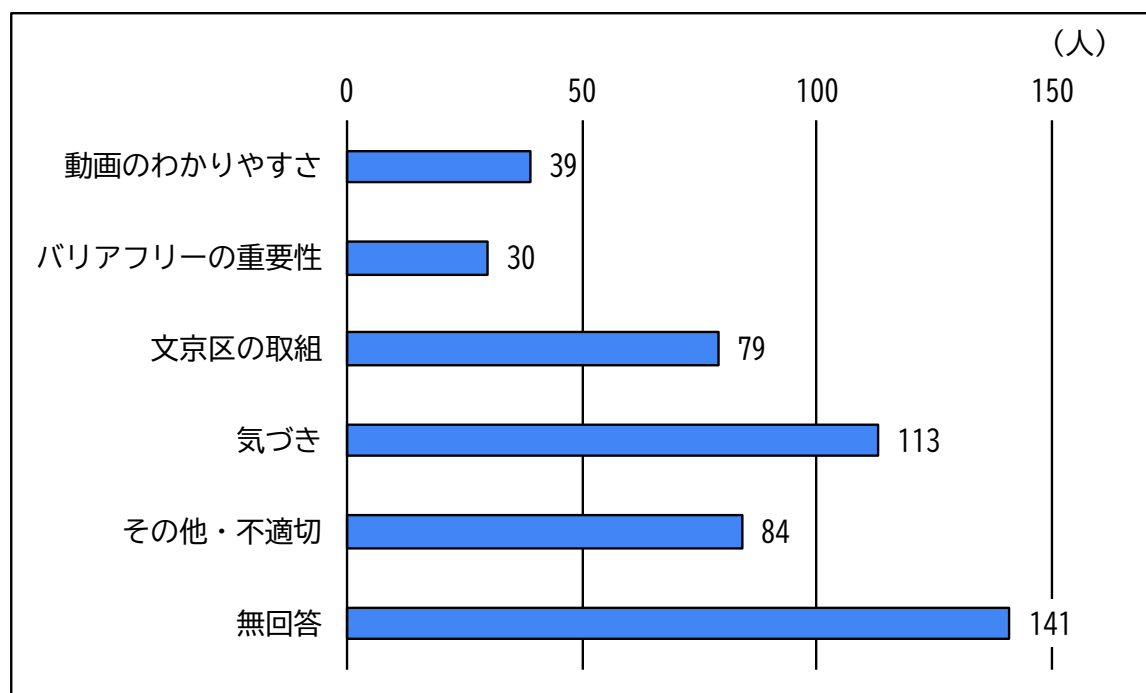


③ 動画を見た感想 (n=485)

No.	項目	回答数	主な意見内容
1	動画のわかりやすさ	39	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな施設や場所が、いろいろな方法でバリアフリーの工夫をしているということが分かりやすく説明されていたと思う。 ・ 具体例の画像がたくさんあって分かりやすかった。 ・ 少し長いので短い動画にしてほしい。 ・ もっと分かりやすく伝えたほうがいい。僕には分かりにくかった。 ・ バリアフリーの設備がある駅を見たことがあるが、その時は何のためにあるのか分からなかったけど、今日、動画を見てからその理由が分かりすぎいいと思った。
2	バリアフリーの重要性	30	<ul style="list-style-type: none"> ・ バリアフリーは、大切だと言うことが分かった。 ・ 障害者に対する理解を大切にしようと思った。 ・ いろんな人が安心して生活できる環境はいつでも必要だと思った。 ・ 電車で駅の表示が外国に配慮しすぎて日本語の表示が本当に一瞬となっていたりするので外国に配慮するのもいいけど、日本人含めた全員に配慮された空間がいいと思う。 ・ 今自分は健康に便利に暮らせているが自分もいつかはお年寄りになるし、事故で障害者になる可能性もあるからこそこういう場合でちゃんとした意見を出すべきだし、今の自分にもできることをやっていきたいと思う。 ・ 聴覚障害者の妹が困っていることは、電車の遅延の放送などが聞こえないことです。なので電車内や駅などでデジタルの文字が出てくるパネルなどを見えやすい所に設置してほしいです。(全車両に)
3	文京区の取組	79	<ul style="list-style-type: none"> ・ 467 事業もバリアフリーを実現するために実施していたなんて知らなかったし、こんなにも身近なところで文京区が工夫していることにとっても感心した。バリアフリーはユニバーサルデザインにも通ずるところがあるので、文京区民がより住みやすい街になると思う。 ・ いろいろなところにバリアフリーの工夫がされていて、これからも増えて欲しいと思った。 ・ 今まで取り組んだバリアフリー化もすごいのに、プラスに外国人のために英語をしゃべる機械を取り

No.	項目	回答数	主な意見内容
			<p>付けたり、もっと、体に障害がある人のためにもっと暮らしやすいようにしていることにとても、おどろいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とてもいい取り組みだと思う。バリアフリーだけでなく人々自身に呼びかけるための対策をしているのありがたいと思う。 ・文京区が区民の意見を聞いてくれていることを初めて知った。ありがとうございます。
4	気づき	113	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーにも様々な種類があって、心のバリアフリーや情報のバリアフリーがあることを初めて知った。 ・バリアフリーのためには周りの人の協力が必要なが分かった。 ・自分も、電車で障害者や妊娠している人を見かけたときには席を譲ろうと思った。 ・しょうがいの社会モデルをはじめて知りました。 ・実際にできることがどのくらいあるかを考えさせられた。 ・将来、バリアフリーのために、少しだけでも考えてみたくなりました。
5	その他	84	<ul style="list-style-type: none"> ・とてもすごいと思った。 ・面白かった。

※複数の項目に該当する意見があったため、回答数の合計と回答者数は一致しません。



文京区バリアフリー基本構想

案

下線部は素案からの変更箇所を示しています。

令和8(2026)年1月



目次

1 策定の背景	1
1.1 バリアフリー基本構想とは	1
1.2 背景と目的	4
1.3 区の概況	5
2 バリアフリー基本構想の改定方針	13
2.1 旧基本構想の最終評価	13
2.2 改定方針	21
3 バリアフリー基本構想の基本的な考え方	23
3.1 計画の位置づけ	23
3.2 目標	23
3.3 目標年次	24
3.4 基本方針	24
4 重点整備地区の設定	25
4.1 重点整備地区の設定	25
4.2 生活関連施設及び生活関連経路の設定	27
5 移動等円滑化に関する事項	34
5.1 移動等円滑化に関する主な基準等	34
5.2 移動等円滑化に向けた配慮事項	35
6 心のバリアフリー・情報のバリアフリー等の推進	54
6.1 心のバリアフリーの推進	54
6.2 情報のバリアフリーの推進	56
6.3 その他の取組の推進	58
7 地区別計画に関する基本方針	59
7.1 都心地域	59
7.2 下町隣接地域	61
7.3 山の手地域東部	63
7.4 山の手地域中央	65
7.5 山の手地域西部	67
8 バリアフリー基本構想の実現に向けて	69
8.1 地区別計画の策定	69
8.2 バリアフリー基本構想の進行管理	70

参考1	文京区バリアフリー基本構想推進協議会	設置要綱.....	71
参考2	文京区バリアフリー基本構想推進協議会	委員名簿.....	73
参考3	文京区バリアフリー基本構想推進協議会	幹事名簿.....	74
参考4	検討経緯.....		75
参考5	アンケート調査.....		76
参考6	地域懇談会.....		92
参考7	用語解説.....		97

1.1 バリアフリー基本構想とは

バリアフリー基本構想とは、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（以下、バリアフリー法）」第25条に基づき、区市町村が定める計画です。

バリアフリー法では、「共生社会の実現」及び「社会的障壁の除去」の基本理念が示され、高齢者、障害者等の移動や施設利用における利便性と安全性の向上を目指して、公共交通機関や建築物等のバリアフリー化を促進することとしています。

具体的には、新設・改修される旅客施設、車両等、道路、路外駐車場、都市公園及び建築物に対する移動等円滑化基準への適合義務や、既存施設に対する移動等円滑化基準への適合努力義務、バリアフリー基本構想制度を活用した地域におけるバリアフリー化の推進などについて定められています。

※「高齢者、障害者等」とは、バリアフリー法の解説では、高齢者、障害者（身体障害者・知的障害者・精神障害者・発達障害者を含む、全ての障害者）、妊産婦、けが人などのこととされていますが、ベビーカー利用者、子ども連れの人、外国人も移動や施設の利用に制約があることから、文京区バリアフリー基本構想では、対象者に含めて検討を行いました。

高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律の概要

※法改正の内容について、**橙字**は旧基本構想の策定後に施行された内容です。

1. 基本理念

バリアフリー法に基づく措置は、「共生社会の実現」「社会的障壁の除去」に資することを旨として行われなければならないことを基本理念として明記

2. 国が定める基本方針

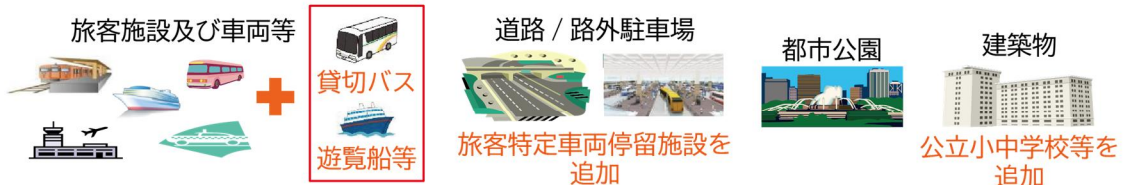
- 移動等円滑化の意義及び目標
- 施設設置管理者が講ずべき措置
- 移動等円滑化促進方針（マスタープラン）の指針
- その他移動等の円滑化の促進に関する事項
- バリアフリー基本構想の指針
- 国民の理解の増進及び協力の確保に関する事項
- 情報提供に関する事項

3. 国、地方公共団体、施設設置管理者、国民の責務

4. 公共交通施設や建築物等のバリアフリー化の推進

- ハード面の移動等円滑化基準の適合については、新設等は義務、既存は努力義務
- 新設等・既存にかかわらず、基本方針において各施設の整備目標を設定し、整備推進
- 各施設設置管理者に対し、**情報提供、優先席、車椅子用駐車施設等の適正利用推進のための広報・啓発活動の努力義務**
- 公共交通事業者等に対し、以下の事項を義務・努力義務化
 - ・旅客施設等を使用した役務の提供の方法に関するソフト基準の遵守（新設等は義務、既存は努力義務）
 - ・他の公共交通事業者等からの協議への応諾義務
 - ・旅客支援、職員に対する教育訓練の努力義務
 - ・ハード・ソフト取組計画の作成・取組状況の報告・公表義務（一定規模以上の公共交通事業者等）

【バリアフリー化基準適合義務の対象施設】



5. 地域における重点的・一体的なバリアフリー化の推進

- ・市町村が作成する**マスタープラン**やバリアフリー基本構想に基づき、地域における重点的かつ一体的なバリアフリー化を推進
- ・基本構想には、ハード整備に関する各特定事業及び「**心のバリアフリー**」に関する**教育啓発特定事業**を位置づけることで、関係者による事業の実施を促進（マスタープランには具体の事業について位置づけることは不要）
- ・定期的な評価・見直しの努力義務

6. 当事者による評価

- ・高齢者・障害者等の関係者で構成する会議を設置し、定期的に、移動等円滑化の進展の状況を把握・評価（移動等円滑化評価会議）

（国土交通省資料から作成）

図 1 バリアフリー法の概要

バリアフリー基本構想制度は、高齢者、障害者等が利用する施設が集積し、その間の移動が通常徒歩で行われる地区（重点整備地区）において、重点的かつ一体的なバリアフリーを推進することをねらいとしており、これによりだれもが暮らしやすいまちづくりを進めることにつながります。

バリアフリー基本構想では、表 1 に示す内容を明示することが定められています。本区ではこれに基づき、平成 27 年度に「文京区バリアフリー基本構想」（以下、旧基本構想）を策定しました。

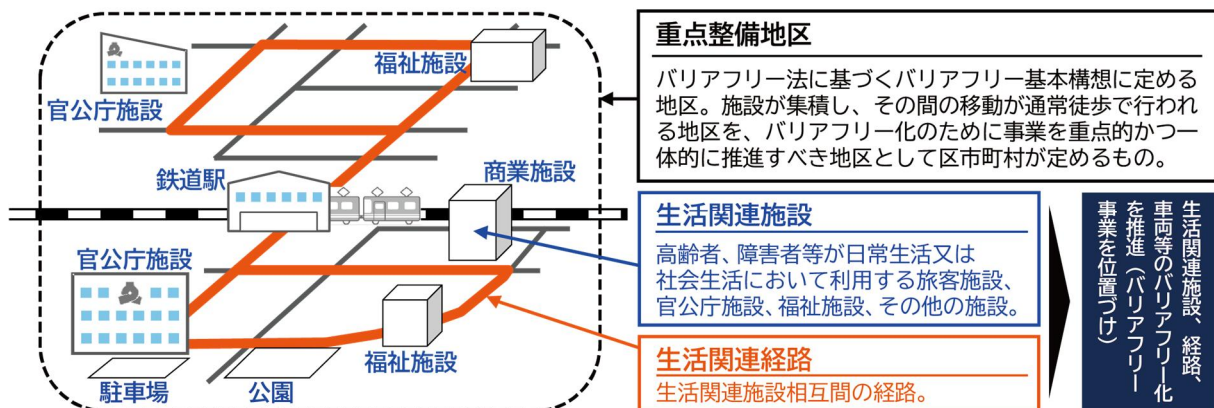


図 2 バリアフリー基本構想制度のイメージ

表 1 バリアフリー基本構想で定める事項

項目	内容
①重点整備地区における移動等円滑化の基本方針	バリアフリー基本構想作成の背景・理由や移動等円滑化の基本的な考え方など
②重点整備地区の位置・区域	重点整備地区の範囲や境界設定の考え方など
③生活関連施設・生活関連経路とこれらにおける移動等円滑化に関する事項	生活関連施設・生活関連経路の選定や施設の整備方針など
④実施すべき特定事業その他の事業に関する事項	公共交通・道路・路外駐車場・都市公園・建築物・交通安全・教育啓発特定事業、その他事業
⑤その他の事項	ソフト施策（心のバリアフリーの推進、情報提供、マナーの向上等）、地域特性に応じた施策、バリアフリー基本構想作成後の事業推進方法等についてなど

1.2 背景と目的

平成 27 年度に策定した旧基本構想では、「点から面へ、みんなの心へ、バリアフリーの輪を広げよう」の目標のもと、10 年後の令和 7 年度を目標年次として取組を進めてまいりました。

区全体に共通するバリアフリー課題や、地域特性を踏まえた構想とするため、文京区都市マスタープランに示す 5 地区（都心地域、下町隣接地域、山の手地域東部、山の手地域中央、山の手地域西部）それぞれをバリアフリー法に基づく重点整備地区（図 3）に設定し、移動等円滑化に向けた配慮事項や、重点整備地区別の基本方針を設定しました。

平成 28 年度及び平成 29 年度には、取組を具体化するため、バリアフリー化のために実施する事業（特定事業）を重点整備地区別にとりまとめた重点整備地区別計画（以下、地区別計画）を策定し、事業を実施してきました。

その後、継続的に事業の進捗を確認するとともに、目標年次である令和 7 年度には旧基本構想の評価を行い、さらなるバリアフリー化の促進に向けて、バリアフリー基本構想を改定しました。

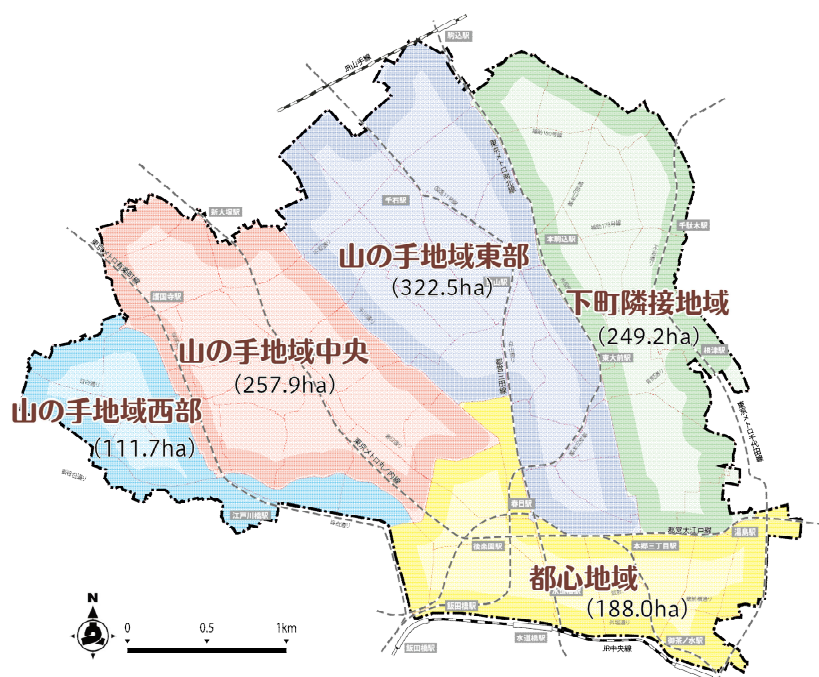


図 3 重点整備地区（5 地区）

表 2 検討経緯

時期	内容
平成 18 年 12 月	○バリアフリー法の施行
平成 28 年 3 月	○文京区バリアフリー基本構想の策定
平成 29 年 3 月	○文京区バリアフリー基本構想 重点整備地区別計画 【都心地域・下町隣接地域】の策定
平成 30 年 3 月	○文京区バリアフリー基本構想 重点整備地区別計画 【山の手地域（東部・中央・西部）】の策定
平成 30 年度～ 令和 7 年度	○事業の進捗状況の確認・公表（毎年度） ○バリアフリー法の改正（平成 30 年 11 月から順次施行） ○文京区バリアフリー基本構想 中間評価の実施（令和 2～4 年度）
令和 7 年度	○文京区バリアフリー基本構想 最終評価の実施・改定

1.3 区の概況

1.3.1 立地と面積、地形

本区は、東京都の区部（23区）の中心地近くに位置し、千代田区、新宿区、豊島区、北区、荒川区、台東区の6つの区と接しています。地下鉄駅が区内に高密度に配置されていることから、東京駅、池袋駅、新宿駅等のターミナル駅へのアクセスが良好な点が特徴となっています。

面積は11.29 km²で、東京23区の1.8%を占めています。

地形については、本区は武蔵野台地の東端部に位置し、台地と低地が複雑に入り組む起伏に富んだ地形が特徴です。台地の尾根筋と谷には主要な道路が配置され、その沿道は、商業・業務施設とマンション等の立地が多くなっています。台地上にあるかつての大名屋敷跡地は、大学のキャンパスや大規模緑地として利用されているほか、良好な低層住宅地となっています。また、その他の台地上及び斜面地は、おおむね低層住宅が中心となった土地利用となっていますが、中には住環境・防災面で課題を有する地域がみられます。一方、低地部においては中小の工場の集積がみられ、台地上の住宅地と比較すると密集した市街地となっています。

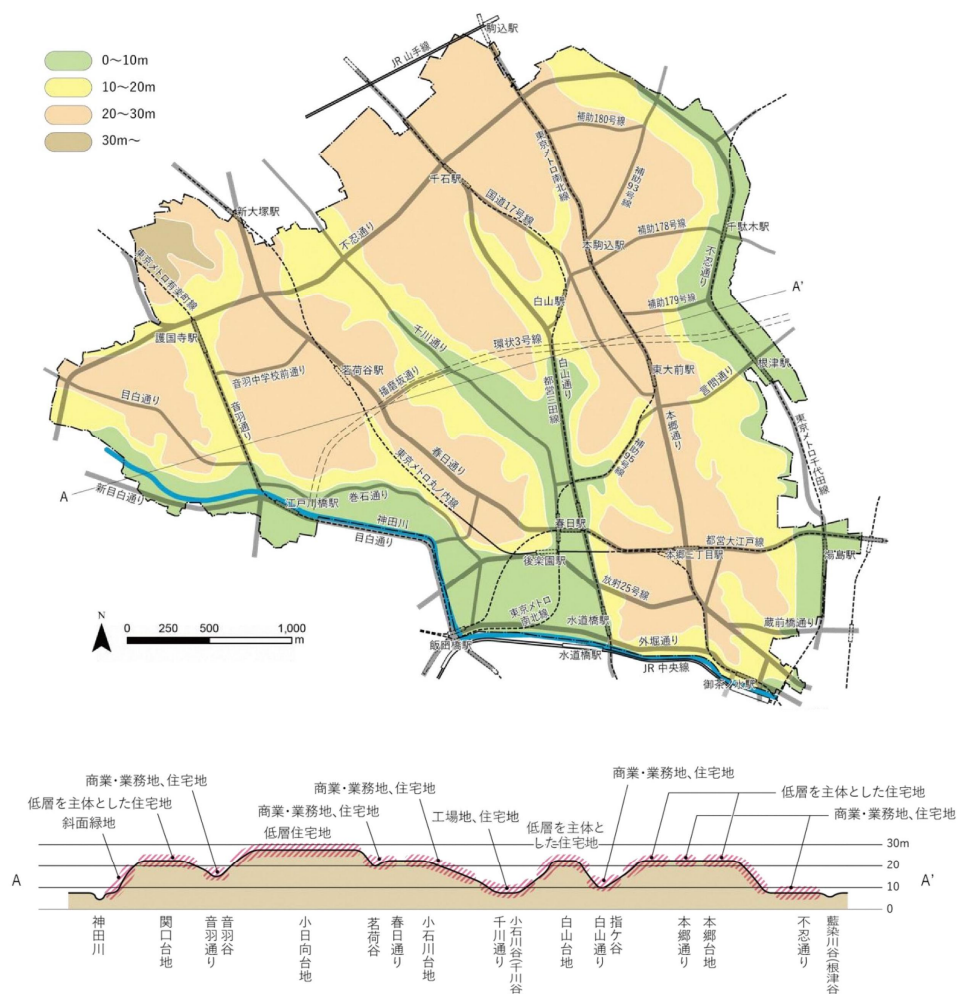
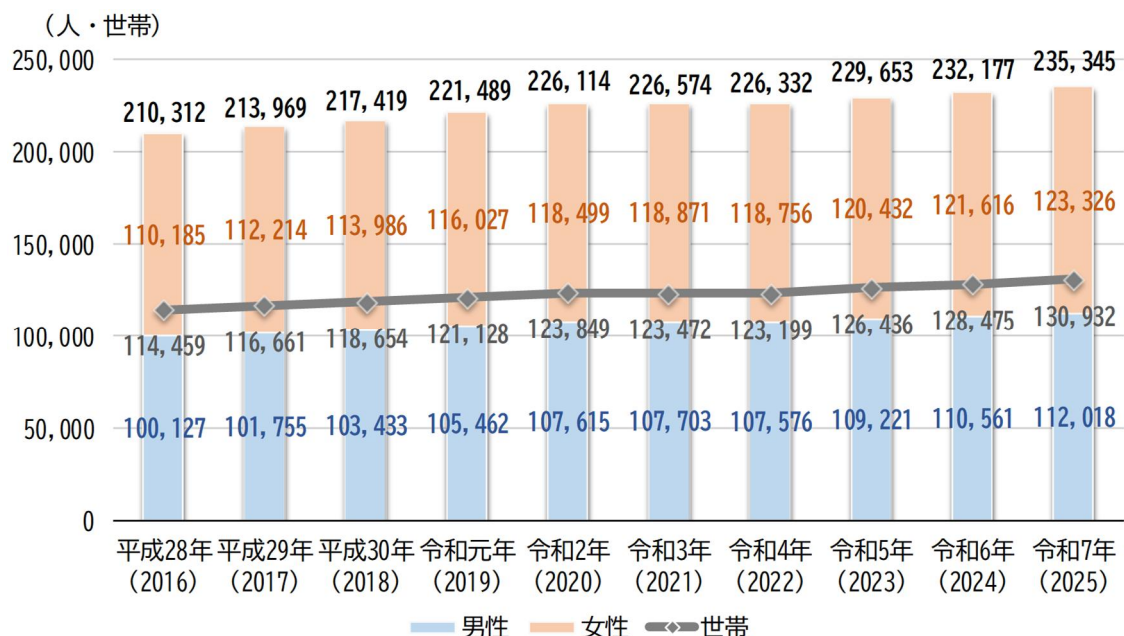


図4 文京区の地形（文京区都市マスタープラン2024より）

1.3.2 人口等

(1) 人口・世帯数

人口及び世帯数は、令和7年では総人口235,345人(男性112,018人、女性123,326人)、世帯数は130,932世帯となっており、どちらも増加傾向にあります。



※ 人口総数は、その他を含むため、男女の計と一致しない場合がある。

図5 人口・世帯数の推移 (住民基本台帳より各年1月1日現在)

(2) 将来人口推計

将来人口は、令和20年にかけて増加して258,907人となり、その後減少に転じると予測されます。

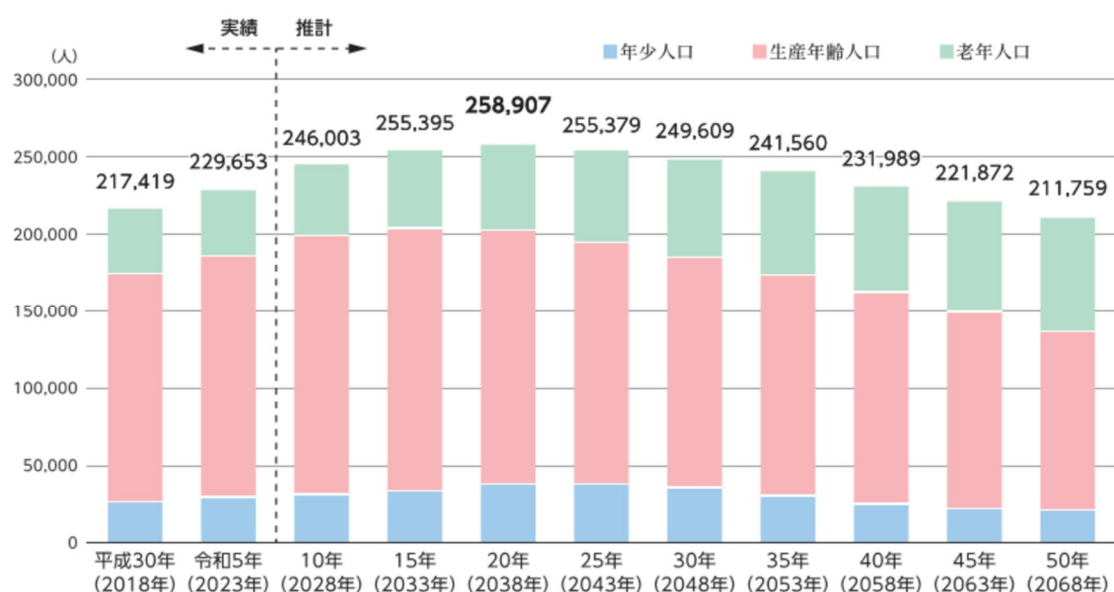


図6 区独自推計による将来人口推計 (出典:「文の京」総合戦略)

(3) 高齢者数

高齢者数は、令和 7 年では 43,785 人となっており、増加傾向にあります。高年齢化率は令和 4 年以降、減少傾向にあります。

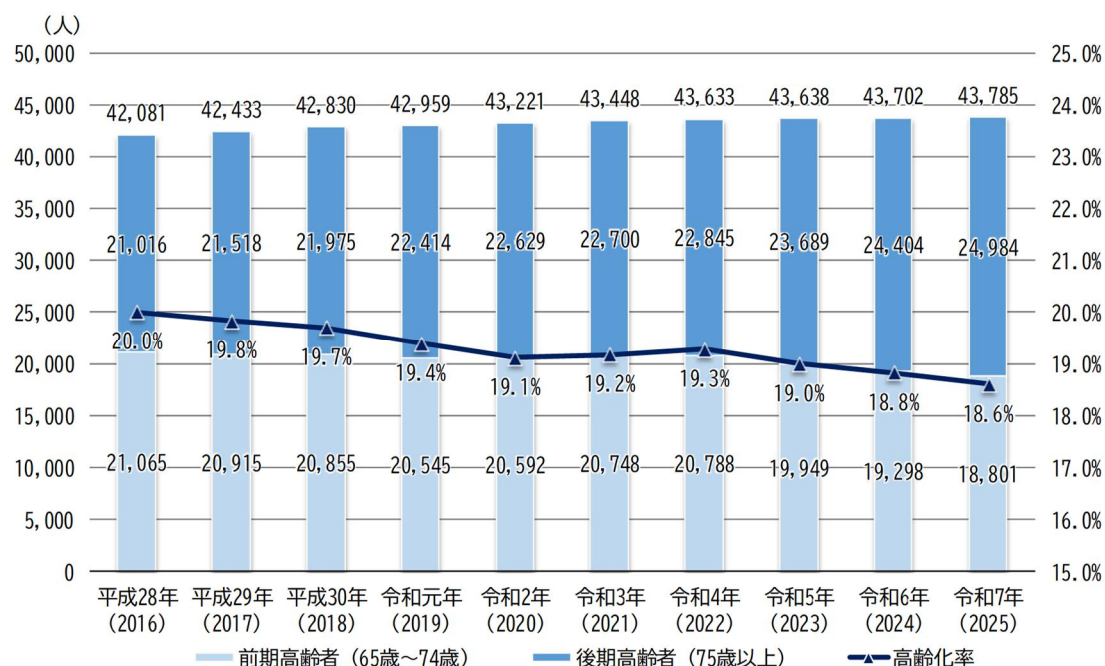


図 7 高齢者数の推移（住民基本台帳より各年 1 月 1 日現在）

(4) 年少人口

年少人口は、令和 7 年では 29,652 人となっており、増加傾向にあります。年少人口比率は令和 4 年以降、減少傾向にあります。

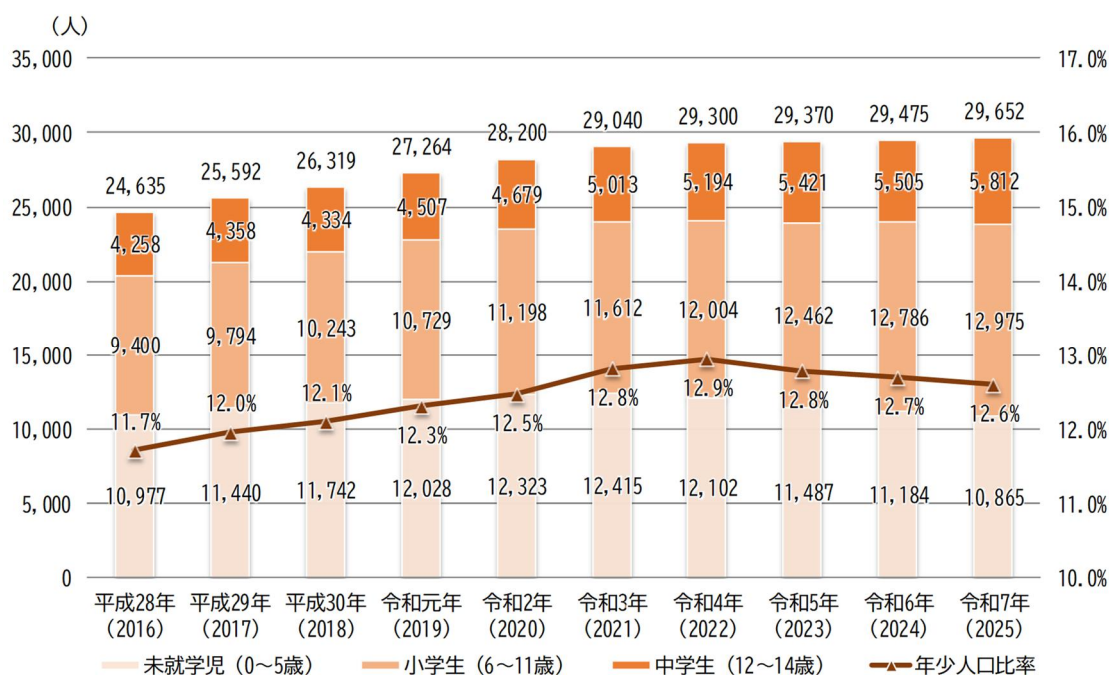


図 8 年少人口の推移（住民基本台帳より各年 1 月 1 日現在）

(5) 外国人

外国人住民人口は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が考えられる令和3年から令和4年を除き、増加傾向にあります。特に、令和5年以降に外国人住民人口が急増しており、令和7年には15,923人となっています。

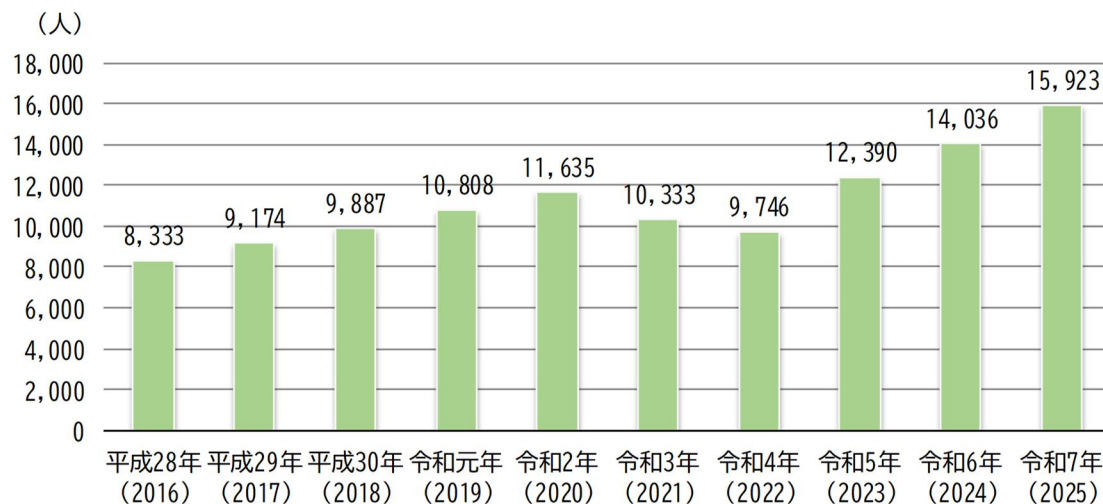


図9 外国人住民人口の推移（住民基本台帳より各年1月1日現在）

(6) 障害者

身体障害者手帳所持者数は、令和6年では4,270人となっており、減少傾向にあります。愛の手帳所持者数は、令和6年では1,039人となっており、増加傾向にあります。精神障害者保健福祉手帳所持者数は、令和7年では2,384人となっており、増加傾向にあります。

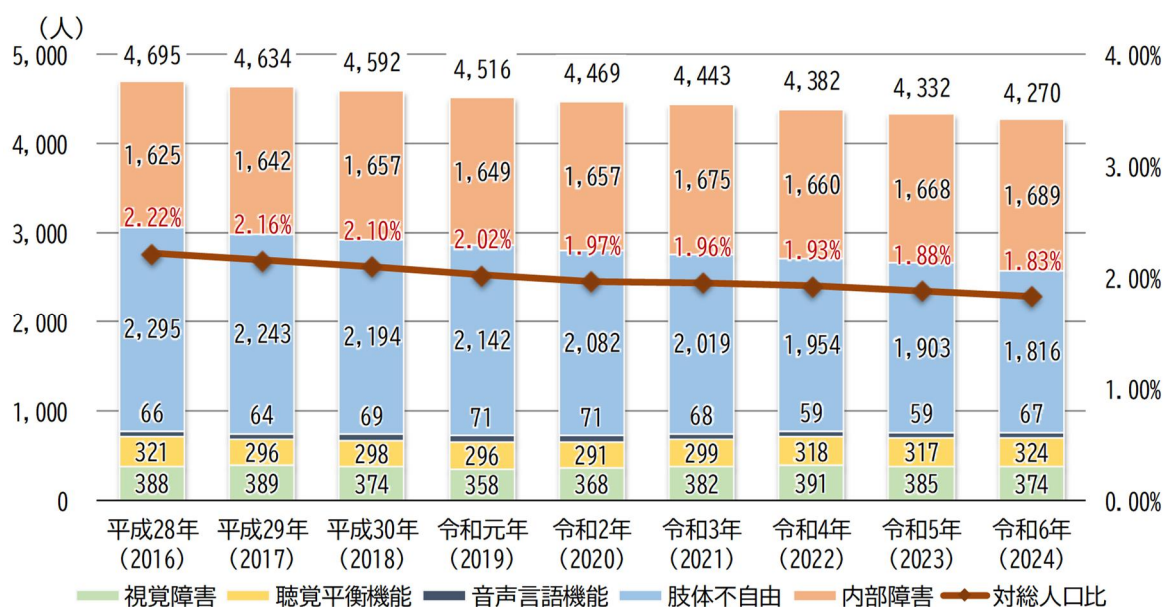


図10 身体障害者手帳所持者数（文京の統計 各年6月1日現在）

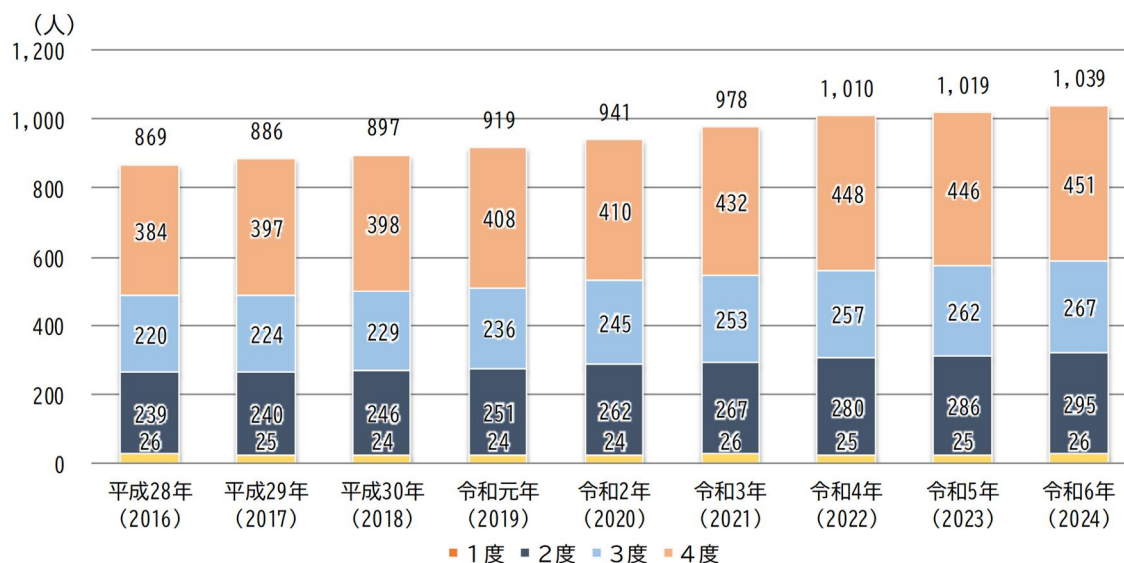


図 11 愛の手帳所持者数（文京の統計 各年6月1日現在）

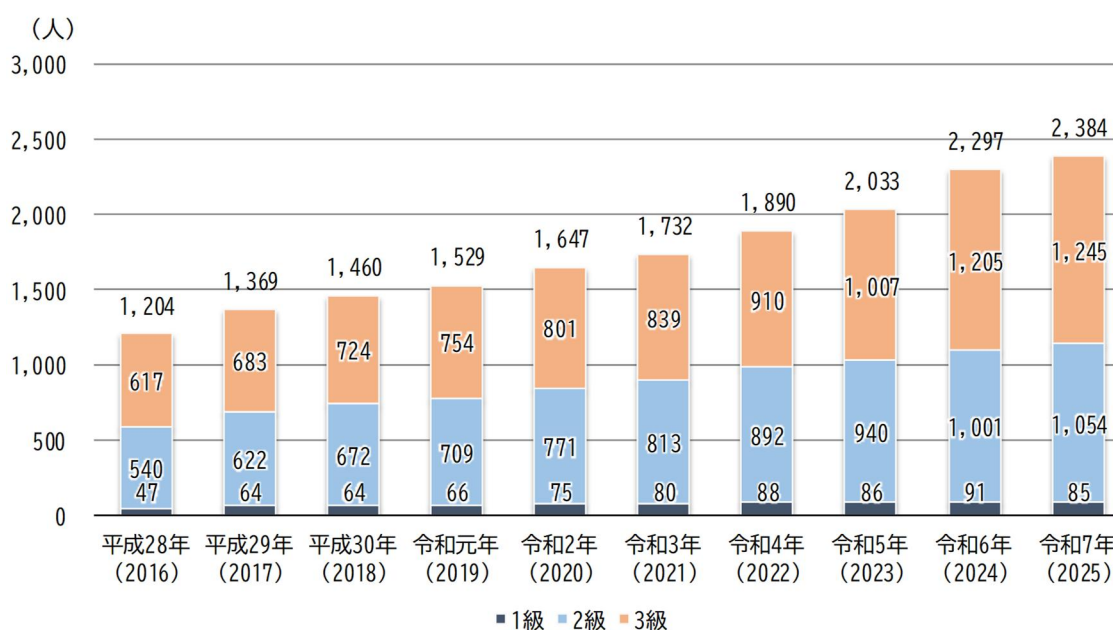


図 12 精神障害者保健福祉手帳所持者数
（ぶんきょうの保健衛生（事業概要） 各年3月31日現在）

1.3.3 交通施設

(1) 鉄道

区内には、東京地下鉄株式会社が運営する東京メトロ丸ノ内線、南北線、有楽町線、千代田線と、東京都交通局が運営する都営地下鉄三田線、大江戸線の駅が立地しています。

区内のすべての鉄道駅は、1日あたりの乗降客数が5,000人を超える特定旅客施設に該当します。

いずれの駅も基本的なバリアフリー整備は進んでいますが、東京メトロ南北線他、一部の駅では、障害者対応券売機の整備やホームと車両間の段差・隙間の解消が未完了の状況です。

表 3 文京区の各駅乗降人員及びバリアフリー整備状況

鉄道事業者	路線	駅	乗降客数 (人/日) ※1	バリアフリー整備状況			
				主要設備 ※2	障害者対応 券売機※3	拡幅 改札口※3	ホーム・ 車両間※4
東京メトロ	丸ノ内線	新大塚	25,769	○	○	○	○
		茗荷谷	78,606	○	×	○	○
		後楽園	104,894	○	○	○	○
		本郷三丁目	51,198	○	○	○	×
		御茶ノ水	54,548	○	○	○	×
	南北線	本駒込	21,070	○	×	○	×
		東大前	27,311	○	×	○	×
		後楽園	104,894	○	○	○	×
	有楽町線	護国寺	40,640	○	○	○	×
		江戸川橋	49,844	○	×	○	×
	千代田線	千駄木	28,507	○	○	○	○
		根津	27,937	○	○	○	○
		湯島	37,913	○	×	○	○
都営地下鉄	三田線	千石	25,604	○	○	○	○
		白山	35,468	○	○	○	×
		春日	43,117	○	○	○	○
		水道橋	52,143	○	○	○	○
	大江戸線	本郷三丁目	39,235	○	○	○	×
		春日	70,696	○	○	○	○
		飯田橋	67,235	○	○	○	○

※1：東京メトロホームページ『各駅の乗降人員ランキング(2024年度)』、都営地下鉄ホームページ『各駅乗降人員(2023年度)』参照

※2：東京メトロホームページ『路線・駅の情報』『ホームドア未整備駅一覧』、都営地下鉄ホームページ『各駅情報』『ホームドアの整備について』参照

※3：東京メトロ『令和6年度 移動等円滑化取組報告書(鉄道駅)』、都営地下鉄『令和5年度 移動等円滑化取組報告書(鉄道駅)』参照

※4：東京メトロホームページ『ホームと車両床面の段差・隙間縮小の整備状況』、都営地下鉄ホームページ『バリアフリー情報 ホームと車両の段差・隙間対策』参照。各番線において目安値(段差3cm以下(乗車率100～150%程度)、隙間7cm以下)を満たす乗降口が1以上ある場合を○印で表示。

(2) バス

区内には、都営バスとコミュニティバス「B-ぐる」が運行しています。都営バスは、16 路線が運行しており、主要幹線道路や生活幹線道路を中心に路線やバス停留所が設置されています。一方、B-ぐるは、公共交通不便地域と最寄の鉄道駅を接続し、交通利便性の向上を図ることを目的に、千駄木・駒込ルート、目白台・小日向ルート、本郷・湯島ルートの 3 路線が設けられており、いずれも平日は 20 分間隔、土日祝日は 30 分間隔で運行しています。

(3) タクシー

東京都内では、令和 6 年 3 月末現在、29,938 台のタクシーのうち、19,530 台のユニバーサルデザインタクシーを導入しています。

(4) 道路

文京区都市マスタープランでは、区内の道路を主要幹線道路、生活幹線道路、主要生活道路及び生活道路の4種類に区分し、沿道の土地利用や周辺地域の特性を踏まえながら、各道路が担う役割を明確にしています。また、主要幹線道路や生活幹線道路の整備、細街路拡幅整備、コミュニティ道路整備等に取り組むことにより、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した、子ども、高齢者、障害者などだれもが安全で快適に歩くことのできる連続性のある歩行空間の整備を進めることとしています。

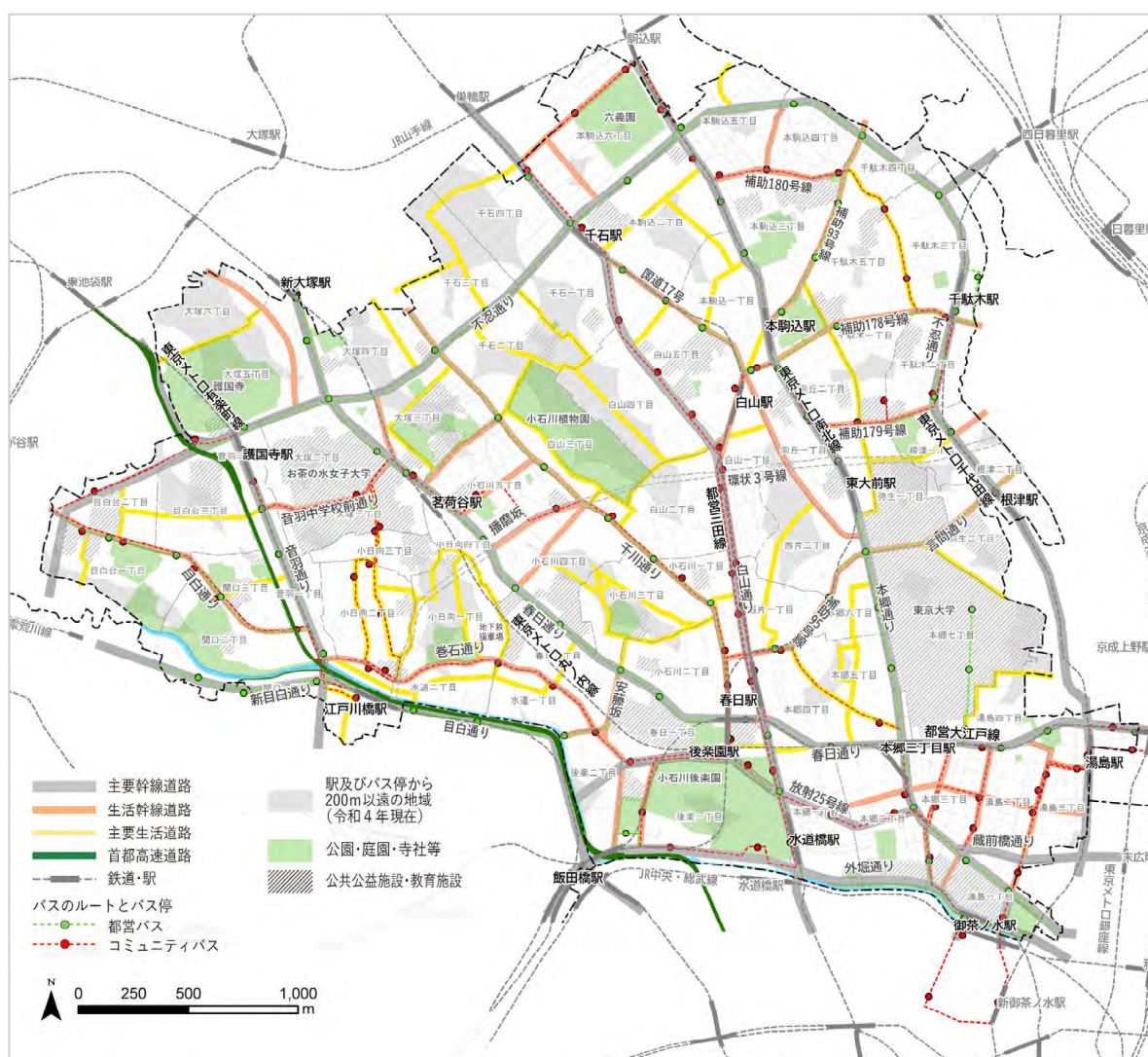


図 13 道路・交通ネットワーク方針図（出典：文京区都市マスタープラン 2024）

2.1 旧基本構想の最終評価

バリアフリー基本構想の改定に向けて、旧基本構想策定後の社会情勢の変化や、事業の進捗状況や区民意見を踏まえた事業種ごとの評価、区全体の取組の評価を最終評価としてとりまとめました。

最終評価の概要を以下に示します。

2.1.1 社会情勢の変化

旧基本構想の策定以降、バリアフリー法の改正や関連法の制定など、バリアフリーを取り巻く社会情勢が変化しています。

新たなバリアフリー基本構想では、これらの内容を十分に踏まえた検討が必要です。

(1) バリアフリー法の改正

平成30年にバリアフリー法が改正され、「共生社会の実現」、「社会的障壁の除去」を明記して基本理念が示されるとともに、新たに「移動等円滑化促進方針（以下、マスタープラン）」の枠組みが設けられました。マスタープランでは、具体的なバリアフリー化事業の位置づけが困難な地区においても、多様な視点から方針を示すことができる枠組みとなっています。

また、令和2年の改正では、心のバリアフリーのさらなる推進（教育啓発特定事業の追加）やバリアフリー情報の収集に関する事項が明記されたほか、公共交通事業者に対するソフト基準（役務の提供）や利用者への広報・啓発など、ソフト施策に関する記載の充実が図られています。

さらに、各種移動等円滑化基準やガイドラインの改正も進められ、これに合わせて東京都の条例等も改正されています。

国の定める移動等円滑化の促進に関する基本方針は、令和7年度末までの各施設等のバリアフリー化の目標を定めていましたが、令和12年度までの目標が新たに示されていることについても留意が必要です。

(2) 関連法の制定

旧基本構想策定後、平成 28 年には「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（以下、障害者差別解消法）」（令和 3 年の改正により合理的配慮の提供が義務化）、平成 30 年には「ユニバーサル社会の実現に向けた諸施策の総合的かつ一体的な推進に関する法律（以下、ユニバーサル社会実現推進法）」、令和 6 年には「共生社会の実現を推進するための認知症基本法（以下、認知症基本法）」が施行されるなど、互いに人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現の重要性はますます高まっています。

移動等の円滑化を促進することは、このような共生社会の実現のために大きな意義を持つものであり、ユニバーサルデザインの考え方に基づく整備を通じて活力ある社会の維持に寄与します。

また、令和 4 年に「障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に係る施策の推進に関する法律」、令和 7 年に「手話に関する施策の推進に関する法律」が施行され、誰もが必要とする情報を取得でき、円滑にコミュニケーションを図ることの必要性が認識されています。

(3) 文京区の新たな条例の制定

本区では、令和 6 年に「文京区手話言語条例」及び「文京区障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通の促進に関する条例」を制定し、全ての人が障害の有無にかかわらず、安心して暮らすことができる地域社会の実現を目指しています。

2.1.2 事業種ごとの評価

(1) 総評

目標年次までの実施（短期・中期）を位置づけた事業は 90%が完了または継続的に実施しており、事業は概ね計画通り進捗しました。

また、令和 7 年度以降に実施予定の事業を含むすべての事業では、28%が実施中または未着手となっており、これらの事業を引き続き推進する必要があります。

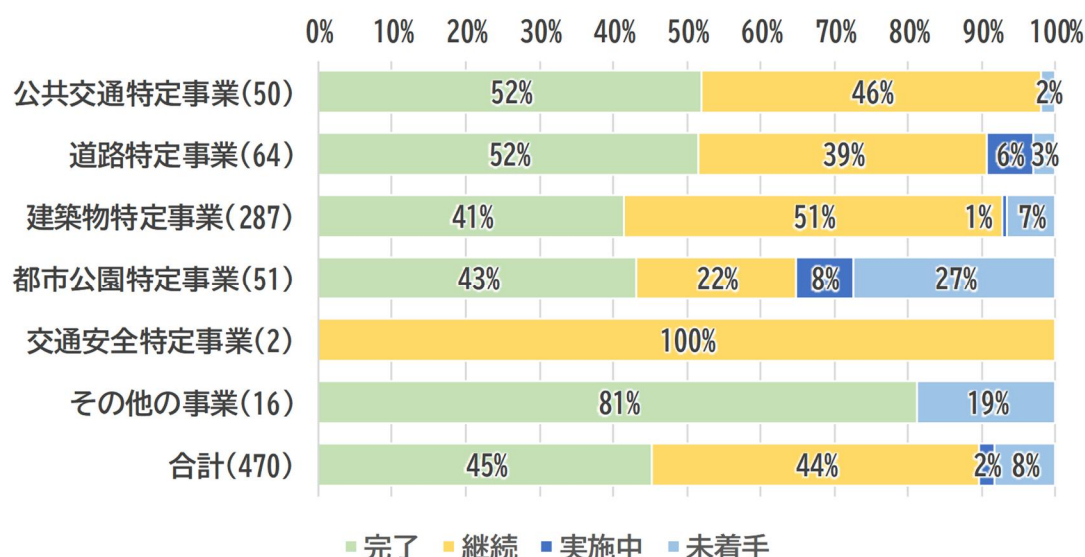


図 14 目標年次（令和 7 年度）までの実施を位置づけた事業の実施状況

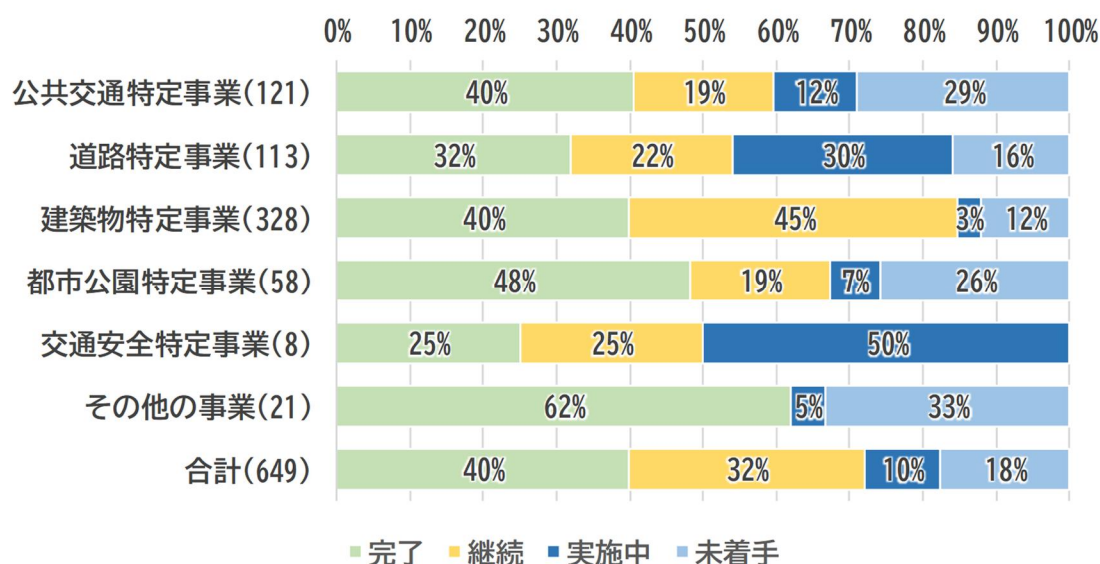


図 15 長期（令和 7 年度以降）実施予定の事業を含むすべての事業の実施状況

※グラフ中カッコ内は事業数。全 683 事業のうち、特定事業等の実施に向けた検討の結果、実現が困難と判断され実施しないこととした事業や、施設の閉館等の理由により予定事業を中止した 34 事業は集計対象外とした。

(2) 公共交通特定事業

<事業実施後の状況>

- 鉄道駅では、バリアフリー経路の整備・増設や、可動式ホーム柵の整備、車いす使用者用トイレの機能分散、案内表示の改善が進んだ。
- バスでは、より利用しやすい車両への代替に向けた検討や、上屋の新設・更新、バス停留所の案内の充実などが進み、利用者への啓発も継続的に実施されている。
- 公共交通の状況について、区民意見を10年前と比較すると、バリアフリーとして社会的に求められる水準が上がっていることが推察される。
- 鉄道駅の無人改札が増える中で、人的対応に対する区民のニーズが特に高まっている。

<さらなる改善のための提案>

- 未完了の特定事業の着実な実施
- 共通の配慮事項・最終評価を踏まえた特定事業の充実
- ハード整備のさらなる推進（バリアフリー経路の2ルート目の確保や、無人改札口における多様な利用者に配慮した環境整備、一般トイレへのオストメイト対応設備の整備）
- 情報のバリアフリーのさらなる推進（公共交通事業者等のウェブサイトにおけるウェブアクセシビリティへの配慮や、駅のバリアフリー情報の提供）
- 人的対応・心のバリアフリーのさらなる推進（役務の提供）

(3) 道路特定事業

<事業実施後の状況>

- 道路特定事業は概ね計画通り事業が進捗した。
- 沿道施設の整備に合わせた歩道の勾配の緩和や、視覚障害者誘導用ブロックの設置・改修、路側帯のカラー化、自転車通行空間の整備などが進んだ。
- 案内表示のさらなる充実や、坂道のバリアフリー化が進んだ。
- 自転車利用に関する制度・計画として、自転車の交通反則通告制度（青切符）の導入の決定や、文京区自転車活用推進計画の策定が行われた。
- 道路の状況について、アンケート調査における区民の満足度は10年前と同程度であるが、地域懇談会では、ハード整備による改善が実感されていた。
- 道路に対する区民ニーズは、整備未完了の路線における課題への指摘や、管理者境界部における連続的なバリアフリー化など、よりきめ細かな対応を求める意見が出されている。

<さらなる改善のための提案>

- 未完了の特定事業の着実な実施
- 共通の配慮事項・最終評価を踏まえた特定事業の充実
- 沿道施設との連続性や道路管理者間の連携も考慮した特定事業の実施
- 自転車利用者の交通ルール遵守・マナー向上

(4) 建築物特定事業

<事業実施後の状況>

- 公共施設・民間施設において、トイレの整備（トイレの洋式化、男女共用トイレの整備、車いす対応トイレの増設など）や、エレベーターの整備、スロープの設置による段差解消、案内設備の整備などが進んだ。
- 職員・従業員等の研修や意識啓発、筆談具や案内表示の設置などの比較的实施しやすい事業は、早期に着手され、継続的に取り組まれている。
- 建築物の状況について、アンケート調査では、10年前と比較して全般に満足度が向上した。特に保健施設・病院の評価が大きく伸びている。
- 建築物への区民ニーズは、窓口対応やコミュニケーションに関する意見が出されている。

<さらなる改善のための提案>

- 未完了の特定事業の着実な実施
- 共通の配慮事項・最終評価を踏まえた特定事業の充実
- ハード整備のさらなる推進（一般トイレへのオストメイト対応設備の設置や、窓口における多様な利用者に配慮した環境整備）
- 情報のバリアフリーの推進（施設のウェブサイトにおけるウェブアクセシビリティへの配慮や、施設のバリアフリー情報の提供）
- 公立小中学校等のバリアフリー化の推進
- 各種基準・整備ガイドラインの改正を踏まえた整備の推進（車いす使用者用便所の複数化、車いす使用者用客席の設置数拡充及び同伴者席のスペース確保、車いす使用者用駐車施設の設置数拡充及び後部スペースの確保等）

(5) 都市公園特定事業

<事業実施後の状況>

- 主要な園路の平坦化や車止めの再配置、視覚障害者誘導用ブロックの設置、車いす使用者用トイレの整備、一般トイレへの機能分散などが進んだ。
- 施設のバリアフリー情報が掲載されたウェブサイト等が増え、トイレへの音声案内も設置されるなど、利用者への情報提供の充実が図られた。
- 公園の状況について、10年前と比較して区民の満足度が向上した。
- 公園に対する区民ニーズについて、車止めの配置やトイレの整備、緊急時の情報提供に関する意見が出されている。

<さらなる改善のための提案>

- 未完了の特定事業の着実な実施
- 共通の配慮事項・最終評価を踏まえた特定事業の充実
- ハード整備のさらなる推進（一般トイレへのオストメイト対応設備の設置や、窓口における多様な利用者に配慮した環境整備、車いす使用者用駐車施設の設置数拡充及び後部スペースの確保等）
- 情報のバリアフリーの推進（施設のウェブサイトにおけるウェブアクセシビリティへの配慮や、施設のバリアフリー情報の提供）
- 保全が必要な自然環境や文化財を含む公園におけるバリアフリーの推進（バリアフリー整備が困難な場合、代替となる施設整備や情報提供、利用支援の充実）

(6) 交通安全特定事業

<事業実施後の状況>

- 事業全体着手率及び短期・中期事業着手率ともに 100%である。
- バリアフリー対応型信号機の整備が順次進められている。
- 横断歩道の維持管理やエスコートゾーンの整備、利用者のマナー、バリアフリー対応型信号機の整備・運用に関する区民ニーズがある。
- アンケート調査から、10 年前と比較して、信号機等の整備が進んだことで、日常的に課題を意識する機会が減少したことがうかがえる。

<さらなる改善のための提案>

- 今後も継続した道路管理者との連携や、当事者の要望に応じたバリアフリー整備（音響式信号機等やエスコートゾーンの整備）
- 整備後の適切な運用・維持管理
- 違法駐車車両に対する指導・取締り等の推進

(7) その他の事業

<事業実施後の状況>

- 後楽公園や御茶の水橋際公衆便所などの公園・公衆便所において、園路のバリアフリー化や案内表示の改善、トイレの整備等が図られた。

<さらなる改善のための提案>

- 車いす使用者用トイレの弱視者でも内部の様子が分かりやすいようなコントラストの確保等

2.1.3 区全体の評価

旧基本構想の「心のバリアフリーの推進」に挙げられている取組例や、「区の特性に応じたソフト施策等の推進」で挙げられている事項について、実施状況を整理し、評価を行いました。

(1) 心のバリアフリーの推進

<区の主な取組>

- 障害への理解を深めるための職員研修や人権研修の継続的な実施
- 区民等への心のバリアフリーの継続的な推進・啓発
- 公共施設における積極的な人的支援の実施やサービスの充実

<心のバリアフリーに関する現状>

- アンケート調査では、心のバリアフリーを意識した行動は高い割合で実施されていることがうかがえる。
- 当事者からは、公共交通での職員対応の充実や周囲の人からの声掛けの増加などを実感しているとの声が上がっている。
- 各施設において個々の利用者に合わせた対応が必要という意見が多く、合理的配慮への意識がうかがえる。

<さらなる改善のための提案>

- 今後も継続した心のバリアフリーの推進・啓発
- 民間事業者への教育啓発特定事業の積極的な設定の依頼

(2) 観光・情報のバリアフリー、公共サイン整備

<区の主な取組>

- “開かれた議会”を実現するための取組の実施
- 施設の受付へのコミュニケーションツールの設置
- 図書館におけるだれもが楽しめる映画会の実施
- 「文京区バリアフリーマップ」の冊子及びデジタルブックの発行
- 観光リーフレットの多言語表記
- 高齢者向けスマートフォン講習会・相談会の開催等

<情報のバリアフリーに関する現状>

- ICTの普及により移動や施設利用に関する情報発信が充実してきているが、障害者にとっての使い勝手が十分配慮されていないとの指摘がある。
- 「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（通称 読書バリアフリー法）」が施行された。

<さらなる改善のための提案>

- 今後も継続した取組の実施（情報格差の解消への留意）
- 利用者の実情に応じたさらなる情報提供・コミュニケーションの促進
- 学校における読書バリアフリーの推進

(3) 坂道のバリアフリー

<区の主な取組>

- 坂道や階段への手すりや助け合い意識を喚起する標識の設置
- 高齢者等が休憩できるようなお休み石の設置
- 滑りにくい舗装の整備

<さらなる改善のための提案>

- 今後も継続した取組の実施（標識の設置、休憩施設の設置、舗装の改善等）

(4) 歩行空間の安全な利用

<区の主な取組>

- 自転車通行空間の整備
- 放置自転車の撤去や自転車利用者への交通ルール・マナーの周知・啓発
- 区道上の不法占用物件（許可のない看板、商品、植木鉢等）への指導

<さらなる改善のための提案>

- 今後も継続した取組の実施（自転車通行空間の整備、歩きスマホや違法駐車車両に対する指導・取締り等の推進、自転車利用や歩行者のルール・マナー等の周知啓発）

(5) バリアフリーに関する情報発信

<区の主な取組>

- ホームページへの基本構想に基づく特定事業等の進捗状況の掲載
- 「文京区バリアフリーマップ」の冊子及びデジタルブックの発行

<さらなる改善のための提案>

- 今後も継続した取組の実施（特定事業等の進捗状況の公表）
- ホームページ等を活用した誰もが分かりやすい・使いやすいバリアフリー情報の発信
- 工事中や非常時の状況に応じたバリアフリー情報の提供

2.2 改定方針

最終評価を踏まえたバリアフリー基本構想の改定方針を以下に示します。

1 生活関連施設・生活関連経路の追加

■区内の主要な施設を生活関連施設に追加

旧基本構想における生活関連施設の設定の考え方を踏まえた時点修正を行うとともに、バリアフリー法の改正で新たにバリアフリー化の対象になった公立小中学校などを生活関連施設に追加し、区内の主要な施設のバリアフリー化を推進します。

■生活関連施設間を結ぶ経路を生活関連経路に追加

上記で見直した生活関連施設間を結ぶ経路を生活関連経路に追加し、区内道路等のバリアフリー化を図ります。

なお、生活関連経路は、文京区都市マスタープランの道路・交通ネットワーク方針との整合を考慮して設定し、広域的なアクセス利用や地域的な回遊利用まで有機的に結びつく、利便性の高い歩行者ネットワークの構築を図ります。

2 バリアフリー化の方針の充実

■移動等円滑化に向けた配慮事項の更新

旧基本構想では、高齢者や障害者等を含むすべての人が利用しやすい施設の整備に向けて、公共交通や道路、建築物などの事業種別に「移動等円滑化に向けた配慮事項」を示し、バリアフリー化を推進してきました。

新たなバリアフリー基本構想では、各種移動等円滑化基準やガイドラインの改正内容(車いす使用者用便所の複数化、車いす使用者用客席の設置数拡充及び同伴者席のスペース確保、車いす使用者用駐車施設の設置数拡充及び後部スペースの確保等)、及びアンケート調査や地域懇談会等における区民意見を踏まえ、より充実した「移動等円滑化に向けた配慮事項」を示します。

■地区別計画に関する基本方針の更新

旧基本構想では、都心地域、下町隣接地域、山の手地域東部、山の手地域中央、山の手地域西部の重点整備地区別に「地区別計画に関する基本方針」を示し、地区ごとのバリアフリー化を推進してきました。

新たなバリアフリー基本構想では、地域懇談会における区民意見等を踏まえ、より充実した「地区別計画に関する基本方針」を示します。

3 特定事業等の取組の充実

■新たな特定事業の位置づけ及び未完了事業・継続事業の推進

バリアフリー法において新たに位置づけられた「教育啓発特定事業」の追加や、改正された各種基準等への適合(車いす使用者用便所の複数化、車いす使用者用客席の設置数拡充及び同伴者席のスペース確保、車いす使用者用駐車施設の設置数拡充及び後部スペースの確保等)、新たな生活関連施設・生活関連経路等の特定事業の位置づけを図ります。

また、旧基本構想の特定事業等における未完了事業や継続事業の推進を図ります。

■ソフト基準を踏まえた取組の推進

バリアフリー法の改正により、「公共交通事業者に対するソフト基準適合義務の創設」が規定されたことを受け、ハード整備のみならず、ソフト基準を踏まえた職員等による役務の提供や情報提供を推進します。

■心のバリアフリーや情報のバリアフリーの充実

旧基本構想における心のバリアフリーやバリアフリーに関する情報発信について、福祉・教育等の取組との連携や、ICT 等の活用を図りながら、より一層の推進・拡充を図ります。

4 当事者参画によるバリアフリー化の推進

■施設整備における当事者参画の推進

建て替え時等には、各施設の利用状況に応じて、当事者の意見の聴収に努めます。

■基本構想のスパイラルアップにおける当事者参画の推進

新たなバリアフリー基本構想における、特定事業等の実施状況の確認・評価等において、当事者参画における基本構想のスパイラルアップを図ります。

3

バリアフリー基本構想の基本的な考え方

3.1 計画の位置づけ

文京区バリアフリー基本構想は、区のまちづくりの方針を示す文京区都市マスタープランを踏まえ、バリアフリーのまちづくりに関する総合的な区施策の方向性を示すとともに、バリアフリー法に基づき事業の進捗を図ることを目指すものです。また、関連する、区や都の施策と連携・整合を図るとともに、障害者差別解消法等の関連法の考え方を反映した構想として策定したものです。

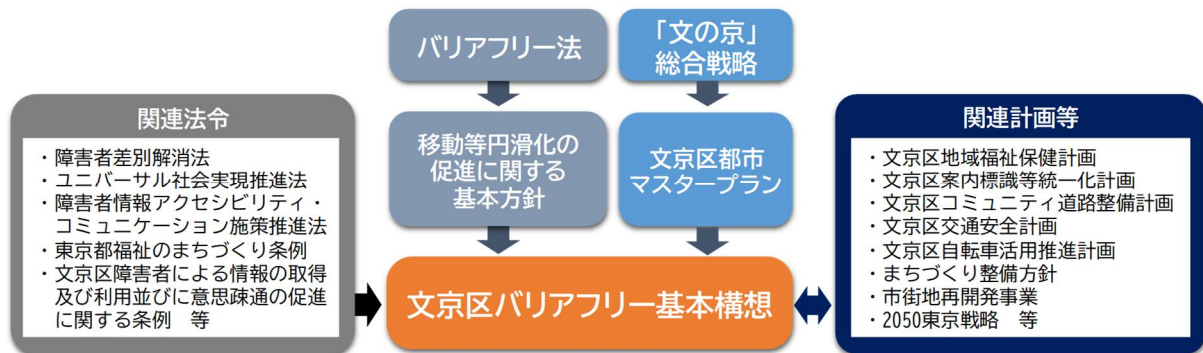


図 16 文京区バリアフリー基本構想の位置づけ

3.2 目標

点から面へ、みんなの心へ、バリアフリーの輪を広げよう

本区では、これまで旧基本構想に基づき、区全域において生活関連施設及び生活関連経路の一体的かつ連続的なバリアフリー化を推進してきました。ハード面のバリアフリー化が進む中で、人的対応や心のバリアフリー、情報のバリアフリーなど、ソフト面の充実の重要性がさらに高まっています。

今後は、これまでの取組を継続して推進するとともに、新たな生活関連施設・生活関連経路・特定事業の設定や、区民参加の機会の充実を図ります。また、行政・区民・事業者等のそれぞれが、これまでに整備したバリアフリー設備等を活かして、さらなる人的支援や教育啓発、情報の提供に取り組み、ハード・ソフトが連携しながら区全体のバリアフリー化のスパイラルアップを図り、だれもが暮らしやすいまちの実現を目指します。

3.3 目標年次

文京区バリアフリー基本構想の目標年次は、おおむね 10 年後の令和 17 年度に設定します。また、バリアフリー法に基づく「移動等円滑化の促進に関する基本方針」の目標年次である令和 12 年度には、中間評価を実施します。

3.4 基本方針

本区では、以下の基本方針に基づいて、区全体のバリアフリー化を推進します。

1 施設のバリアフリーの推進

旧基本構想において、各施設において未完了となっている事業に引き続き取り組むとともに、新たに設定する生活関連施設や生活関連経路におけるバリアフリー整備を進めます。なお、バリアフリー整備に当たって、改正された移動等円滑化基準や各種整備ガイドラインに基づき、これまでの区民意見を踏まえた特定事業を設定したうえで事業の推進を図ります。

2 心のバリアフリーの推進

これまでの心のバリアフリーに関する取組を継続的に実施するとともに、共生社会の実現に向けて、行政・区民・事業者等への「障害の社会モデル」の考え方の理解を促進することで、さらなる心のバリアフリーの推進を図ります。

3 情報のバリアフリーの推進

施設のバリアフリーの推進とあわせて、案内表示や ICT を活用したよりわかりやすいバリアフリー情報の提供を進めます。また、多様な障害に配慮したコミュニケーション環境の充実を進めることで、情報のバリアフリーの推進を図ります。

4 それぞれの連携・一体的な取組の推進

施設のバリアフリー、心のバリアフリー、情報のバリアフリーを推進するに当たって、それぞれの取組で連携を図りながら、一体的なバリアフリー化を推進します。

4.1 重点整備地区の設定

バリアフリー法では、重点整備地区に該当すべき要件として以下の通り配置要件、課題要件、効果要件が示されており、本区の地域特性に照らすと、区全域が重点整備地区の対象となる条件を備えています。

配置要件（バリアフリー法 第2条第24号イ）

生活関連施設の所在地を含み、かつ、生活関連施設間の移動が通常徒歩で行われる地区であること



区全域が駅からの徒歩圏であり、区境に接した JR 駅も含め、多様な移動・利用が想定されます。

課題要件（バリアフリー法 第2条第24号ロ）

生活関連施設及び生活関連経路を構成する一般交通用施設について移動等円滑化のための事業が実施されることが特に必要であると認められる地区であること



区で共通の地域性(坂道の多さ、病院、大学の立地等)を考慮した地区の設定が必要と考えられます。

効果要件（バリアフリー法 第2条第24号ハ）

当該地区において移動等円滑化のための事業を重点的かつ一体的に実施することが、総合的な都市機能の増進を図るうえで有効かつ適切であると認められる地区であること



地域間を結ぶ幹線道路の連続性に配慮した経路・事業等の位置づけに留意が必要と考えられます。

本区は面積が比較的小さく、区全体に共通するバリアフリー課題を検討することが重要です。

また、旧基本構想では、上記の地域特性を踏まえて、文京区都市マスタープランに示す5地区（都心地域、下町隣接地域、山の手地域東部、山の手地域中央、山の手地域西部）それぞれをバリアフリー法に基づく重点整備地区として設定しており、この考え方を踏襲し、引き続き5地区（区全域）を重点整備地区に設定します。

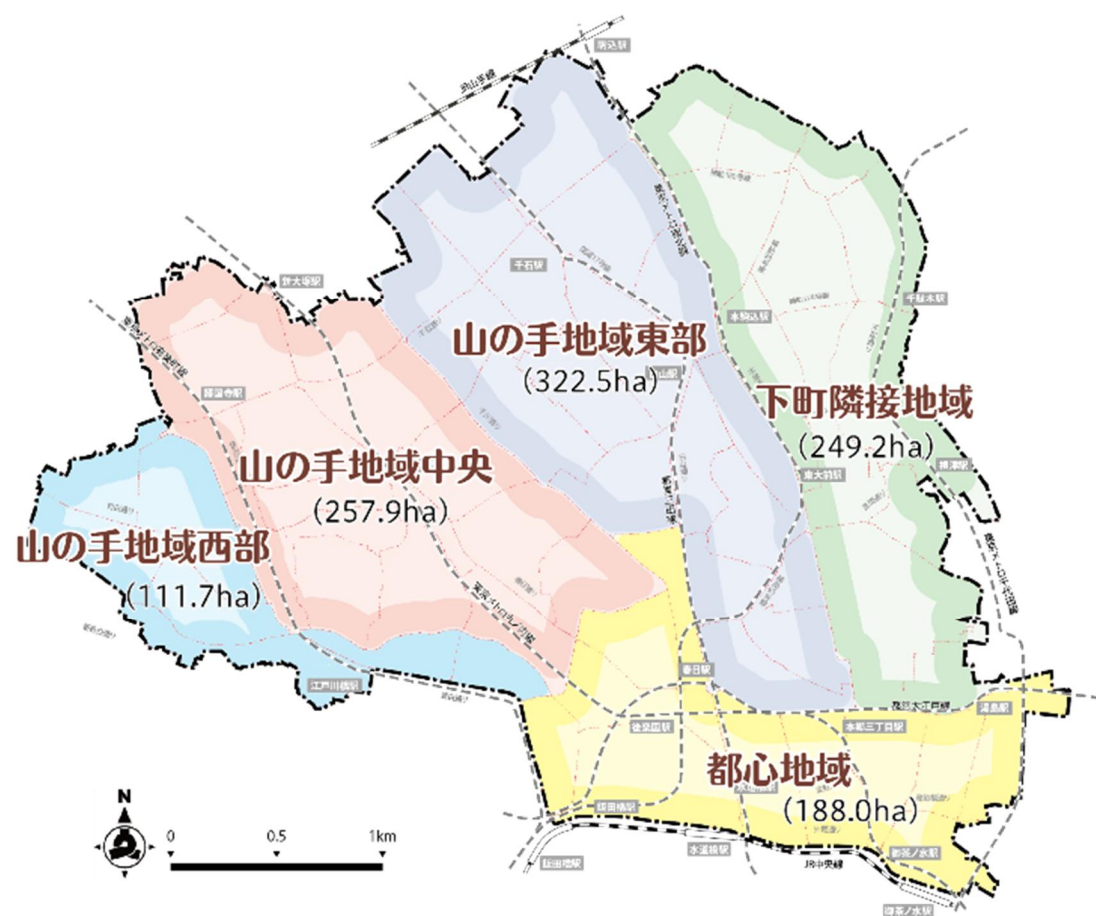


図 17 重点整備地区（5地区）

4.2 生活関連施設及び生活関連経路の設定

4.2.1 生活関連施設の設定

生活関連施設は、「高齢者、障害者等が日常生活又は社会生活において利用する旅客施設、官公庁施設、福祉施設その他の施設」とバリアフリー法で定義されています。

本区の特徴として、病院や大学等の施設が多数立地するとともに、地域活動センターや高齢者施設、図書館等の施設が全域に配置されています。

このように本区には、区外からの来訪者も多く訪れる施設（主に鉄道駅等の公共交通機関でのアクセスが想定）と、地域住民の活動やコミュニティの場等として利用される施設（主に徒歩やバス等でのアクセスが想定）があり、これらの施設が高齢者や障害者等の多様な区民等に利用されています。このような状況を踏まえ、旧基本構想では、表4に示す考え方に基づき生活関連施設を設定しています。

この考え方を踏襲し、旧基本構想の策定以降に新設された施設を生活関連施設に追加します。

また、バリアフリー法の改正で、新たにバリアフリー化の対象になった「公立小中学校（避難所に指定されているもの）」や、大規模災害時に特別な配慮を必要とする方（高齢者や障害者等）が利用する施設として、「福祉避難所」を生活関連施設に追加します。

これにより、生活関連施設に 45 施設を追加することで、区内全域におけるバリアフリー化のボトムアップを図ります。

表 4 生活関連施設の設定の考え方

種別	抽出する施設	抽出の考え方
鉄道駅	全ての鉄道駅	2,000 人/日以上が利用する旅客施設を抽出（区内の鉄道駅は全て該当）
公共(窓口)施設	区役所・地域活動センター・郵便局（ゆうゆう窓口のある大店舗）	公共性が高く、高齢者・障害者等、多数の利用者が見込まれる施設を抽出
集会施設	区民センター・交流館 等	
福祉施設	高齢者・障害者・子育て支援施設・【追加】福祉避難所・社会福祉協議会 等	
保健施設・病院	保健サービスセンター・総合病院（病床数 100 床以上）	
文化・教養・教育施設	大学（ホール等を有するもの）・特別支援学校・【追加】公立小中学校（避難所に指定されているもの）・生涯学習施設・図書館・ミュージアム（概ね 500 m ² 以上）・スポーツ施設 等	公共性が高く、大規模小売店舗立地法の適用対象面積の施設を抽出
大規模店舗	店舗面積が 1,000 m ² 以上の大規模小売店舗	
宿泊施設	客室数 50 以上のホテル又は旅館	バリアフリー法でバリアフリールームの設置義務が課せられる施設を抽出
都市公園等	1ha 以上の公園・運動場 等	都市公園や運動場、植物園などのうち、大規模で近隣又は広域からの利用が見込まれるものを抽出
その他	協議会や区民意見を踏まえて抽出する	

※主な駐車場は建築物に付随していると想定し抽出しない

なお、指定した生活関連施設は特定事業の対象施設となります。各施設設置管理者による特定事業の実施について、地区別計画の改定段階において具体的な内容を協議し、実施可能な項目について特定事業計画に位置づけ、バリアフリー化を推進していきます。

表 5 生活関連施設に追加する施設 (45 施設)

集会施設	
㉑ 本郷会館・ふる里学舎本郷	㉓ 元町ウェルネスパーク
㉒ 動坂会館	
福祉施設	
③ 大塚福祉作業所	㉑ SOMPO ケアラヴィーレ本郷
⑫ グッドライフケアセンター向丘	㉒ アリア護国寺
⑮ 小石川ヒルサイドテラス	㉓ グループホーム白山みやびの郷
⑲ 優つくり村文京小日向・文京小日向の家	㉔ 福寿ぶんきょう小石川あけぼし
㉒ 社の癒しハウス文京関口	㉕ 小石川福祉作業所
文化・教養・教育施設	
⑳ 茗台中学校	㉖ 千駄木小学校
㉑ 礪川小学校	㉗ 汐見小学校
㉒ 柳町小学校	㉘ 昭和小学校
㉓ 指ヶ谷小学校	㉙ 駒本小学校
㉔ 林町小学校	㉚ 駕籠町小学校
㉕ 明化小学校	㉛ 本郷小学校
㉖ 青柳小学校	㉜ 第一中学校
㉗ 関口台町小学校	㉝ 第三中学校
㉘ 小日向台町小学校	㉞ 第六中学校
㉙ 金富小学校	㉟ 第八中学校
㊀ 窪町小学校	㊁ 第九中学校
㊁ 大塚小学校	㊂ 第十中学校
㊂ 湯島小学校	㊃ 文林中学校
㊃ 誠之小学校	㊄ 本郷台中学校
㊄ 根津小学校	㊅ 音羽中学校
宿泊施設	
△ アパホテル御茶ノ水駅北	△ ドーミーイン後楽園

※旧基本構想の生活関連施設である「日本サッカーミュージアム」、「東京グリーンホテル後楽園」、「お茶の水セントヒルズホテル」は、閉業のため、生活関連施設から除外しました。

※旧基本構想の福祉施設である「介護老人保健施設ひかわした」は、事業廃止のため、福祉施設から除外しました。

※大規模改修工事のため、福祉施設⑥のうち、「文京白山高齢者在宅サービスセンター・文京白山の郷」は事業休止中、「高齢者あんしん相談センター富坂」は一時移転しています。

4.2.2 生活関連経路の設定

生活関連経路は、「生活関連施設間の経路」とバリアフリー法で定義されています。

区の生活関連施設の配置状況を俯瞰すると、主要な幹線道路沿道には鉄道駅や公共施設、病院、大学、商業施設等の施設が立地しており、生活関連施設間の経路として重要な歩行者ネットワークとなっています。

また、幹線道路に囲まれた街区内では、福祉施設や地域活動センター等の施設が主要な生活道路沿道やその近傍に立地しています。

これらの経路は、文京区都市マスタープランの道路・交通ネットワーク方針に位置づけられており、主要幹線道路、生活幹線道路、主要生活道路として安全で快適な道路網の整備などを進めることとしています。

これらの主要な経路と生活関連施設を結ぶ経路や、生活関連施設相互を結ぶ経路などのネットワーク化を図ることにより、広域的なアクセス利用や地域的な回遊利用まで有機的に結びつくことになり、利便性の高い歩行者ネットワークが構築されます。

上記を踏まえ、旧基本構想で示す以下の考え方を踏襲するとともに、生活関連施設の追加に伴う新たな生活関連経路を設定し、区内全域におけるバリアフリー化のボトムアップを図ります。

表 6 生活関連経路の設定の考え方

種別	1次経路	2次経路	3次経路
対象路線	国道・都道・主要幹線道路（区道）・生活幹線道路（区道）	生活関連施設に関わる主要生活道路（区道）	生活関連施設までの区道（都市マスタープランに位置づけのない道路）
設定の考え方	歩行者ネットワークの根幹となる経路	1次経路から派生するネットワークとなる経路	1次、2次経路から生活関連施設までの経路
事業推進の考え方	移動等円滑化基準に留意して整備推進	安全で快適な道路環境の整備推進	安全で快適な道路環境の形成と案内の充実等
「5 移動等円滑化に関する事項」に配慮して整備推進			

なお、3次経路は、1次経路からの経路を優先的に設定（2次経路経由で最短で行ける場合はその経路を設定）することを原則とし、1次経路からの設定が適切でない場合（延長が長い、階段になっている等）は、2次経路から設定するものとします。

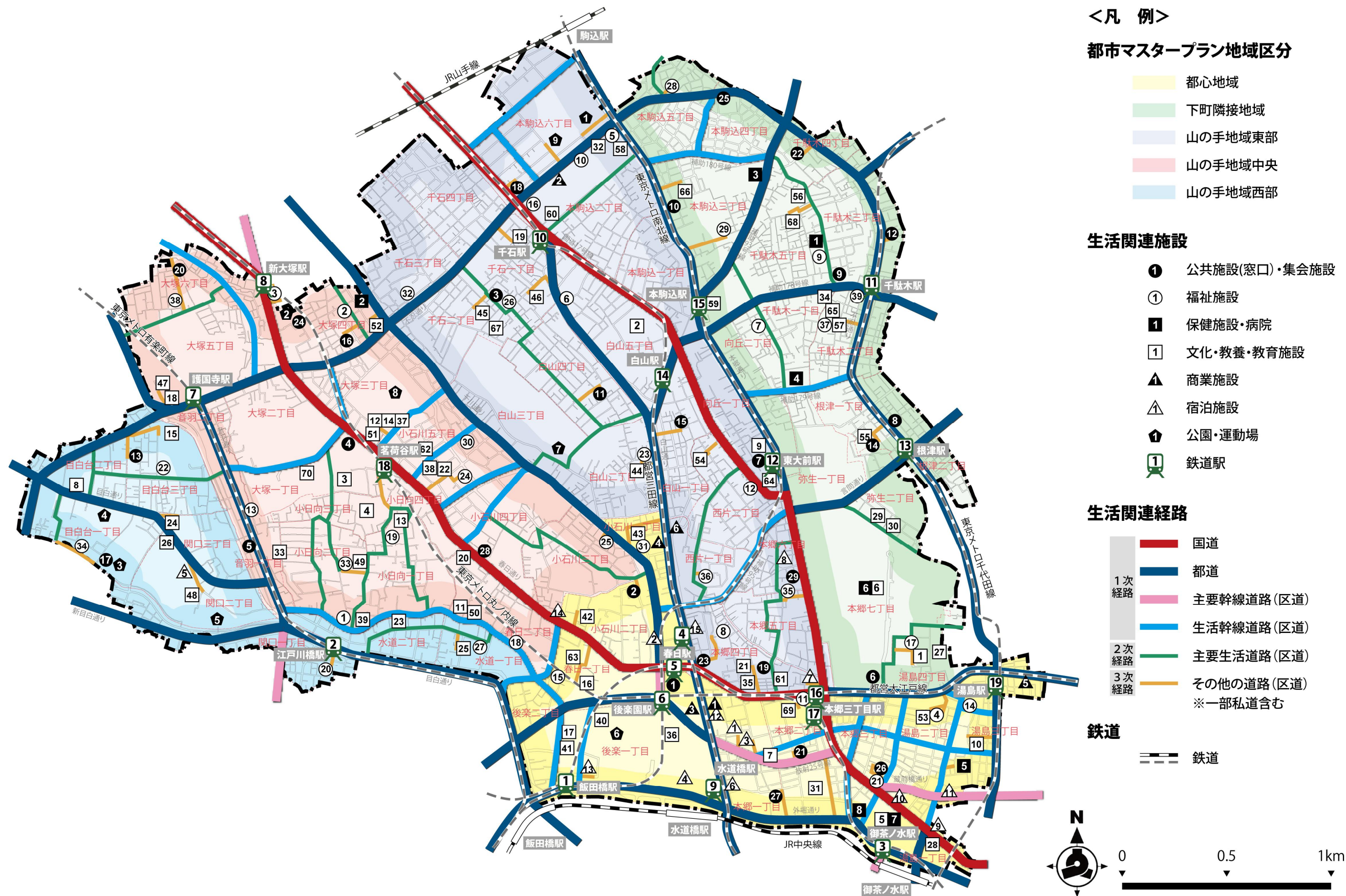
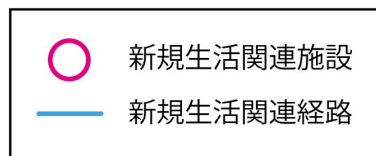


図 18 重点整備地区図



<凡 例>

都市マスタープラン地域区分

- 都心地域
- 下町隣接地域
- 山の手地域東部
- 山の手地域中央
- 山の手地域西部

生活関連施設

- ① 公共施設(窓口)・集会施設
- ① 福祉施設
- 保健施設・病院
- 文化・教養・教育施設
- ▲ 商業施設
- △ 宿泊施設
- ◆ 公園・運動場
- 🚉 鉄道駅

生活関連経路

- 1次経路
 - 国道
 - 都道
 - 主要幹線道路(区道)
 - 生活幹線道路(区道)
 - 2次経路
 - 主要生活道路(区道)
 - 3次経路
 - その他の道路(区道)
- ※一部私道含む

鉄道

- 鉄道

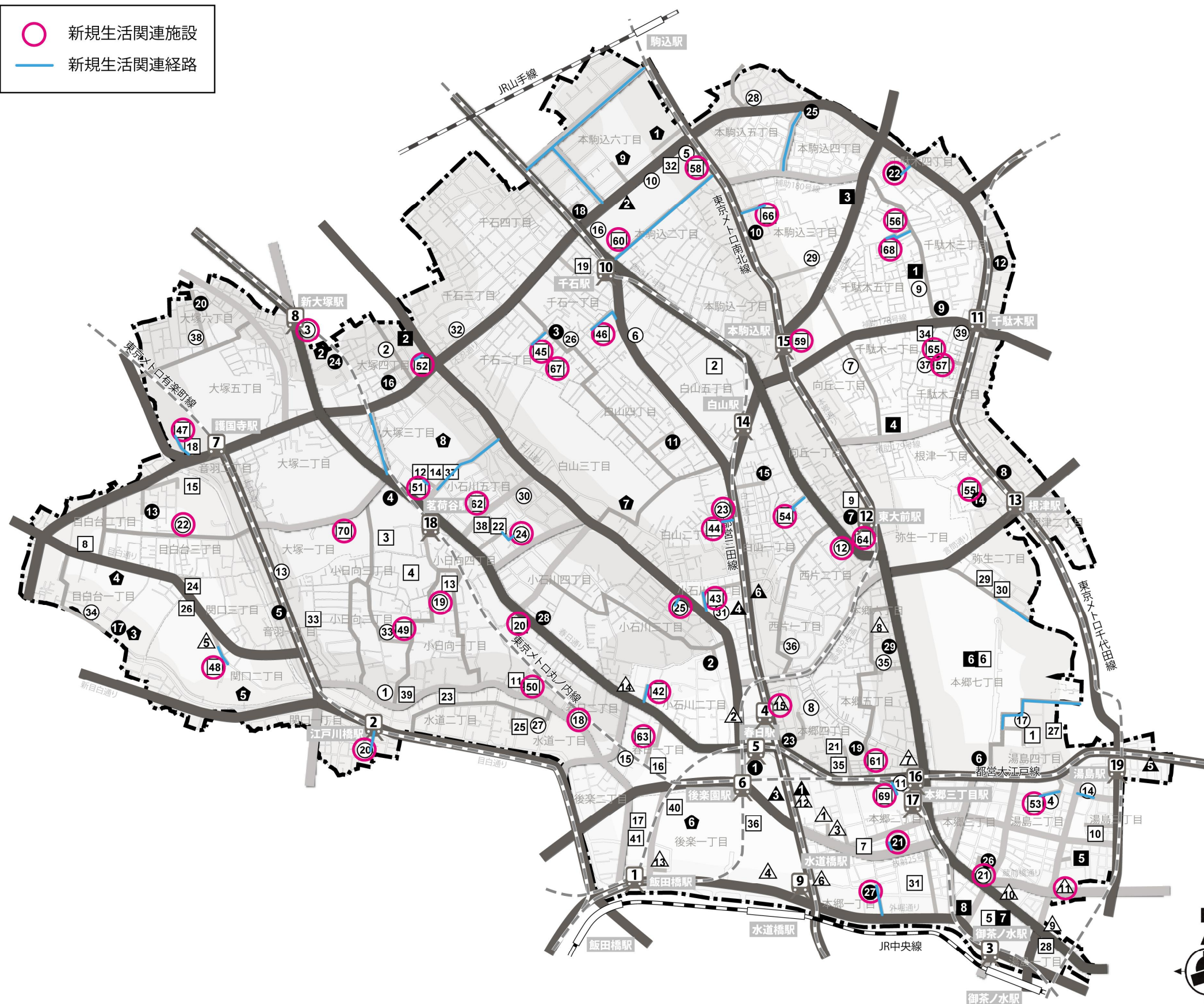


図 19 重点整備地区図(新規生活関連施設・生活関連経路を明記)

公共施設(窓口)・集会施設	
①	文京シビックセンター
②	礪川地域活動センター ・高齢者あんしん相談センター富坂分室
③	大原地域活動センター
④	大塚地域活動センター
⑤	音羽地域活動センター・ 介護老人保健施設音羽えびすの郷
⑥	湯島地域活動センター・総合体育館
⑦	向丘地域活動センター・アカデミー向丘
⑧	不忍通りふれあい館 (根津地域活動センター・根津図書館)
⑨	汐見地域センター (汐見地域活動センター・本郷図書館)
⑩	駒込地域活動センター
⑪	白山交流館
⑫	千駄木交流館
⑬	目白台総合センター (目白台交流館・目白台第二児童館)
⑭	根津総合センター(根津交流館・根津児童館)
⑮	白山東会館・白山東児童館 (令和7年8月から令和8年7月まで休館)
⑯	かるた記念大塚会館
⑰	肥後細川庭園松聲閣
⑱	駕籠町会館
⑲	男女平等センター
⑳	大塚北会館
㉑	本郷会館・ふる里学舎本郷
㉒	動坂会館
㉓	区民センター
㉔	大塚公園集会所・大塚公園みどりの図書館
㉕	勤労福祉会館 (本郷福祉センター(若駒の里)・本駒込図書館)
㉖	湯島総合センター(湯島第二会館・文京福祉 センター湯島・湯島児童館・湯島図書館)
㉗	元町ウェルネスパーク
㉘	小石川郵便局
㉙	本郷郵便局
福祉施設	
①	文京総合福祉センター(障害者支援施設リアン 文京・障害者基幹相談支援センター・文京福祉 センター江戸川橋・子育てひろば江戸川橋など)
②	文京くすのき高齢者在宅サービスセンター ・文京くすのきの郷
③	文京大塚高齢者在宅サービスセンター・ 高齢者あんしん相談センター大塚・ 文京大塚みどりの郷・大塚福祉作業所
④	文京湯島高齢者在宅サービスセンター ・アカデミー湯島

- ⑤ 文京昭和高齢者在宅サービスセンター
- ⑥ 文京白山高齢者在宅サービスセンター・
文京白山の郷
- ⑦ 文京向丘高齢者在宅サービスセンター
- ⑧ 文京本郷高齢者在宅サービスセンター
- ⑨ 文京千駄木高齢者在宅サービスセンター・高齢者
あんしん相談センター駒込・文京千駄木の郷
- ⑩ 高齢者あんしん相談センター駒込分室
- ⑪ 高齢者あんしん相談センター本富士
- ⑫ 高齢者あんしん相談センター本富士分室
・グッドライフケアセンター向丘
- ⑬ 高齢者あんしん相談センター大塚分室
- ⑭ ゆしまの郷
- ⑮ 洛和ヴィア文京春日
- ⑯ 高齢者あんしん相談センター富坂
- ⑰ 龍岡介護老人保健施設
- ⑱ 小石川ヒルサイドテラス
- ⑲ 優つくり村文京小日向・文京小日向の家
- ⑳ 社の癒しハウス文京関口
- ㉑ SOMPOケアラヴィーレ本郷
- ㉒ アリア護国寺
- ㉓ グループホーム白山みやびの郷
- ㉔ 福寿ぶんきょう小石川あけぼし
- ㉕ 小石川福祉作業所
- ㉖ 千石児童館・子育てひろば千石
- ㉗ 水道児童館・子育てひろば水道
- ㉘ 本駒込児童館
- ㉙ 本駒込南児童館
- ㉚ 久堅児童館
- ㉛ 柳町児童館
- ㉜ 千石西児童館
- ㉝ 小日向台町児童館
- ㉞ 目白台児童館
- ㉟ 本郷児童館
- ㊱ 子育てひろば西片
- ㊲ 子育てひろば汐見
- ㊳ 大塚児童館
- ㊴ しおみ児童館

保健施設・病院	
①	保健サービスセンター 本郷支所
②	東京健生病院
③	駒込病院
④	日本医科大学付属病院
⑤	東都文京病院

表 7 生活関連施設一覧

⑥	東京大学医学部附属病院
⑦	東京科学大学病院
⑧	順天堂大学医学部附属順天堂医院
文化・教養・教育施設	
①	文京区教育センター
②	東洋大学(白山キャンパス)
③	跡見学園女子大学(文京キャンパス)
④	拓殖大学(文京キャンパス)
⑤	東京科学大学(湯島キャンパス)
⑥	東京大学(本郷キャンパス)
⑦	東洋学園大学(本郷キャンパス)
⑧	日本女子大学(目白キャンパス)
⑨	文京学院大学・短期大学(本郷キャンパス)
⑩	日本薬科大学(お茶の水キャンパス)
⑪	国際仏教学大学院大学
⑫	筑波大学(東京キャンパス文京校舎)
⑬	貞静学園短期大学
⑭	放送大学東京文京学習センター
⑮	筑波大学附属視覚特別支援学校
⑯	筑波大学附属大塚特別支援学校
⑰	都立文京盲学校
⑱	アカデミー音羽
⑲	アカデミー千石・千石図書館
⑳	アカデミー茗台・茗台中学校
㉑	真砂中央図書館
㉒	小石川図書館
㉓	水道端図書館
㉔	目白台図書館
㉕	印刷博物館
㉖	講談社 野間記念館
㉗	国立近現代建築資料館
㉘	史跡湯島聖堂
㉙	竹久夢二美術館
㉚	弥生美術館
㉛	東京都水道歴史館
㉜	東洋文庫ミュージアム
㉝	鳩山会館
㉞	森鷗外記念館
㉟	文京ふるさと歴史館
㊱	東京ドーム(野球殿堂博物館含む)
㊲	文京スポーツセンター
㊳	竹早テニスコート
㊴	江戸川橋体育館

④⑩	後楽公園少年野球場
④⑪	小石川運動場
④⑫	礪川小学校
④⑬	柳町小学校
④⑭	指ヶ谷小学校
④⑮	林町小学校
④⑯	明化小学校
④⑰	青柳小学校
④⑱	関口台町小学校
④⑲	小日向台町小学校
⑤①	金富小学校
⑤②	窪町小学校
⑤③	大塚小学校
⑤④	湯島小学校
⑤⑤	誠之小学校
⑤⑥	根津小学校
⑤⑦	千駄木小学校
⑤⑧	汐見小学校
⑤⑨	昭和小学校
⑤⑩	駒本小学校
⑤⑪	駕籠町小学校
⑤⑫	本郷小学校
⑤⑬	第一中学校
⑤⑭	第三中学校
⑤⑮	第六中学校
⑤⑯	第八中学校
⑤⑰	第九中学校
⑤⑱	第十中学校
⑥①	文林中学校
⑥②	本郷台中学校
⑥③	音羽中学校
商業施設	
①	ドン・キホーテ後楽園店
②	文京グリーンコート
③	ラクーア
④	クイーンズ伊勢丹小石川店
⑤	ドン・キホーテ上野店
⑥	オリンピック白山店
宿泊施設	
①	ホテルウィングインターナショナル後楽園
②	東横イン後楽園文京区役所前
③	ザ・ビー水道橋

④	東京ドームホテル
⑤	ホテル椿山荘東京
⑥	ホテルサトー東京
⑦	ホテル機山館
⑧	フォーレスト本郷
⑨	ホテルお茶の水イン
⑩	東京ガーデンパレス
⑪	アパホテル御茶ノ水駅北
⑫	リッチモンドホテル東京水道橋
⑬	後楽ガーデンホテル
⑭	ホテルリブマックス後楽園
⑮	ドーマーイン後楽園

公園・運動場	
①	六義園
②	大塚公園
③	肥後細川庭園
④	目白台運動公園
⑤	江戸川公園
⑥	小石川後楽園
⑦	小石川植物園
⑧	教育の森公園・占春園
⑨	六義公園・六義公園運動場

鉄道駅	
①	都営地下鉄大江戸線 飯田橋駅
②	東京メトロ有楽町線 江戸川橋駅
③	東京メトロ丸ノ内線 御茶ノ水駅
④	都営地下鉄三田線 春日駅
⑤	都営地下鉄大江戸線 春日駅
⑥	東京メトロ丸ノ内線・南北線 後楽園駅
⑦	東京メトロ有楽町線 護国寺駅
⑧	東京メトロ丸ノ内線 新大塚駅
⑨	都営地下鉄三田線 水道橋駅
⑩	都営地下鉄三田線 千石駅
⑪	東京メトロ千代田線 千駄木駅
⑫	東京メトロ南北線 東大前駅
⑬	東京メトロ千代田線 根津駅
⑭	都営地下鉄三田線 白山駅
⑮	東京メトロ南北線 本駒込駅
⑯	都営地下鉄大江戸線 本郷三丁目駅
⑰	東京メトロ丸ノ内線 本郷三丁目駅
⑱	東京メトロ丸ノ内線 茗荷谷駅
⑲	東京メトロ千代田線 湯島駅

：新規生活関連施設

5

移動等円滑化に関する事項

5.1 移動等円滑化に関する主な基準等

国が定める移動等円滑化基準や整備ガイドライン、東京都や区の条例など、以下に示す移動等円滑化に関する主な基準等を踏まえて、バリアフリー化を推進します。

表 8 移動等円滑化に関する主な基準等

種別	項目	名称	所管等/作成年月
移動等円滑化基準	公共交通	移動等円滑化のために必要な旅客施設又は車両等の構造及び設備並びに旅客施設及び車両等を使用した役務の提供の方法に関する基準（公共交通移動等円滑化基準）	国土交通省【省令】 令和 6 年 12 月改正
	道 路	移動等円滑化のために必要な道路の構造及び旅客特定車両停留施設を使用した役務の提供の方法に関する基準（道路移動等円滑化基準）	国土交通省【省令】 令和 3 年 3 月改正
		移動等円滑化のために必要な道路の占用に関する基準	国土交通省【省令】 令和 3 年 1 月改正
	公 園	移動等円滑化のために必要な特定公園施設の設置に関する基準（都市公園移動等円滑化基準）	国土交通省【省令】 令和 6 年 11 月改正
	建築物	移動等円滑化のために必要な建築物特定施設の構造及び配置に関する基準（建築物移動等円滑化基準）	国土交通省【政令】 令和 6 年 6 月改正
		高齢者、障害者等が円滑に利用できるようにするために誘導すべき建築物特定施設の構造及び配置に関する基準（建築物移動等円滑化誘導基準）	国土交通省【省令】 令和 6 年 11 月改正
	交通安全	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に係る信号機等に関する基準	国家公安委員会【規則】 令和 5 年 3 月
ガイドライン等	駐車場	移動等円滑化のために必要な特定路外駐車場の構造及び設備に関する基準（路外駐車場移動等円滑化基準）	国土交通省【省令】 令和 6 年 9 月
	公共交通	公共交通機関の旅客施設に関する移動等円滑化整備ガイドライン バリアフリー整備ガイドライン【旅客施設編】	国土交通省 令和 7 年 9 月改訂
		公共交通機関の車両等に関する移動等円滑化整備ガイドライン バリアフリー整備ガイドライン【車両等編】	国土交通省 令和 7 年 9 月改訂
		公共交通機関の役務の提供に関する移動等円滑化整備ガイドライン バリアフリー整備ガイドライン【役務編】	国土交通省 令和 7 年 9 月改訂
		駅の無人化に伴う安全・円滑な駅利用に関するガイドライン	国土交通省 令和 4 年 7 月
	道 路	道路の移動等円滑化に関するガイドライン	国土交通省 令和 6 年 1 月改定
	公 園	都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン	国土交通省 令和 4 年 3 月改訂
	建築物	高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準	国土交通省 令和 7 年 5 月改訂
	駐車場	車椅子使用者用駐車施設等の適正利用に関するガイドライン	国土交通省 令和 5 年 3 月
	教育啓発	教育啓発特定事業の実施に関するガイドライン	国土交通省 令和 4 年 3 月

種別	項目	名称	所管等/作成年月
条例等	公共交通・道路・公園・建築物等	東京都福祉のまちづくり条例施設整備マニュアル	東京都 令和 5 年 10 月改訂
	道 路	都道における移動等円滑化の基準に関する条例	東京都 令和 3 年 10 月改正
	公 園	東京都立公園における移動等円滑化の基準に関する条例	東京都 令和 7 年 3 月改正
	建築物	高齢者、障害者等が利用しやすい建築物の整備に関する条例（建築物バリアフリー条例）	東京都 令和 7 年 3 月改正
	交通安全	東京都高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に係る信号機等の基準に関する条例	東京都 令和 5 年 6 月改正
	駐車場	東京都駐車場条例	東京都 令和 4 年 3 月改正
		障害者等用駐車区画の適正利用に向けたガイドライン	東京都 平成 25 年 8 月
	情報提供・コミュニケーション	文京区手話言語条例	文京区 令和 6 年 3 月
		文京区障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通の促進に関する条例	文京区 令和 6 年 3 月

5.2 移動等円滑化に向けた配慮事項

旧基本構想では、高齢者や障害者等を含む全ての人が利用しやすい施設の整備に向けて、アンケートやワークショップ、地域懇談会を実施し、区民から現状の課題や意見等を収集し、その中から特に要望が多かった内容を施設ごとに「移動等円滑化に向けた配慮事項」として整理しました。

また、旧基本構想の中間評価（令和 5 年 3 月）では、中間評価時点までの取組やガイドラインの改定等を踏まえ、「移動等円滑化に向けた配慮事項」の内容を更新しています。

新たなバリアフリー基本構想の検討にあたり、近年の関連法令等やガイドラインの改定、旧基本構想の最終評価で実施したアンケートや地域懇談会における区民の意見等を踏まえ、「移動等円滑化に向けた配慮事項」の内容を更新しました。

施設整備においては、構造上の制限や整備財源等、さまざまな課題がありますが、可能な限りこれらの配慮事項を踏まえた整備が望ましいため、「移動等円滑化に向けた配慮事項」の内容を関係事業者に周知することで、それぞれの事業推進の中で取組を実施していただけるよう働きかけていきます。

- ※1) 配慮事項は区民意見等を基に整理しており、関連ガイドラインに示された整備水準を考慮しておりません。
- ※2) オレンジ色で示した内容は旧基本構想の中間評価において更新したもの、青字は今回の改定において更新したものです。

5.2.1 公共交通の移動等円滑化

(1) 旅客施設（鉄道駅）

項目	共通の配慮事項
①通路	<p>出入口から各ホームまでのバリアフリー化された経路を複数確保するとともに、他の経路と比べて極端に遠回りにならないようにする（乗換時も同様）。</p> <p>動線が錯綜する通路では、視覚障害者が安心して移動できる誘導経路を確保（輝度比が確保された視覚障害者誘導用ブロックの配置）する。</p>
②上下移動	<p>階段は、段鼻の色を強調し、段を識別しやすいようにする。</p> <p>エレベーターは、障害者が利用しやすい構造とする（十分な広さ、開延長ボタン、車いす使用者対応操作ボタン、足下まで見える鏡、浮き彫り表示のボタン、音声案内、緊急時等に情報提供を行う表示装置、ガラス窓など）。</p> <p>エスカレーターは、上り専用のものと下り専用のものをそれぞれ設置する。</p>
③ホーム	<p>転落防止のため、ホームドアや可動式ホーム柵、又は内方線付点状ブロックを設置する。※全駅対応済み</p> <p>ホームの幅員が狭い箇所には、車いす使用者や視覚障害者に配慮した注意喚起や安全対策を実施する。</p> <p>ホームと車両の隙間や段差は、できる限り小さくする。</p> <p>乗降位置を表示するとともに、視覚障害者がわかりやすい位置に点字を貼付する。</p> <p>乗降や移動を妨げない位置に配慮し、ベンチを設置する。</p> <p>視覚障害者や高齢者に配慮した適切な照度を確保する。</p>
④券売機等	<p>車いす使用者でも近づきやすいよう蹴込みを設け、タッチパネルが見やすい（反射しない）券売機等を設置する。</p> <p>特に無人改札口では、職員等とやりとりができるように、インターホンを設置し、視覚障害者がその位置をわかるように音声案内を設置する。</p> <p>特に無人改札口では、インターホン等を活用できない聴覚障害者等への適切な対応方法を検討する。</p>
⑤トイレ	<p>車いす使用者が円滑に利用できるトイレを設置する（十分な広さ、可動式手すり、オストメイト対応設備、大型ベッド、着替え台、開閉しやすい扉、わかりやすいボタン配置など）。</p> <p>車いす使用者用トイレを2箇所以上設置する場合は、左右反転タイプの便座を用意するなど、左麻痺・右麻痺などの利用者に配慮する。</p> <p>異性介助や性的マイノリティへの配慮の観点から、男女共用トイレを整備することが望ましい。</p> <p>車いす使用者用トイレの利用の集中を分散するため、一般トイレに広めの個室や乳幼児用設備（ベビーチェアや幼児用便座など）、オストメイト対応設備を設置する。</p> <p>車いす使用者用トイレや一般トイレの個室に設ける荷物台や荷物掛けは、車いす使用者や高齢者等の利用に配慮し、低い位置に設置する。</p> <p>壁や手すり等の色にコントラストを設けることにより、弱視者等が空間把握しやすいように配慮する。</p> <p>非常事態を聴覚障害者等に知らせることができるフラッシュライト等を設ける。</p>

項目	共通の配慮事項
⑥案内設備・情報のバリアフリー	バリアフリー化された経路や乗継経路、バリアフリー設備等の情報がわかる案内図や、ピクトグラムなどの活用・ 多言語化された 大きくわかりやすい案内表示を設ける。
	駅のウェブサイトがある場合は、ウェブアクセシビリティに配慮するとともに、駅構内の案内やバリアフリー設備等の情報提供を行う。
	エスカレーターによる経路が連続していない場合(途中から階段による上下移動が必要となる場合)は、あらかじめその旨がわかるように経路の端部に案内を掲示する。
	改札口やトイレ、エスカレーター等に音声案内を設置する。また、駅構内やトイレの配置がわかる触知案内図を設置する。
	サインの情報内容や表現方法、設置位置がわかりやすいように配慮するとともに、可変式情報表示装置を設置し、緊急時等の情報をタイムリーに伝達できるようにする。
	エレベーターや 車いす使用者用 トイレでは、障害者等が優先的に利用できるように配慮する(案内の表示など)。
⑦役務の提供(人的・ICT対応)	職員による案内やサポートなどの対応を充実する。
	手話対応が可能な職員の配置や遠隔手話等のサービスを活用する。
	音声・文字情報など多様な手段に対応した ICT の利用により適切な支援を行う。
⑧教育啓発・心のバリアフリー	筆談用具を設け、筆談用具があることを示す案内を表示する。
	多様な利用者への適切な対応や 障害の社会モデルへの理解 について職員の教育を実施する。
	駅や車両利用のマナー・ルール等について、利用者への啓発を行う。

● 参考:旅客施設のバリアフリー化



ホームドア



可動式ホーム柵



スマホでインターホン



みえるアナウンス

(2) バス

項目	共通の配慮事項
①車両	ノンステップ化や車いす使用者・ベビーカー利用者が利用しやすい広めの乗降口の確保など、バリアフリー化された車両への代替を促進する。
②バス乗降場・停留所	バス停へのベンチ・上屋の設置や十分な待合スペースを確保する。(道路管理者との連携) バスが正着(停留所に寄せてまっすぐ停車)しやすく、車両との段差が生じない構造に改良する。(道路管理者との連携)
③案内設備・情報のバリアフリー	バス乗降場や停留所における案内を充実する(わかりやすい路線図・乗継案内、ノンステップバス運行の表示、多言語表記など)。 バス接近表示システムの導入(音声案内・電光表示)を促進する。
④役務の提供(人的・ICT対応)	バス停への正着やニーリング(車両を傾けて段差を緩和する)を徹底する。 筆談用具を設け、筆談用具があることを示す案内を表示する。
⑤教育啓発・心のバリアフリー	多様な利用者への適切な対応や障害の社会モデルへの理解について乗務員の教育を実施する。 バス利用のマナー・ルール等について、利用者への啓発を行う。

● 参考:バスのバリアフリー化



ノンステップバス



バリアフリー化されたバス停留所

(3) タクシー

項目	共通の配慮事項
①車両	車いす使用者等も利用できる福祉タクシー・ユニバーサルデザインタクシーの導入を促進する。
②役務の提供(人的・ICT対応)	筆談用具を設け、筆談用具があることを示す案内を表示する。
③教育啓発・心のバリアフリー	多様な利用者への適切な対応や障害の社会モデルへの理解について乗務員の教育を実施する。

5.2.2 道路の移動等円滑化

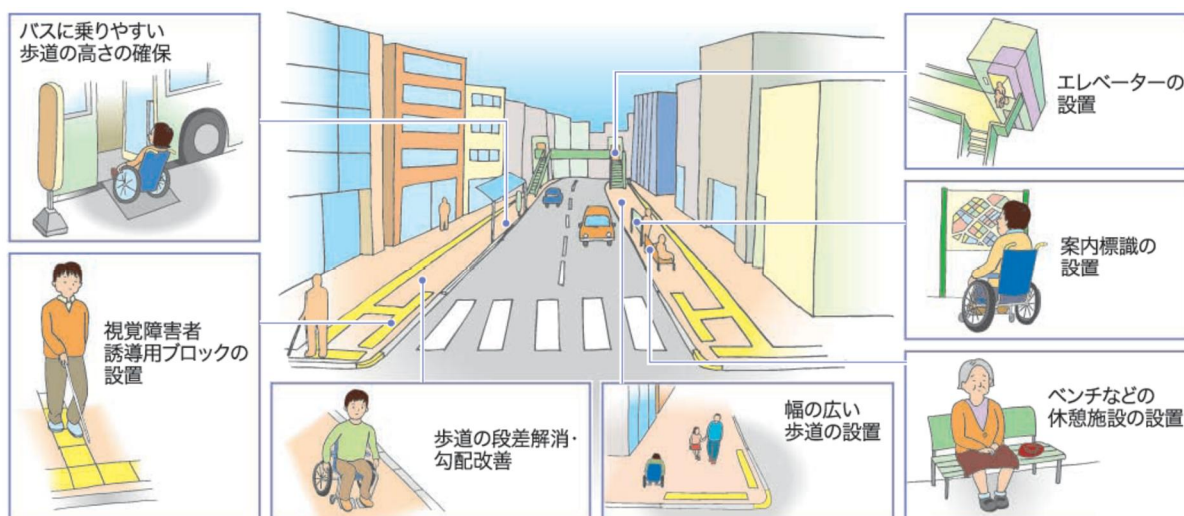
(1) 歩道のある道路

項目	共通の配慮事項
①整備	歩道の大規模改良・更新時に移動等円滑化基準に適合した道路整備を行うとともに、コミュニティ道路整備を進めるなど、歩行者が安全かつ安心して利用できる道路環境を整備する。
	車両乗入れ部や交差点部における歩道内の勾配をゆるくする。
	バス停留所を設置する歩道は、バスに円滑に乗降できる高さとし、 輝度比が確保された 視覚障害者誘導用ブロックを設置するとともに、十分な待合スペースを確保する。(バス事業者と連携)
	車いす使用者やベビーカー利用者が移動しやすい舗装を行う。
	歩車道境界ブロックは、視覚障害者が認識でき、車いす使用者が円滑に通行できるものにする。
	歩車道境界やバス停留所、生活関連施設を中心に、移動の連続性に配慮し、 輝度比が確保された 視覚障害者誘導用ブロックを敷設する。(関係事業者と連携)
	管理者が異なる道路の境界部等で、視覚障害者誘導用ブロックが断絶しないように整備する。(関係事業者と連携)
	歩行者の通行が想定される場所の側溝のフタ(グレーチング)などは、白杖や車いす使用者の移動の障害とならないよう、目の細かいものなどにする。
	歩行者等の通行の支障とならない範囲で、日陰を確保したり、ベンチ等の休憩施設の設置に努める。
	歩道の安全性を高めるため、 自転車ネットワーク路線の通行 空間整備を推進する。
②安全対策	電柱や街灯、案内サイン等の占用物件や付属物が歩行者の通行の妨げとならないように配慮する。
	長く続く坂道では、車いす使用者等が安心して滞留できるスペース(平坦な踊り場等)や高齢者等が休憩できるお休み石の設置に努める。
③案内設備・ 情報の バリアフリー	生活関連経路上の主要な箇所(駅周辺、主要交差点、生活関連施設付近の交差点など)に、多様な利用者に配慮した見やすくなりやすい案内表示の設置に努める(必要に応じて点字表示・音声案内・ 多言語化 など)。
	エレベーターやスロープなどの案内は、ピクトグラム等を活用し、大きくわかりやすいものを設置する。
④維持管理	舗装や視覚障害者誘導用ブロック、案内設備、植栽の枝などの適切な維持管理に配慮する。
	工事中や仮復旧中も多様な利用者が困ることのないよう、安全に通行できる幅員の確保や凹凸の除去、安全な通行位置への誘導などに配慮する。
⑤教育啓発・ 心の バリアフリー	視覚障害者誘導用ブロック上への放置自転車や看板、商品陳列等の不法占用物件への指導を行い、適切な機能を確保する。
	自転車利用者へのルール・マナーの啓発を推進する。(交通管理者と連携)
	道路利用者に対して、助け合いの意識を喚起する標識や勾配に関する案内の設置に努める。

(2) 歩道のない道路

項目	共通の配慮事項
①整備	コミュニティ道路整備を進めるなど、歩行者が安全かつ安心して利用できる道路環境を整備する。
	歩行者の通行が想定される場所の側溝のフタ(グレーチング)などは、白杖や車いす使用者の移動の障害とならないよう、目の細かいものなどにする。
	バス停留所を設置する道路は、安全な待合空間を確保する。(バス事業者と連携)
	自転車ネットワーク路線の通行空間整備を推進する。
②安全対策	路側帯の拡幅や平坦化、ガードレール等の設置、舗装のカラー化、一方通行化、駐停車抑制策など、経路の実情に合った交通安全対策を検討する。(交通管理者と連携)
	電柱や街灯、案内サイン等の占用物件や付属物が歩行者の通行の妨げとならないように配慮する。
	長く続く坂道では、滑りにくい舗装に配慮するとともに、必要に応じて 2段手すり の設置などを検討する。
③案内設備・ 情報の バリアフリー	生活関連経路上の主要な箇所(生活関連施設付近の交差点など)に、多様な利用者に配慮した見やすくてわかりやすい案内表示の設置に努める(必要に応じて点字表示・音声案内・ 多言語化 など)。
④維持管理	舗装や案内設備などの適切な維持管理に配慮する。
	工事中や仮復旧中も多様な利用者が困ることのないよう、安全に通行できる幅員の確保や凹凸の除去、安全な通行位置への誘導などに配慮する。
⑤教育啓発・ 心の バリアフリー	放置自転車や看板、商品陳列等の不法占用物件及び植栽の枝などへの指導を行い、適切な機能を確保する。
	自転車利用者へのルール・マナーの啓発を推進する。(交通管理者と連携)
	道路利用者に対して、助け合いの意識を喚起する標識や勾配に関する案内の設置に努める。

● 参考:道路のバリアフリー化(国土交通省資料、文京区ホームページなど)





バリアフリー化された歩道



コミュニティ道路(歩道あり)



コミュニティ道路(歩道なし:路面表示)



コミュニティ道路(歩道なし:路面表示)



コミュニティ道路(歩道なし:狭さく)



助け合いの意識を喚起する標識
(坂道)

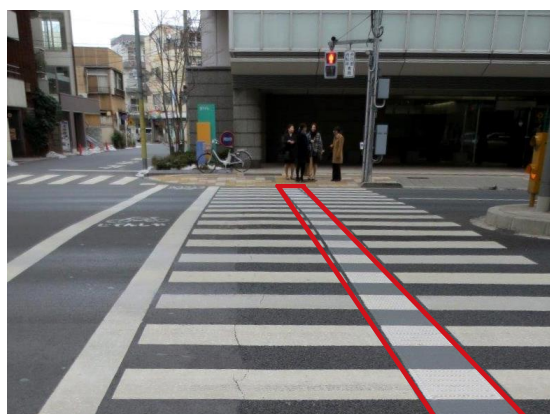


急な坂道への手すりの設置

5.2.3 信号機等の移動等円滑化

項目	共通の配慮事項
①信号機等	<p>生活関連経路上の信号交差点には、バリアフリー化された信号機(音響式や経過時間表示式、高度化PICS対応型信号機など)を設置するとともに、付帯機材の位置に配慮する。</p> <p>主要な交差点や複雑なかたちの交差点において、エスコートゾーンの設置を検討する。</p> <p>高齢者、障害者が安全に横断できるよう、適切な青時間を確保する(歩行者用青信号の延長など)。</p> <p>標識、標示の高輝度化や信号機のLED化により見やすさを向上する。</p>
②安全対策	<p>【歩道のない生活道路】 路側帯の拡幅や平坦化、ガードレールの設置、舗装のカラー化、一方通行化、駐停車抑制策など、経路の実情に合った交通安全対策を検討する。(道路管理者と連携)</p> <p>違法駐車取締りや防止についての広報・啓発を推進する。</p>
③維持管理	信号機やエスコートゾーン等の適切な運用・維持管理に配慮する。
④教育啓発・心のバリアフリー	自転車利用者へのルール・マナーの啓発を推進する。(道路管理者と連携)

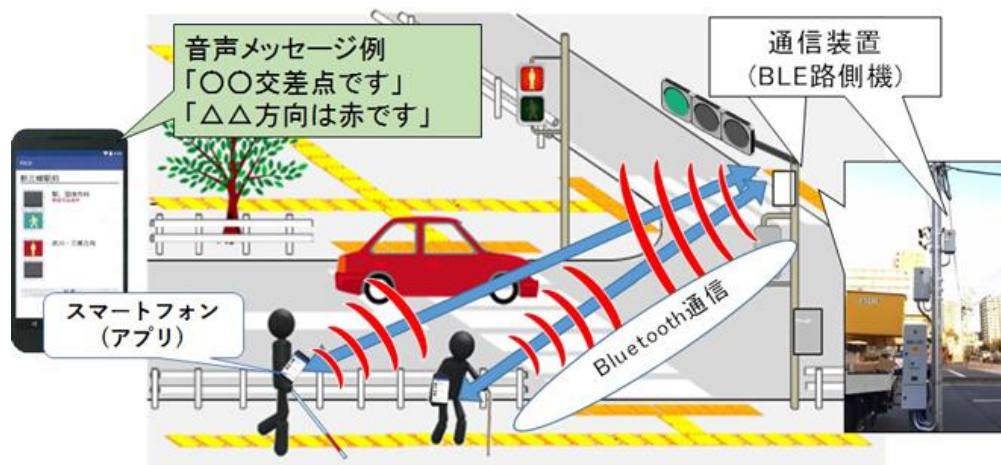
● 参考:信号機等のバリアフリー化(国土交通省資料、警察庁資料など)



エスコートゾーン



経過時間表示式信号機



高度化 PICS 対応型信号機

5.2.4 建築物の移動等円滑化（駐車場を含む）

項目	共通の配慮事項
①出入口・敷地内通路	<p>道路と建築物の連続性に配慮し、段差を解消するとともに、歩道上から出入口、建物内の案内施設まで連続し、輝度比が確保された視覚障害者誘導用ブロックを設置する。</p> <p>主要な出入口は自動ドアなど通行しやすい扉とし、車いす使用者やベビーカー利用者等に配慮した幅を確保する(80cm 以上)。</p>
②建物内通路	<p>主要な通路は、物や設備などで狭くならないように配慮する(120cm 以上)。</p> <p>主要な通路に段差がある場合はスロープを設置するなどして段差を解消する。</p>
③上下移動	<p>2 階以上の建築物には、エレベーターを設置する。</p> <p>エレベーターは、障害者が利用しやすい構造とする(十分な広さ、開延長ボタン、車いす使用者対応操作ボタン、足下まで見える鏡、浮き彫り表示のボタン、音声案内、緊急時等に情報提供を行う表示装置、ガラス窓など)。</p> <p>階段は、段鼻の色を強調し、段を識別しやすいようにする。</p> <p>階段には両側に2段手すりを設け、行先を点字で表示するとともに、手すりの端部は巻き込むようにする。</p>
④トイレ	<p>車いす使用者が円滑に利用できるトイレを設置する(十分な広さ、可動式手すり、オストメイト対応設備、大型ベッド、着替え台、開閉しやすい扉、わかりやすいボタン配置など)。</p> <p>車いす使用者用トイレを複数設置する。車いす使用者用トイレを2箇所以上設置する場合は、左右反転タイプの便座を用意するなど、左麻痺・右麻痺などの利用者に配慮する。</p> <p>異性介助や性的マイノリティへの配慮の観点から、男女共用トイレを整備することが望ましい。</p> <p>車いす使用者用トイレの利用の集中を分散するため、一般トイレに広めの個室や乳幼児用設備(ベビーチェアや幼児用便座など)、オストメイト対応設備を設置する。</p> <p>車いす使用者用トイレや一般トイレの個室に設ける荷物台や荷物掛けは、車いす使用者や高齢者等の利用に配慮し、低い位置に設置する。</p> <p>壁や手すり等の色にコントラストを設けることにより、弱視者等が空間把握しやすいように配慮する。</p> <p>非常事態を聴覚障害者等に知らせることができるフラッシュライト等を設ける。</p>
⑤駐輪場・駐車場	<p>利用者などの駐輪が出入口や通路、視覚障害者誘導用ブロックなどを遮らないように配慮する。</p> <p>出入口に近い場所に十分な広さの障害者用駐車施設(幅350cm 以上)を設置し、わかりやすく標示するとともに、適切な利用を促すように利用者への啓発を行う。</p> <p>後部ドアから車いす使用者の乗降のためのスロープ・リフトの出る車両の利用を考慮し、障害者用駐車施設の後部に奥行き300cm程度の乗降スペースを確保する。</p>

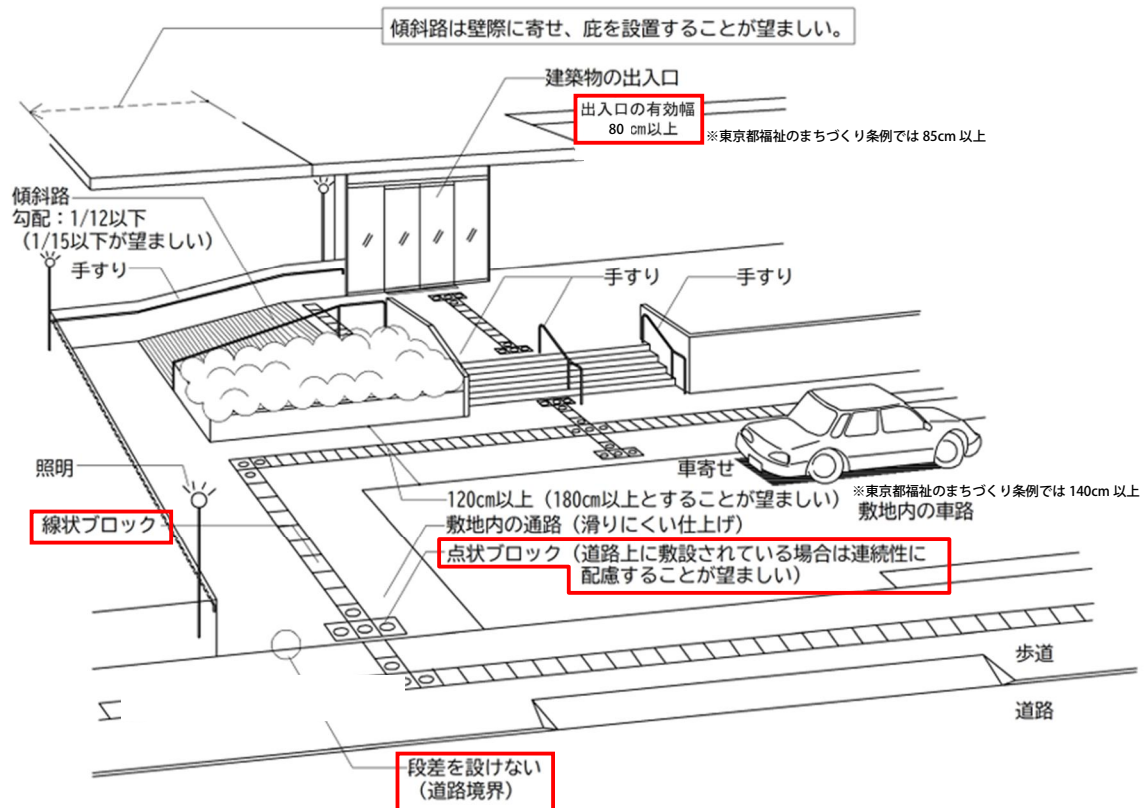
項目	共通の配慮事項
⑥案内設備・ 情報の バリアフリー	バリアフリー化された経路や非常口、バリアフリー設備等の情報がわかる案内図や、ピクトグラムなどの活用・ 多言語化された 大きくわかりやすい案内表示を設ける。
	施設のウェブサイトがある場合は、ウェブアクセシビリティに配慮するとともに、施設案内やバリアフリー設備等の情報提供を行う。
	建築物出入口やトイレ、エレベーター等に音声案内を設置する。また、トイレの配置がわかる触知案内図を設置する。
	エレベーターや 車いす使用者用 トイレでは、障害者等が優先的に利用できるように配慮する(案内の表示など)。
	病院など順番待ちのある施設では、呼出受信機を導入し、音声と文字情報で案内するなど、聴覚障害者や視覚障害者に対応した呼び出し方法に配慮する。
⑦その他設備	受付や記入台は、車いす使用者が接近しやすい構造とする。
	貸出し用の車いすやベビーカー等を設置し、案内を表示する。
	授乳室やおむつ交換台、ベンチを設置する。
	講演を行うホール等ではヒアリンググループを導入し、設備が使える旨を主催者や参加者に周知する。
	講演を行うホール等では、サイトラインが確保された車いす使用者用客席を設け、その横に同伴者用の客席(スペース)を設ける。
⑧人的対応・ 接遇・ ICT 対応	職員による案内やサポートなどの対応を充実する。
	手話対応が可能な職員の配置や遠隔手話等のサービスを活用する。
	音声・文字情報など多様な手段に対応した ICT の利用により適切な支援を行う。
	建築物出入口から受付・窓口までの経路に視覚障害者誘導用ブロックを配置し、受付・窓口からは職員が対応するなど、連続的な誘導に配慮する。
	コミュニケーション支援ボードや筆談用具を設け、設置を示す案内を表示する。
	道路に面した敷地内には歩行者が休憩できるベンチの設置を検討する。
⑨教育啓発・ 心の バリアフリー	多様な利用者への適切な対応や 障害の社会モデルへの理解 について職員の教育を実施する。

● 参考:建築物のバリアフリー化

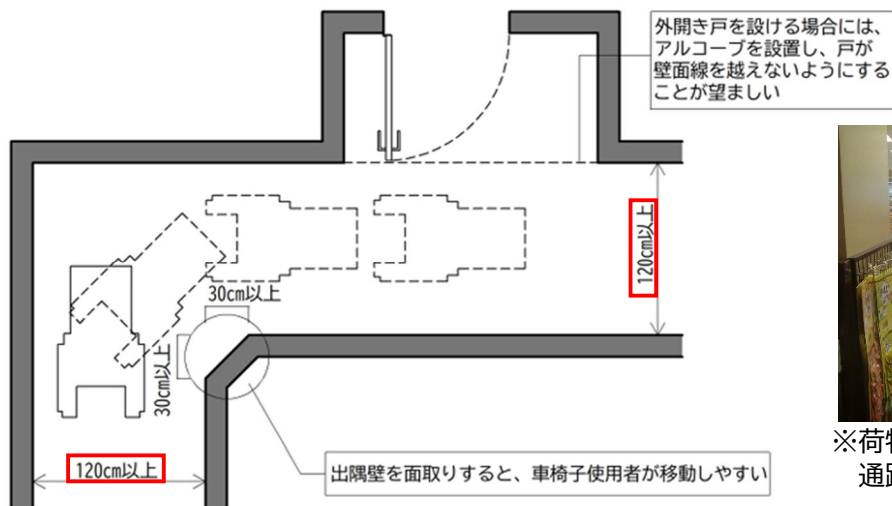
(高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準より抜粋・作成ほか)

① 出入口・敷地内通路

赤枠で囲んだものは、『共通の配慮事項』に設定した基準です。

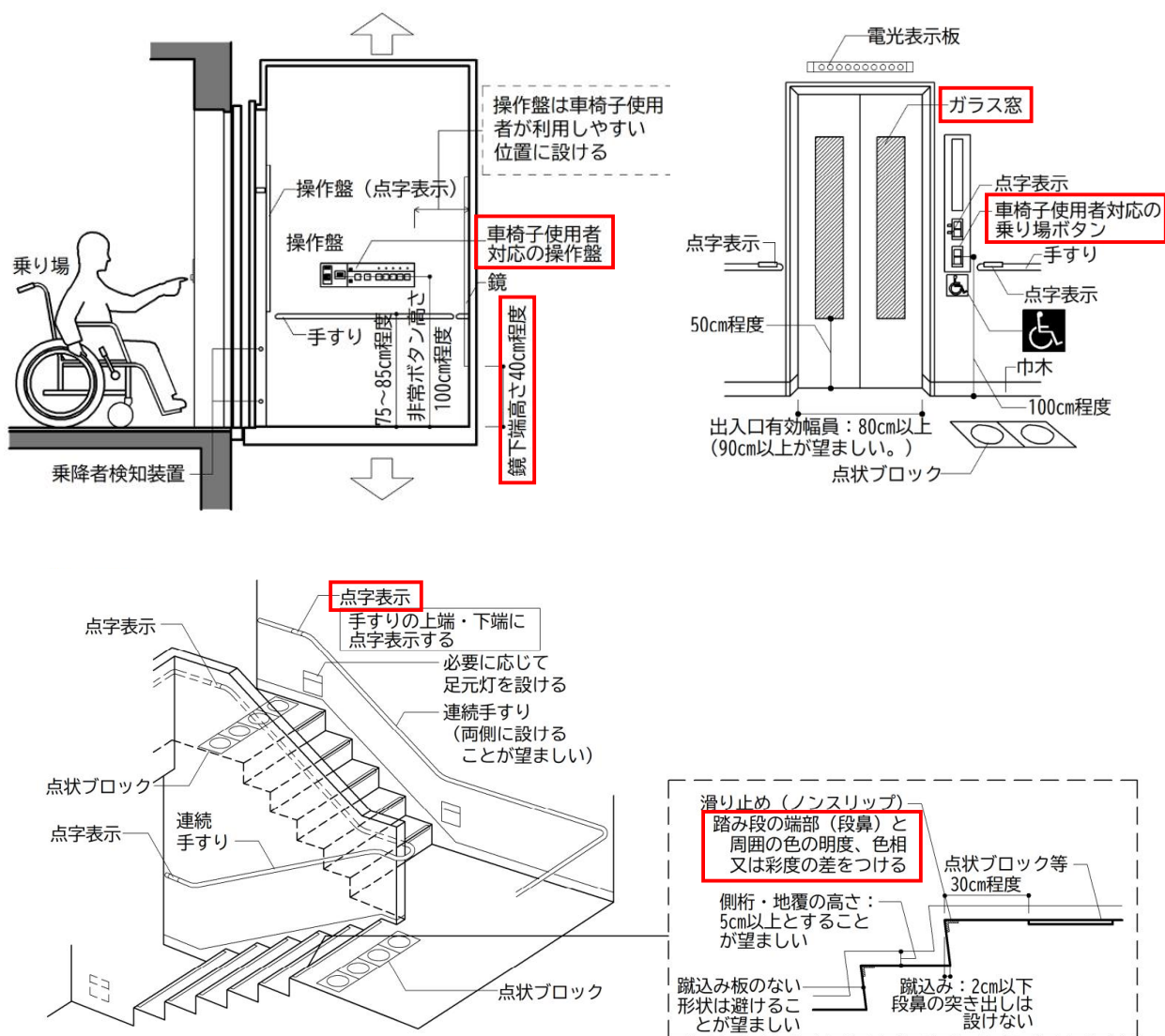


② 建物内通路



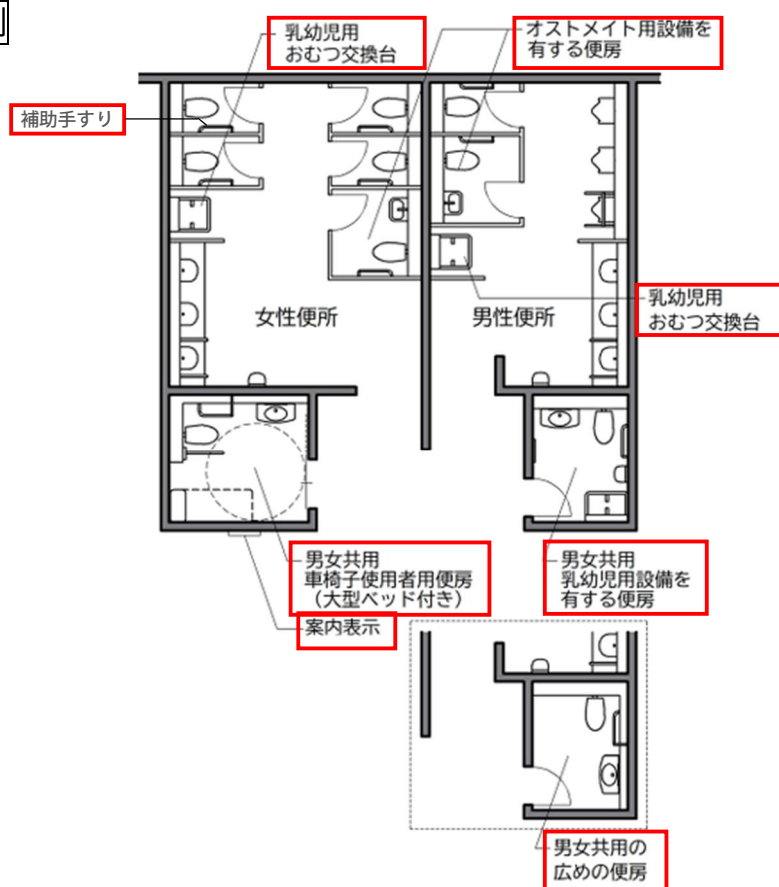
※荷物などを置かず、可能な限り通路の幅を広くする

③上下移動



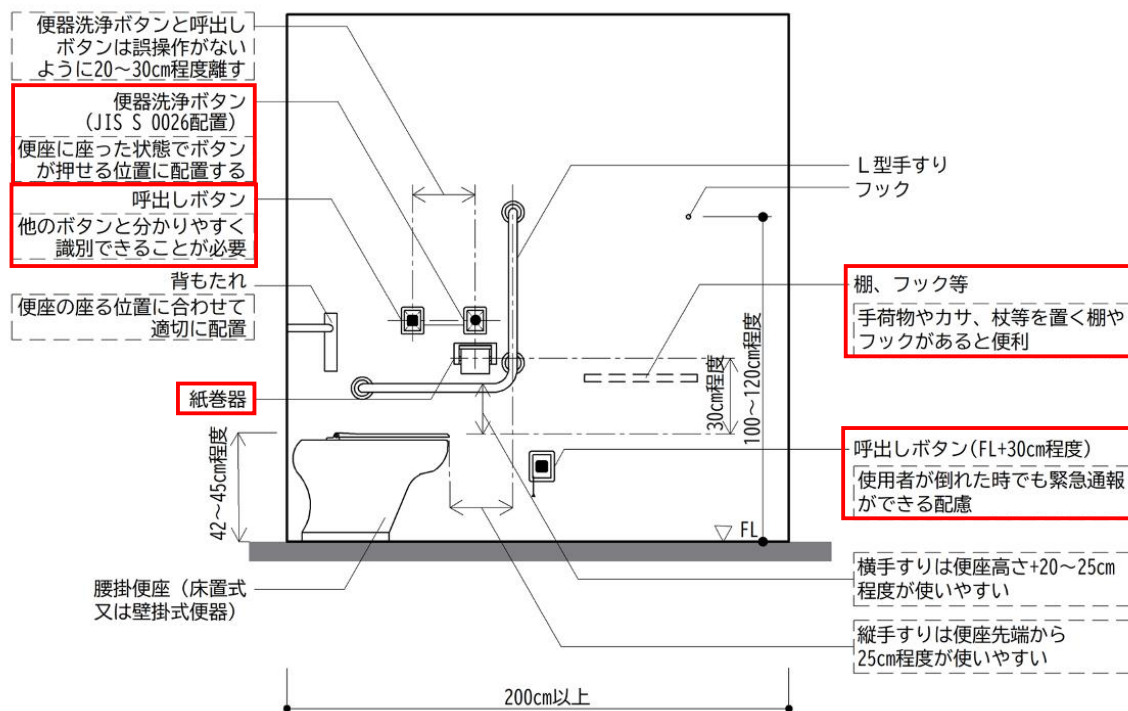
④トイレ

トイレの配置例

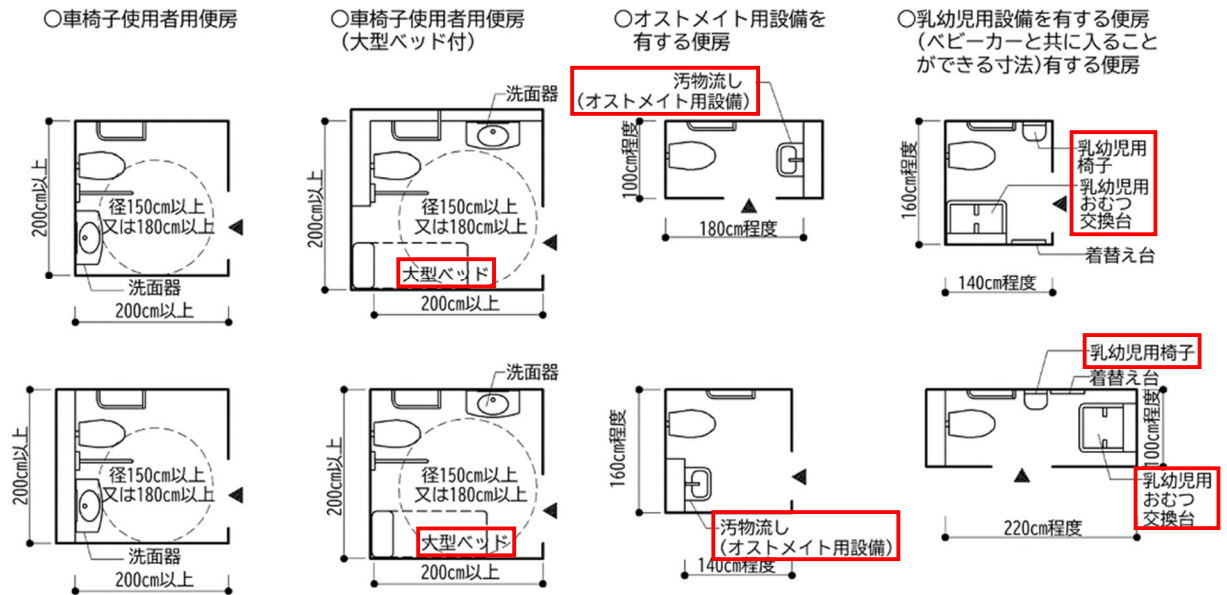


○ボタン等の配置

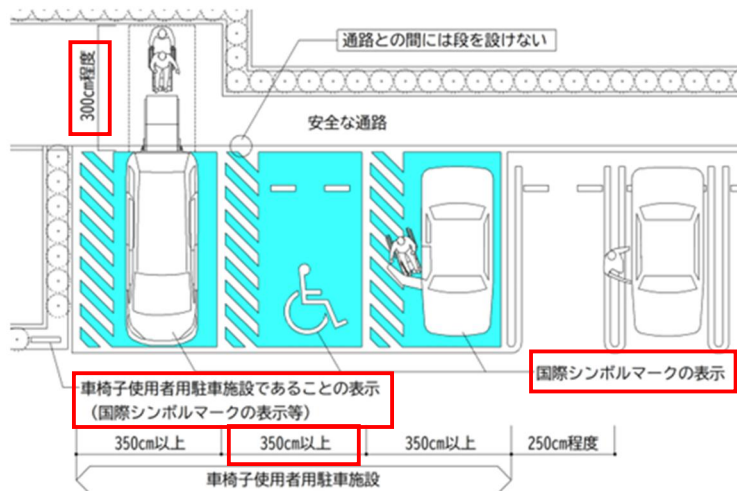
<車椅子使用者用便房の例>



<各便所の寸法例>



⑤駐輪場・駐車場

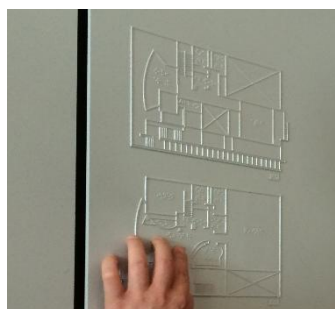


一都三県共同マナーアップ CP ポスター (2024年度)(都庁総合ホームページより)

⑥案内設備・情報のバリアフリー



ピクトグラムによる案内

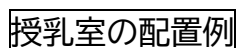


触知図や音声による案内



総合案内(人による対応)

窓口・カウンターの例



長椅子や肘掛けのついた椅子が望ましい。

＜解説＞

- ・肘掛けがあると授乳が楽になる場合がある。(クッションや踏み台等による代替可能)
- ・長い椅子であれば子供が腰掛けることが可能。
- ・背もたれがある方が授乳の体勢が安定する。

荷物を置くための台、フックやハンガーを設ける。電動の搾乳機等を利用するための電源があると良い。

＜解説＞

- ・乳幼児連れは、荷物が多い。

授乳・搾乳のためのスペースには、仕切りを設ける。

＜解説＞

- ・スペースに余裕があれば、仕切りは、カーテンではなく鍵のついた戸とする方がよい。
- ・利用者が多く待ちが出る場合等は、個室だけでなく共用の授乳スペースを設けることも有効である。

ベビーカーで授乳・搾乳のためのスペースに入れる方が望ましい。

＜解説＞

- ・ベビーカーから乳幼児を抱き上げて移動するよりベビーカーごとの移動の方がスムーズ。
- ・授乳に必要なものをベビーカーに収納しており、近くにおいておきたい。
- ・荷物(購入した物品等)の盗難防止。

男性が入れない授乳・搾乳のためのスペースを設置する。

＜解説＞

- ・男性が入れないように戸を設ける。
- ・「授乳中」や「搾乳中」等の表示ができるようにするなど、内部の使用状況がわかるとよい。
- ・授乳中に閲覧可能な情報(地域の子育て関連情報)の提供等があるとよい。
- ・1以上のスペースは、車椅子使用者が利用できるものとすることが望ましい。

共用スペースに椅子を設置する。

＜解説＞

- ・人工乳を与える際に男性でも利用が可能となる。
- ・哺乳びんを置く台等があると便利。
- ・離乳食を食べさせたりするための子供用椅子があるとよい。

シンクを設置する。

＜解説＞

- ・ハンドソープやペーパータオルを設置することが望ましい。
- ・洗浄した哺乳瓶や搾乳機等を置くスペースを広くする。

自販機等

- ・おむつやおしりふき、液体ミルク、離乳食等の自動販売機があると便利。
- ・ジュース等の自動販売機や冷水器等があると、ミルクを飲まない子供や授乳中で水分を多く必要とする母親にとって有効。
- ・冷水器は、調乳時、お湯に溶かした粉ミルクを冷やす際にも有効。
- ・離乳食を温めるための電子レンジがあると便利。

おむつ交換台をニーズに合わせて設置する。

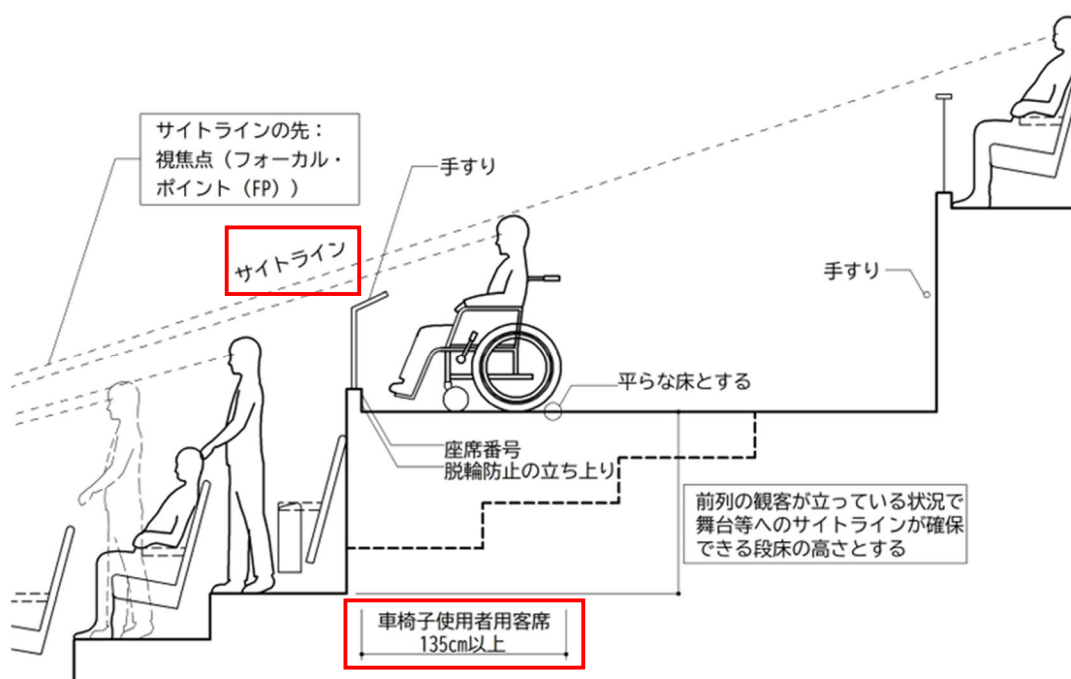
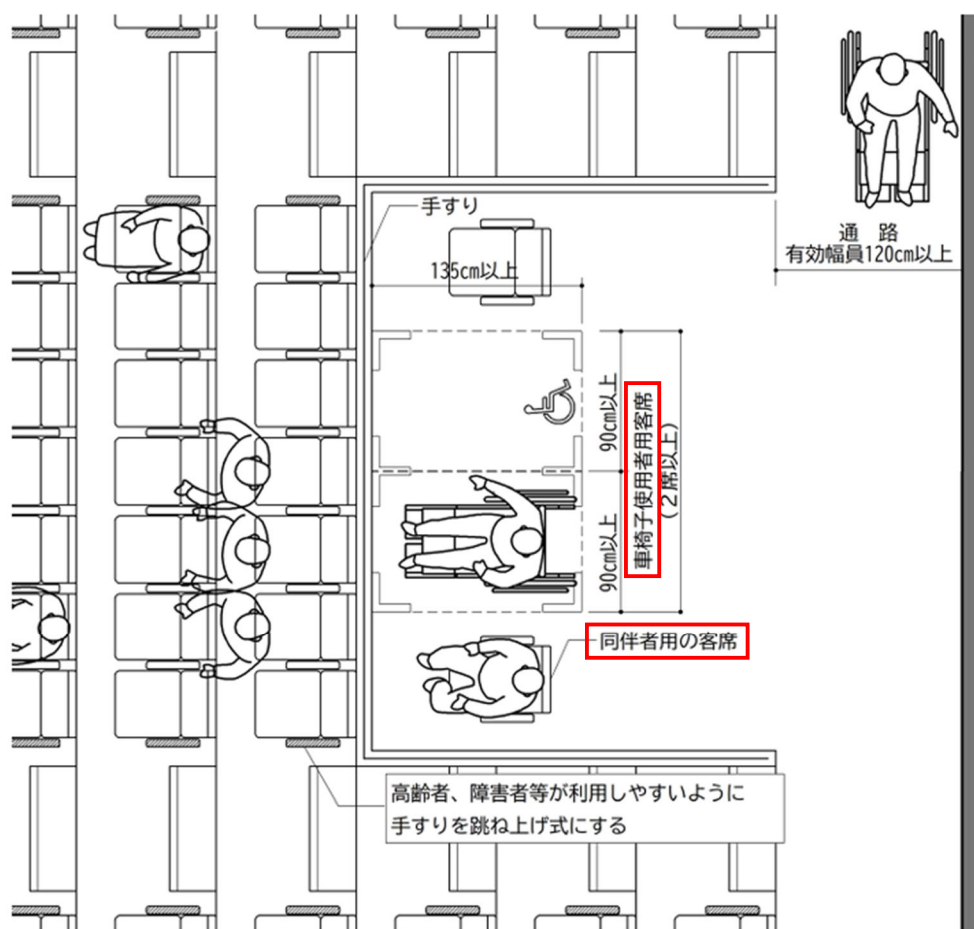
＜解説＞

- ・利用ニーズに合わせた台数を設置する。
- ・広さにゆとりがあれば、トレーニングパンツ用(立った状態でおむつ替えが可能な高さで低い台)もあるとよい。
- ・おむつゴミはにおわないように工夫する。おむつ用のゴミ箱を設けるほか、普通のゴミ箱も設置することが望ましい。
- ・衛生面に配慮し、使い捨てのおむつ替えシート等があるとよい。
- ・複数の乳幼児用おむつ交換台を設ける場合には、車椅子使用者が利用できるものを1以上設ける。

出入口

- ・引き戸にするとともに、内部の様子がわかるようにする。
- ・内部の設備配置等の状況、男女の入室可否等を図記号(ピクトグラム)と文字の併記によりわかりやすく表示する。

車いす使用者用客席の配置例



⑧人的対応・接遇・ICT 対応



耳マーク・筆談用具



コミュニケーション支援ボード
(公益財団法人明治安田こころの健康財団より)



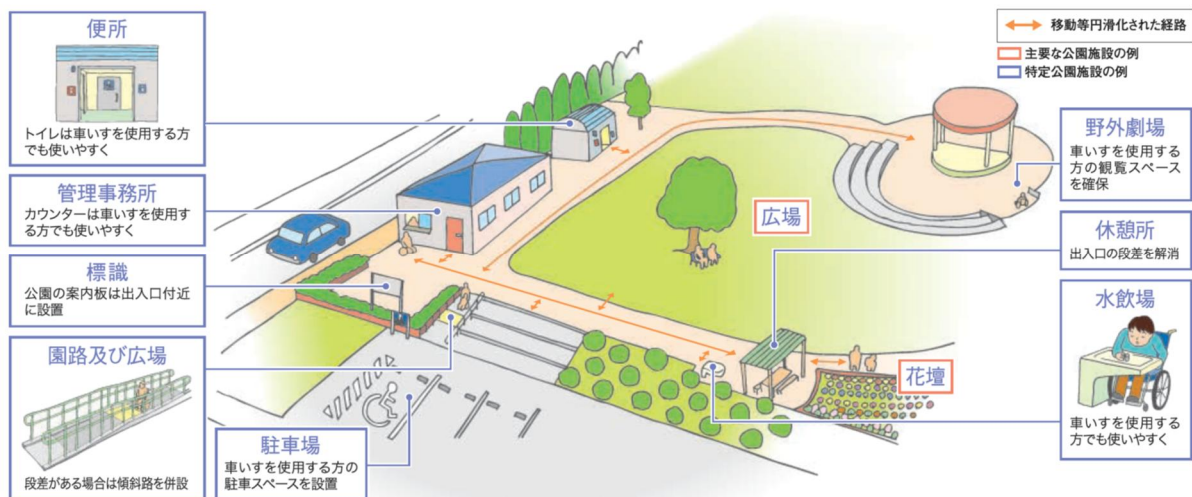
音声を文字に、外国語も翻訳できる
機能がある透明ディスプレイ

5.2.5 都市公園の移動等円滑化

項目	共通の配慮事項
①出入口	敷地境界(道路等と公園敷地)に通行の支障となる段差や勾配を設けない。
	車いす使用者やベビーカー利用者等が通るのに十分な出入口幅を確保する(90cm以上)。
	歩道上から出入口、主要な施設まで連続し、 輝度比が確保された 視覚障害者誘導用ブロックを設置する。
②園路	主要な園路は平坦で固くしまっていて滑りにくい路面とする。
	主要な園路には段差を設けない。
	主要な園路は車いす使用者等が通るのに十分な通路幅を確保する(120cm以上)。
③トイレ	車いす使用者が円滑に利用できるトイレを設置する(十分な広さ、可動式手すり、オストメイト対応設備、 大型ベッド、着替え台、開閉しやすい扉、 わかりやすいボタン配置など)。
	車いす使用者用トイレを2箇所以上設置する場合は、左右反転タイプの便座を用意するなど、左麻痺・右麻痺などの利用者に配慮する。
	異性介助や性的マイノリティへの配慮の観点から、男女共用トイレを整備することが望ましい。
	車いす使用者用トイレの利用の集中を分散するため、一般トイレに広めの個室や乳幼児用設備(ベビーチェアや幼児用便座など)、 オストメイト対応設備 を設置する。
	車いす使用者用トイレや一般トイレの個室に設ける荷物台や荷物掛けは、車いす使用者や高齢者等の利用に配慮し、低い位置に設置する。
	壁や手すり等の色にコントラストを設けることにより、弱視者等が空間把握しやすいように配慮する。
④休憩施設	日陰を確保したり、ベンチ等の休憩施設を設置する。
	車いす使用者等が利用しやすい構造の水飲み場を設置する。
⑤駐輪場・駐車場	出入口に近い場所に十分な広さの障害者用駐車施設(幅350cm以上)を設置し、わかりやすく標示するとともに、適切な利用を促すように利用者への啓発を行う。
	後部ドアから車いす使用者の乗降のためのスロープ・リフトの出る車両の利用を考慮し、障害者用駐車施設の後部に奥行き300cm程度の乗降スペースを確保する。
⑥案内設備・情報のバリアフリー	バリアフリー化された経路やバリアフリー設備等の情報がわかる案内図や、ピクトグラムなどを活用した大きくわかりやすい案内表示を設ける(必要に応じて点字表示・音声案内・ 多言語化 など)。
	施設のウェブサイトがある場合は、ウェブアクセシビリティに配慮するとともに、施設案内やバリアフリー設備等の情報提供を行う。
⑦維持管理	園路やトイレ、案内設備、植栽の枝などの適切な維持管理に配慮する。
	利用者の駐輪が、出入口やスロープ、視覚障害者誘導用ブロックなどを遮らないように配慮する。

項目	共通の配慮事項
⑧その他設備	<p>庭園など文化的景観を有する公園では、可能な範囲で園路等のバリアフリー化に努めるとともに、整備が難しい場合には案内などによる情報提供を充実する。</p> <p>避難場所に指定されている場合は、音声放送設備だけでなく電光掲示等による文字情報の提供設備の設置にも配慮する。</p>
⑨人的対応・ 接遇・ ICT 対応 〔管理事務所がある場合〕	<p>職員による案内やサポート、悪路に対応した車いすの貸出などの対応を充実する。</p> <p>手話対応が可能な職員の配置や遠隔手話等のサービスを活用する。</p> <p>音声・文字情報など多様な手段に対応した ICT の利用により適切な支援を行う。</p> <p>コミュニケーション支援ボードや筆談用具を設け、設置を示す案内を表示する。</p>
⑩教育啓発・ 心の バリアフリー 〔管理事務所がある場合〕	<p>多様な利用者への適切な対応や障害の社会モデルへの理解について職員の教育を実施する。</p>

● 参考：都市公園のバリアフリー化(国土交通省資料)



車いすが通行可能なルートを示した案内板



休憩施設(ベンチの設置)

6.1 心のバリアフリーの推進

「点から面へ、みんなの心へ、バリアフリーの輪を広げよう」の目標のもと、区全体で取組を進めていくためには、道路や建築物などのハード面をバリアフリー化するだけでなく、その整備を補完するような人的支援などのソフト面での対応をあわせて進めることも重要です。意識上でのバリアとなる高齢者、障害者等への偏見や差別、無理解、無関心をなくし、その社会参加に積極的に協力していく必要があります。

また、バリアフリー法の改正により、教育啓発特定事業が位置づけられたことを踏まえた取組を進める必要があります。

そこで、区・事業者・区民がそれぞれの役割を理解し、積極的に心のバリアフリーに取り組むことが期待されます。以下に、それぞれに求められる役割や取組例を示します。

6.1.1 区の実践

区は、窓口業務などをはじめとした区民サービスにおいては、高齢者、障害者等に最も身近に接する事業者であり、合理的配慮が義務化されています。区の職員は高齢者、障害者、妊産婦や子育てをしている人、外国人などへの理解を深め、適切な対応の方法等を学ぶとともに、区民が利用する施設などでは、積極的に人的支援やサービスの充実などの心のバリアフリーに取り組むことが期待されます。また、区民への意識啓発や理解を深めるための機会を提供することが求められます。

このような役割を踏まえて、区は現在の取組を引き続き実施するとともに、社会全体で課題の解決を図る「障害の社会モデル」の考え方をより浸透させていくために、区民等への啓発をさらに進めていきます。

<取組例>

- ① 障害等への理解を深めるための職員研修や人権研修の継続的な実施
・ 障害者や認知症当事者などへの接遇研修など
- ② 認知症施策推進基本計画の策定による「新しい認知症観」の普及の促進
- ③ 区民等への心のバリアフリーの継続的な推進・啓発
・ 啓発パンフレットの作成、ボランティア事業や区内店舗支援事業等の実施にあわせた心のバリアフリーの推進など
- ④ 学校教育における公立小中学生への心のバリアフリーの継続的な推進
- ⑤ 区民が利用する施設における積極的な人的支援の実施やサービスの充実
- ⑥ 地区別計画策定時における民間事業者への教育啓発特定事業の積極的な位置づけの依頼



心のバリアフリーハンドブック
(第5改訂版 令和7年6月発行)



認知症の啓発パンフレット
『正しく知って向き合う支える認知症』

「心のサポーター」
養成研修
ここは見えない。だから、聴く。

心のサポーター、通称「ここサポ」。メンタルヘルスの正しい基本知識に基づき、身近な人に対して傾聴を中心とした支援をすることです。

講義を修了した受講者には「心のサポーター認定証」を発行します

内容・グループワーク
メンタルヘルスやこころの病気についてこころの病気を持った人たちの体験や苦しみについて身近な人のサポートの仕方ストレスコーピングによるセルフケア

R7年度	日時	会場	申込期間	対象	定員(申込順)
第1回	10月10日(金) 15:00~17:00	障害者会館 (文京シビックセンター3階)	9月1日(月)から	区内在住・在学者	各50名
第2回	10月10日(金) 18:30~20:30	Zoom (オンライン会議ツール)	9月30日(火)		
第3回	12月6日(土) 10:00~12:00	障害者会館 (文京シビックセンター3階)	11月1日(土)から 11月30日(日)		

※いずれかご都合のよい日程をお選びください
2次元コードからのお申込みが難しい場合は、下記にお電話ください。

申し込みはこちら

【問合せ先】
文京区予防対策課精神保健担当
TEL 03-5803-1847

NIPPON COCORO ACTION

心のサポーター養成研修 参加者募集ポスター



文京総合福祉センター祭りにおける啓発活動
(心のバリアフリーの木をつくろう・障害疑似体験)

6.1.2 事業者の取組

バリアフリー基本構想に基づく地区別計画では、各事業者は、第5章に掲げた移動等円滑化に関する事項（基準・配慮事項）を踏まえて、具体的な事業計画を定めることとなります。このなかでは、心のバリアフリーの普及・啓発に関する教育啓発特定事業や、人的対応に関する事業についても具体的に定め、実施状況について随時確認していくことで取組を推進していきます。

また、障害者差別解消法が改正され、事業者による障害者への合理的配慮の提供が義務化されたことも踏まえ、生活関連施設以外の小規模な施設や、具体的な特定事業を位置づけない施設等においても、それぞれの事業者が可能な範囲で高齢者、障害者等が安心して施設を利用できるための配慮や工夫に取り組むことが求められます。

6.1.3 区民の取組

バリアフリー法は、国民の責務として、「高齢者、障害者等の自立した日常生活及び社会生活を確保することの重要性について理解を深めるとともに、高齢者、障害者等の円滑な移動及び施設の利用を確保するために協力するよう努める」ことを求めています。

区民一人ひとりが視覚障害者誘導用ブロックに自転車を停めない、困っている人を見かけたら声をかけるなど、日常的な配慮や支援をすることで、多くの高齢者、障害者等がより安心して外出できるようになります。

また、区などが提供する機会や資料などを活用し、積極的に高齢者、障害者、妊産婦や子育てをしている人、外国人などの特性などについて学んだり、交流を深めたりすることで、心のバリアをなくしていくことが求められます。

6.2 情報のバリアフリーの推進

まちなかでの移動や利用に関する情報のバリアフリーについては、全庁的な連携や、各事業者の連携により、現在の取組を継続的に実施するとともに、ICTの活用による新たな取組を実施することで、区民だけでなく、外国人をはじめとした来訪者でも安心して移動できるまちづくりを推進します。

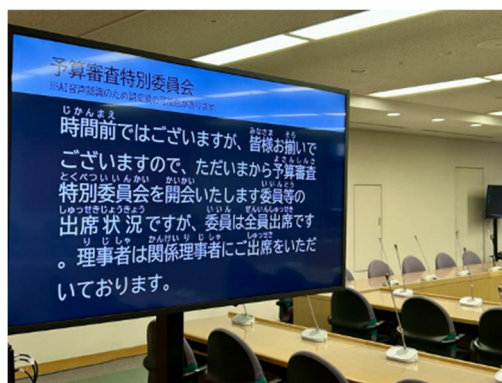
また、「文京区手話言語条例」や「文京区障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通の促進に関する条例」、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（通称 読書バリアフリー法）」が施行されており、これらを踏まえた取組を進める必要があります。

さらに、それぞれの取組を進める中で、情報格差の解消にも留意したうえで、情報のバリアフリーの推進を図ることが求められます。

<取組例>

- ① 「文京区手話言語条例」及び「文京区障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通の促進に関する条例」の啓発冊子等を活用した普及活動の実施
- ② “開かれた議会”を実現するための取組の実施（議会開催時：手話通訳者・要約筆記者の派遣、リアルタイム字幕システム・ヒアリンググループの設置、議会開催後：区議会だより点字版・音声版の配付）
- ③ 施設の受付へのコミュニケーションツール※の設置（ICTを活用したツールとアナログツールの併用）
- ④ 図書館における読書バリアフリーの取組の推進
- ⑤ 図書館におけるだれもが楽しめる映画会の実施（洋画・邦画でのガイド用日本語字幕の表示）
- ⑥ 観光リーフレットの多言語表記
- ⑦ 各避難所と緊急避難場所に掲示している避難所表示板への多言語表記
- ⑧ やさしい日本語を使った区民と外国人留学生との交流
- ⑨ 「カラーユニバーサルデザインを含む情報提供ガイドライン」を活用した多様な利用者に配慮した情報提供の推進
- ⑩ 外国人への外国語版生活便利帳の作成・配布
- ⑪ 高齢者向けスマートフォン講習会・相談会の開催

※ 音声文字化・多言語翻訳機能を有する透明ディスプレイ、遠隔手話通訳サービス、QRコードを使った情報提供、筆談用具、コミュニケーション支援ボード、読書補助具、拡大鏡、老眼鏡、インターホン等



区議会を導入する
リアルタイム字幕システム

日程	種別	日時	会場
①	操作全般講習会	7月11日(火)・8日(火)	高齢者総合センター
②	LINE講習会	7月11日(火)・18日(金)	13:30 永田駅前西館
③		7月17日(木)・24日(木)	15:30 高齢者総合センター
④	LINE講習会	7月22日(火)	本郷込駅前西館
⑤		7月29日(火)	本郷込駅前西館
⑥		7月22日(火)	7月22日(火)
⑦	操作全般講習会	8月5日(火)・12日(火)	高齢者総合センター
⑧	LINE講習会	8月13日(木)・20日(木)	13:30 永田駅前西館
⑨		8月14日(木)・21日(木)	15:30 永田駅前西館
⑩	LINE講習会	8月22日(金)	小石川駅前西館
⑪		8月29日(金)	小石川駅前西館
⑫		8月20日(水)	8月20日(水)
⑬	操作全般講習会	9月1日(月)・8日(月)	高齢者総合センター
⑭	LINE講習会	9月5日(金)・12日(金)	13:30 西郷三郎老人ホーム
⑮		9月18日(木)・25日(木)	15:30 高齢者総合センター
⑯	LINE講習会	9月9日(火)	高砂中央駅前西館
⑰		9月16日(火)	高砂中央駅前西館

高齢者向けスマートフォン講習会の
案内ポスター

6.3 その他の取組の推進

各施設におけるバリアフリーの取組や、心のバリアフリー、情報のバリアフリーの推進とあわせ、ハード・ソフトが連携し、障害の社会モデルの考え方を踏まえた取組を区全体で進めることにより、バリアフリー化の効果をさらに高めていく必要があります。

6.3.1 坂道のバリアフリーの推進

区の特徴である坂道について、旧基本構想に基づいて進めてきた取組を他の地区別計画において具体的な事業計画に位置づけることで、区全体におけるさらなる坂道のバリアフリーの推進を図ります。

<取組例>

- ① 坂道や階段への手すりや助け合い意識を喚起する標識の設置
- ② 高齢者等が休憩できるようなお休み石の設置
- ③ 滑りにくい舗装の整備

6.3.2 歩行空間の安全な利用

歩行空間の利用状況について、アンケート調査や地域懇談会において、歩きスマホや自転車の通行方法の危険性に関する意見が多く出ていました。これを踏まえて、自転車通行空間整備だけでなく、違法駐車対策や自転車の交通ルール・マナーの徹底、歩行者は「ながら歩き」をしないなど、周知啓発にもあわせて取り組むことで、歩行空間の安全利用の促進を図ります。

<取組例>

- ① 自転車通行空間の整備
- ② 放置自転車の撤去や自転車利用者・歩行者への交通ルール・マナーの周知・啓発
- ③ 区道上の不法占用物件（許可のない看板、商品、植木鉢等）への指導

6.3.3 バリアフリーに関する情報発信

旧基本構想の推進にあたり、事業の進捗状況や、事業者の連携によって実現した整備、区民参加で検討した取組、バリアフリーについて工夫した点などについて、ホームページ等を活用して周知してきました。今後も継続した情報発信に取り組むとともに、より分かりやすく、使いやすい情報発信に努めます。

また、工事中や非常時のバリアフリー情報（利用不可・迂回など）を音声や文字情報で提供するなど、状況に応じた情報発信の充実を図ります。

7.1 都心地域

都心地域におけるバリアフリー化に向けた基本方針を以下に示します。

1 駅周辺における利便性・安全性の高いバリアフリー化を目指します。

- 駅周辺の歩行空間における連続的なバリアフリー化のさらなる推進や適切な維持管理
- まちづくりと連携した飯田橋駅周辺における利便性の高いバリアフリー化の推進
- 区外隣接駅を含めた駅周辺や主要施設におけるハード・ソフト両面からの経路案内の充実
- 高齢者利用が多いことを踏まえた御茶ノ水駅の上下移動の更なる円滑化の推進

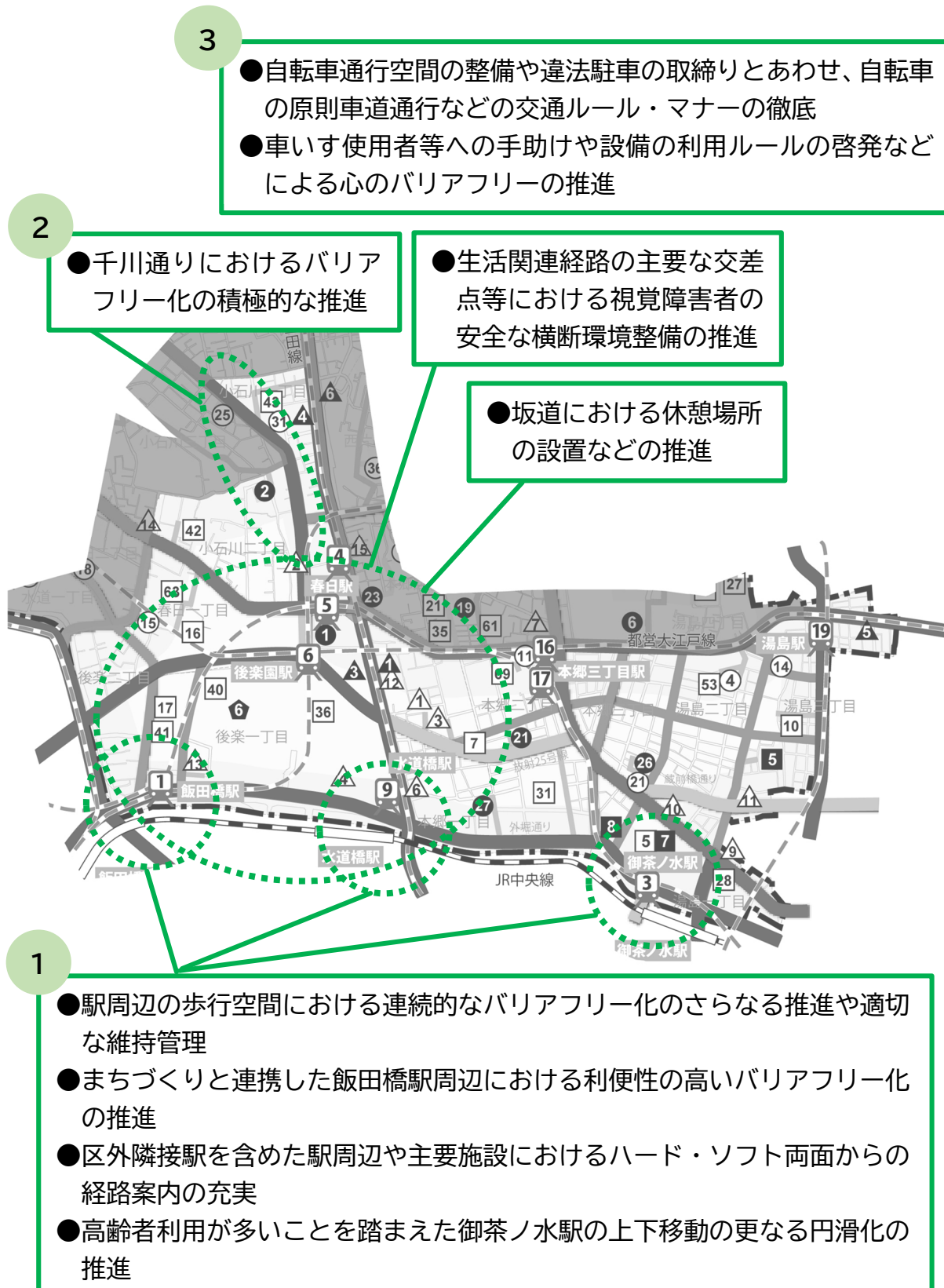
2 安全かつ快適な歩行空間のバリアフリー化を目指します。

- 千川通りにおけるバリアフリー化の積極的な推進
- 生活関連経路の主要な交差点等における視覚障害者の安全な横断環境整備の推進
- 坂道における休憩場所の設置などの推進

3 自転車利用のルール・マナーの徹底など心のバリアフリーを目指します。

- 自転車通行空間の整備や違法駐車取締りとあわせ、自転車の原則車道通行などの交通ルール・マナーの徹底
- 車いす利用者等への手助けや設備の利用ルールの啓発などによる心のバリアフリーの推進

都心地域における基本方針



※地図中の番号の施設名称：33 ページ参照

7.2 下町隣接地域

下町隣接地域におけるバリアフリー化に向けた基本方針を以下に示します。

1 地区の骨格となる幹線道路網のバリアフリー化を目指します。

- 不忍通り、言問通りなどのバリアフリー化の積極的な推進
- 不忍通りの拡幅整備の推進

2 利用者の多い施設の周辺において一体的かつ連続的なバリアフリー化を目指します。

- 病院や大学、根津・千駄木周辺における安全な歩行空間の確保
- 区外からの利用者を想定した駅のバリアフリー情報や主要施設へのルート、施設出入口周辺におけるハード・ソフト両面からの案内の充実

3 生活道路における歩行空間のバリアフリー化を目指します。

- 歩行者や車いす使用者の通行を妨げる障害物の撤去、移設
- 公立小中学校等の通学路をはじめとした生活道路における安全対策の推進
- 坂道における休憩場所の設置などの推進

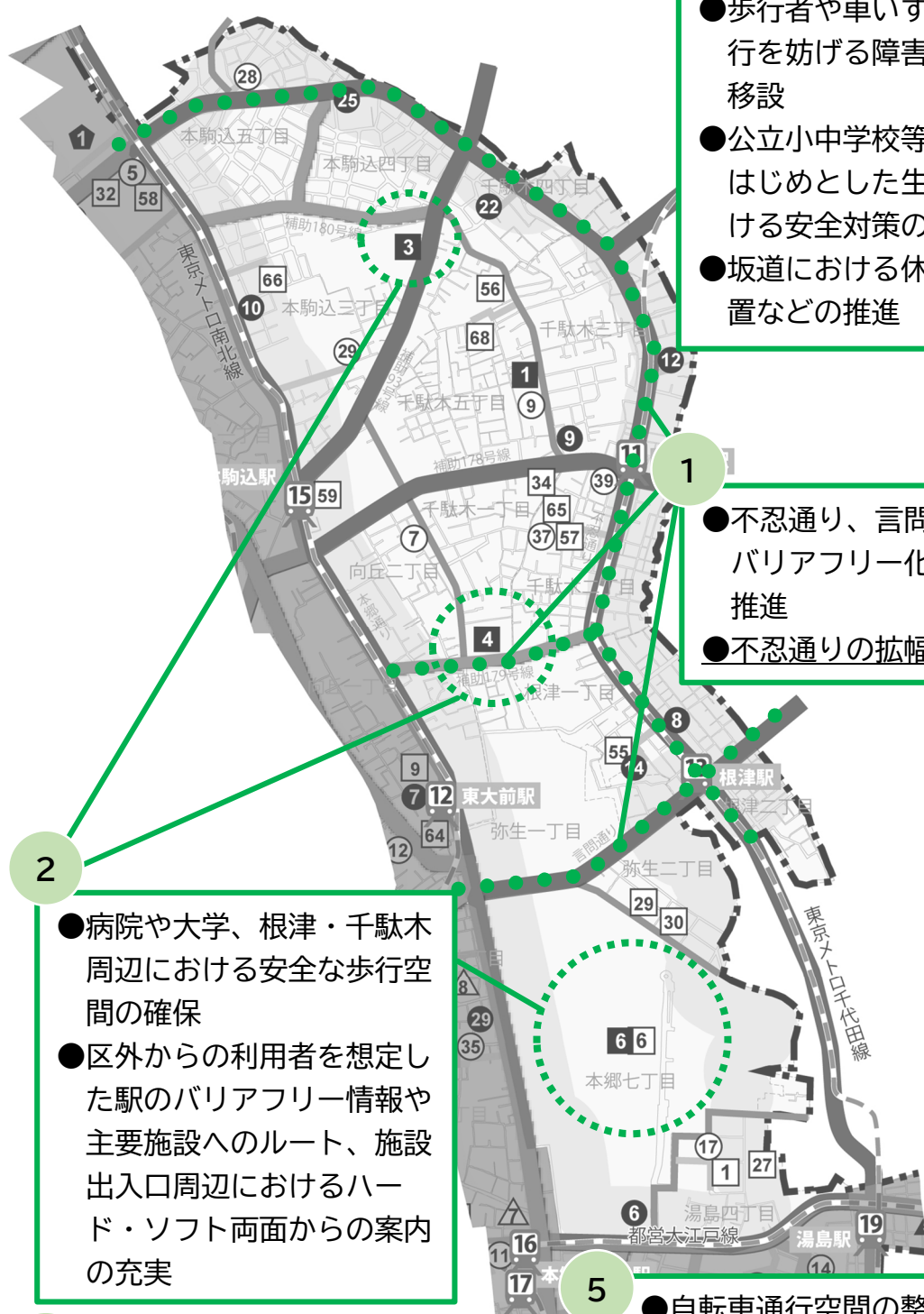
4 生活者と来訪者相互の心のバリアフリーを目指します。

- 歩行空間への駐輪・駐車対策の強化
- 沿道店舗等によるおもてなし・サポートや、狭い道でのゆずりあいなどの心のバリアフリーの推進

5 自転車利用のルール・マナーの徹底など心のバリアフリーを目指します。

- 自転車通行空間の整備や違法駐車取締りとあわせ、自転車の原則車道通行などの交通ルール・マナーの徹底

下町隣接地域における基本方針



3

- 歩行者や車いす使用者の通行を妨げる障害物の撤去、移設
- 公立小中学校等の通学路をはじめとした生活道路における安全対策の推進
- 坂道における休憩場所の設置などの推進

1

- 不忍通り、言問通りなどのバリアフリー化の積極的な推進
- 不忍通りの拡幅整備の推進

2

- 病院や大学、根津・千駄木周辺における安全な歩行空間の確保
- 区外からの利用者を想定した駅のバリアフリー情報や主要施設へのルート、施設出入口周辺におけるハード・ソフト両面からの案内の充実

4

- 歩行空間への駐輪・駐車対策の強化
- 沿道店舗等によるおもてなし・サポートや、狭い道でのゆずりあいなどの心のバリアフリーの推進

5

- 自転車通行空間の整備や違法駐車取締りとあわせ、自転車の原則車道通行などの交通ルール・マナーの徹底

※地図中の番号の施設名称：
33 ページ参照

7.3 山の手地域東部

山の手地域東部におけるバリアフリー化に向けた基本方針を以下に示します。

- 1 幹線道路等を中心とした安全かつ快適な歩行空間のバリアフリー化を目指します。
 - 白山駅周辺における安全かつ快適な歩行空間の確保に向けたバリアフリー化の推進
 - 国道 17 号や不忍通り、白山通り、本郷通りなどの主要幹線道路の歩道及び交差点におけるバリアフリー整備の推進
 - 不忍通りの拡幅整備の推進
- 2 主要施設周辺の一体的かつ連続的なバリアフリー化を目指します。
 - 住宅市街地内の生活道路における安全・快適な道路環境の整備の推進
 - 駅周辺や主要施設におけるハード・ソフト両面からの施設間経路の案内の充実
 - 公立小中学校等の通学路における安全対策の推進
- 3 だれもがアクセス可能で楽しめる名勝地等のバリアフリー化を目指します。
 - 名勝地等におけるバリアフリー整備の推進
 - 人的対応や案内の充実などソフト的な取組の推進
- 4 自転車利用のルール・マナーの徹底など心のバリアフリーを目指します。
 - 自転車通行空間の整備や違法駐車取締りとあわせ、自転車の原則車道通行などの交通ルール・マナーの徹底
 - 坂道での車いす使用者等への手助けなどによる心のバリアフリーの推進
 - 通学で混雑する時間帯の駅や歩道の利用マナーに関する啓発の実施

山の手地域東部における基本方針

1

- 白山駅周辺における安全かつ快適な歩行空間の確保に向けたバリアフリー化の推進
- 国道17号や不忍通り、白山通り、本郷通りなどの主要幹線道路の歩道及び交差点におけるバリアフリー整備の推進
- 不忍通りの拡幅整備の推進

2

- 住宅市街地内の生活道路における安全・快適な道路環境の整備の推進
- 駅周辺や主要施設におけるハード・ソフト両面からの施設間経路の案内の充実
- 公立小中学校等の通学路における安全対策の推進

3

- 名勝地等におけるバリアフリー整備の推進
- 人的対応や案内の充実などソフト的な取組の推進

4

- 自転車通行空間の整備や違法駐車取締りとあわせ、自転車の原則車道通行などの交通ルール・マナーの徹底
- 坂道での車いす使用者等への手助けなどによる心のバリアフリーの推進
- 通学で混雑する時間帯の駅や歩道の利用マナーに関する啓発の実施

※地図中の番号の施設名称：33 ページ参照

7.4 山の手地域中央

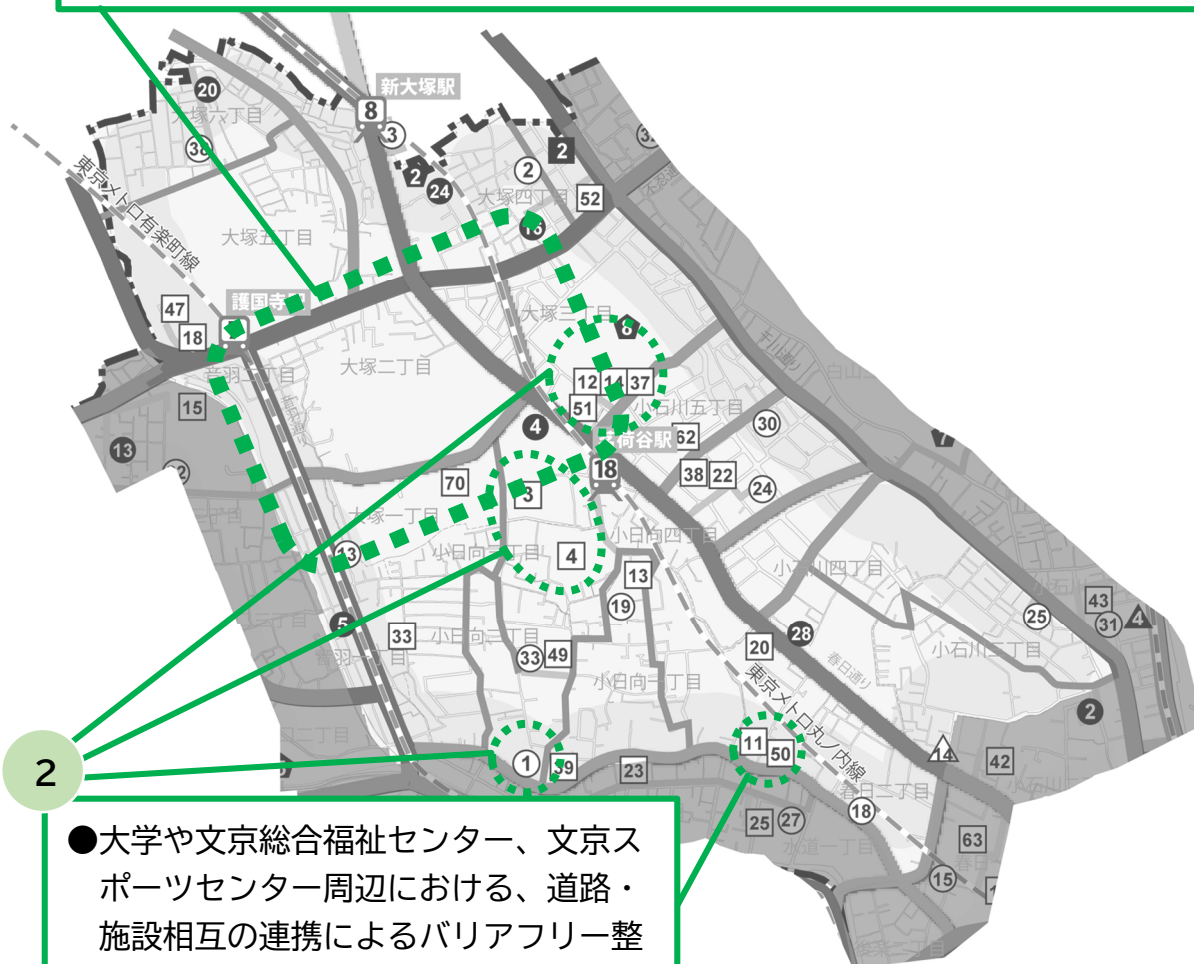
山の手地域中央におけるバリアフリー化に向けた基本方針を以下に示します。

- 1 茗荷谷駅・護国寺駅周辺の安全かつ快適な歩行空間のバリアフリー化を目指します。
 - 不忍通り、春日通り、音羽通り等を中心とした、主要幹線道路・生活幹線道路のバリアフリーネットワークの形成
 - 高齢者・障害者だけでなく、特別支援学校の生徒や子ども、学生などが安心して通行できる歩行環境をハード・ソフト両面から構築
- 2 施設・道路が連携した主要施設周辺のバリアフリー化を目指します。
 - 大学や文京総合福祉センター、文京スポーツセンター周辺における、道路・施設相互の連携によるバリアフリー整備の推進や案内の充実
 - 駅周辺におけるハード・ソフト両面からの主要施設までの経路案内の充実
- 3 だれもが歩いて楽しめる坂のまちとしてのバリアフリー対応を目指します。
 - 小さな凹凸の改善や退避スペース（平坦部）の確保などバリアフリー整備の推進
 - 車いす利用者への手助けやベンチの設置などソフト的な取組の推進
- 4 自転車利用のルール・マナーの徹底など心のバリアフリーを目指します。
 - 自転車通行空間の整備や違法駐車取締りとあわせ、自転車の原則車道通行などの交通ルール・マナーの徹底
 - 通学で混雑する時間帯の駅や歩道の利用マナーに関する啓発の実施

山の手地域中央における基本方針

1

- 不忍通り、春日通り、音羽通り等を中心とした、主要幹線道路・生活幹線道路のバリアフリーネットワークの形成
- 高齢者・障害者だけでなく、特別支援学校の生徒や子ども、学生などが安心して通行できる歩行環境をハード・ソフト両面から構築



2

- 大学や文京総合福祉センター、文京スポーツセンター周辺における、道路・施設相互の連携によるバリアフリー整備の推進や案内の充実
- 駅周辺におけるハード・ソフト両面からの主要施設までの経路案内の充実

3

- 小さな凹凸の改善や退避スペース（平坦部）の確保などバリアフリー整備の推進
- 車いす使用者への手助けやベンチの設置などソフト的な取組の推進

4

- 自転車通行空間の整備や違法駐車取締りとあわせ、自転車の原則車道通行などの交通ルール・マナーの徹底
- 通学で混雑する時間帯の駅や歩道の利用マナーに関する啓発の実施

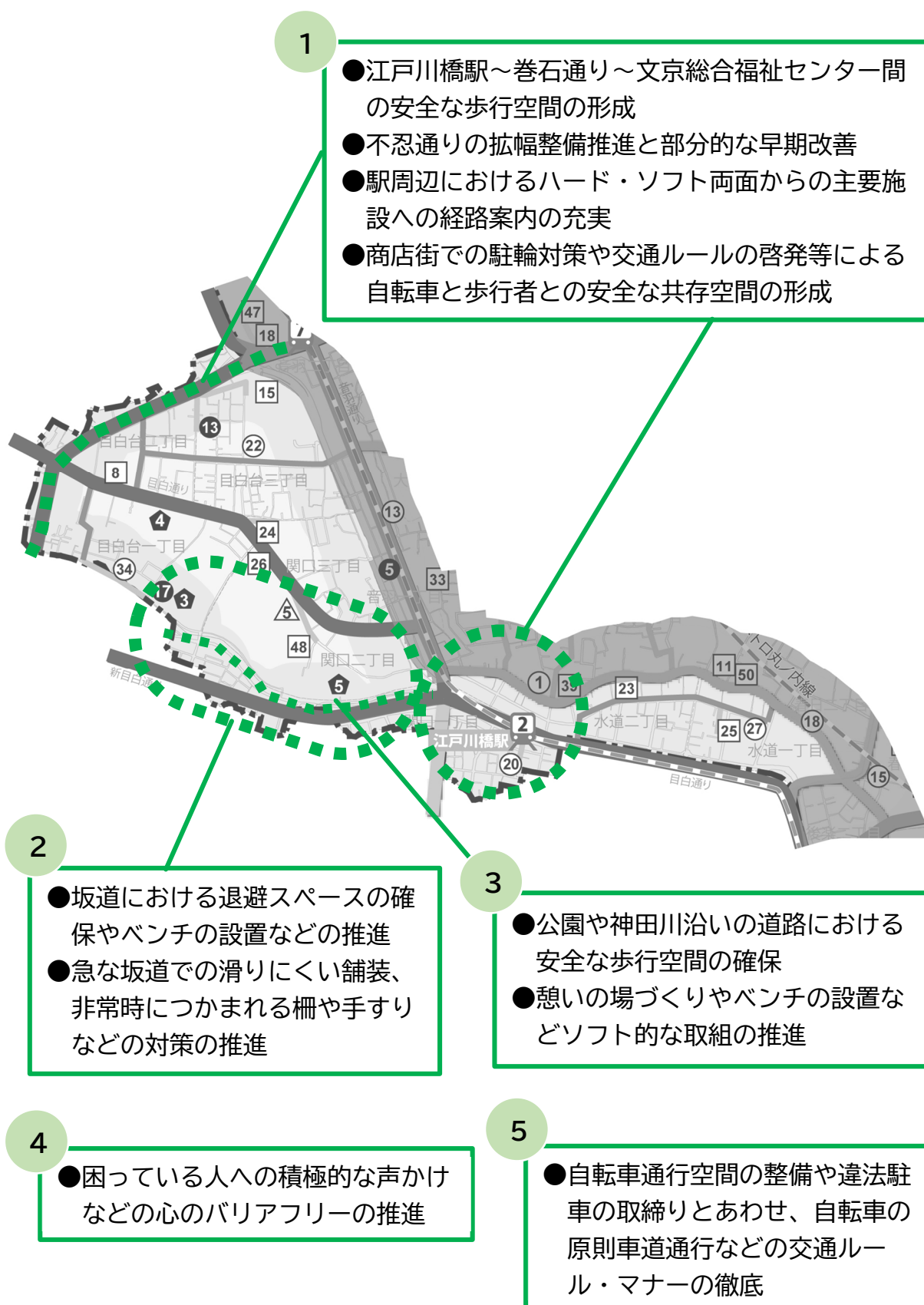
※地図中の番号の施設名称：33 ページ参照

7.5 山の手地域西部

山の手地域西部におけるバリアフリー化に向けた基本方針を以下に示します。

- 1 江戸川橋駅周辺や筑波大学附属視覚特別支援学校周辺の安全かつ快適な歩行空間のバリアフリー化を目指します。
 - 江戸川橋駅～巻石通り～文京総合福祉センター間の安全な歩行空間の形成
 - 不忍通りの拡幅整備推進と部分的な早期改善
 - 駅周辺におけるハード・ソフト両面からの主要施設への経路案内の充実
 - 商店街での駐輪対策や交通ルールの啓発等による自転車と歩行者との安全な共存空間の形成
- 2 安全に通行できるよう、バリアフリーに配慮した坂道での対策を目指します。
 - 坂道における退避スペースの確保やベンチの設置などの推進
 - 急な坂道での滑りにくい舗装、非常時につかまれる柵や手すりなどの対策の推進
- 3 歩行者のための散策経路のバリアフリー化を目指します。
 - 公園や神田川沿いの道路における安全な歩行空間の確保
 - 憩いの場づくりやベンチの設置などソフト的な取組の推進
- 4 高齢者・障害者が特に多く利用する地域での心のバリアフリーを目指します。
 - 困っている人への積極的な声かけなどの心のバリアフリーの推進
- 5 自転車利用のルール・マナーの徹底など心のバリアフリーを目指します。
 - 自転車通行空間の整備や違法駐車取締りとあわせ、自転車の原則車道通行などの交通ルール・マナーの徹底

山の手地域西部における基本方針



※地図中の番号の施設名称：33 ページ参照

8 バリアフリー基本構想の実現に向けて

8.1 地区別計画の策定

バリアフリー基本構想の実現に向けて、バリアフリー法では、バリアフリー基本構想に基づき各事業者が具体的な事業計画（特定事業計画）を作成し、それぞれ事業を実施することが定められています。

本区では、令和8年度に文京区バリアフリー基本構想に基づく「地区別計画（バリアフリー法に基づく特定事業計画を含む）」を策定します。策定にあたっては、区民参加により具体的な課題抽出を行うとともに、関係事業者との調整を図り、地区別方針に則った具体的な事業計画をとりまとめます。

地区別計画は、文京区都市マスタープランに示す5地区（都心地域、下町隣接地域、山の手地域東部、山の手地域中央、山の手地域西部）ごとに策定します。

8.2 バリアフリー基本構想の進行管理

国の「移動等円滑化の促進に関する基本方針」では、バリアフリー法に基づく特定事業計画に則った事業推進のみならず、実施された事業の成果について評価を行い、必要に応じてバリアフリー基本構想の見直しや新たなバリアフリー基本構想の作成を行うことが望ましいとされています。

本区では、「文京区バリアフリー基本構想推進協議会」を設置し、バリアフリー基本構想に基づく地区別計画の策定（Plan）、事業の実施（Do）、評価（Check）、改善（Action）の PDCA サイクルに基づき、バリアフリー基本構想の段階的かつ継続的な発展（スパイラルアップ）を推進します。

具体的には、地区別計画に基づく事業の進捗状況について関係する事業者毎に毎年度照会を行うとともに、令和 12 年度には中間評価として多様な区民参加のもと、事業実施後の確認やさらなる改善の提案等を行います。そして、目標年次の令和 17 年度以降は、バリアフリー基本構想の評価や改定の必要性について検討します。

また、ソフト施策等の推進の一環として、心のバリアフリーに関する研修会等の取組を継続的に展開するなど、より多くの区民の方に参加いただく機会を設けながら、心のバリアフリー等の普及・啓発を推進していきます。

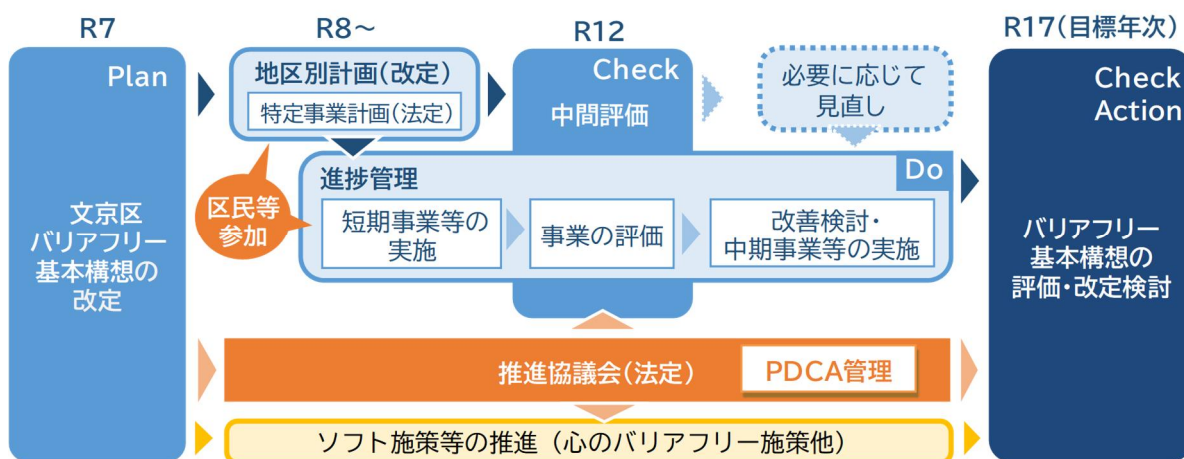


図 20 文京区バリアフリー基本構想における PDCA サイクルのイメージ

参考1 文京区バリアフリー基本構想推進協議会 設置要綱

26 文都都第 572 号	区長決定
一部改正 平成 27 年 3 月 26 日	部長決定
一部改正 27 文都都第 97 号 平成 27 年 5 月 29 日	部長決定
一部改正 27 文都都第 203 号 平成 27 年 7 月 16 日	区長決定
一部改正 28 文都都第 27 号 平成 28 年 4 月 1 日	部長決定
一部改正 2022 文都都第 239 号 令和 4 年 10 月 7 日	部長決定
一部改正 2024 文都都第 1245 号 令和 6 年 11 月 26 日	部長決定
最終改正 2024 文都都第 1805 号 令和 7 年 3 月 31 日	部長決定

(設置)

第 1 条 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(平成 18 年法律第 91 号)第 26 条第 1 項の規定に基づき、文京区バリアフリー基本構想(以下「基本構想」という。)の実施に係る連絡調整を行うため、文京区バリアフリー基本構想推進協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第 2 条 協議会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 基本構想の進行管理に関すること。
- (2) 基本構想の改定に関すること。
- (3) 基本構想に基づく重点整備地区別計画の改定に関すること。
- (4) その他区長が必要があると認めた事項に関すること。

(組織)

第 3 条 協議会は、次に掲げる者のうちから区長が委嘱する委員 40 人以内をもって組織する。

- (1) 学識経験者
- (2) 障害者団体、高齢者団体等を代表する者
- (3) 公募区民
- (4) 関係行政機関
- (5) 施設管理者
- (6) 交通管理者
- (7) 関係事業者
- (8) 前各号に掲げる者のほか、区長が必要があると認めた者

(任期)

第 4 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、特別な事情がある場合は任期を延長する

ことができる。

2 委員の再任は妨げないものとする。

3 委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長各1人を置く。

2 会長は、第3条第1号に規定する学識経験者のうちから、委員が選出する。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長が指名する。

5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(幹事)

第6条 協議会に幹事を置く。

2 幹事は、企画政策部長、福祉部長、都市計画部長、土木部長、企画政策部企画課長、企画政策部用地・施設マネジメント担当課長、福祉部福祉政策課長、福祉部障害福祉課長、都市計画部都市計画課長、土木部管理課長、土木部道路課長、土木部みどり公園課長及び教育推進部副参事(学校施設担当)の職にある者とする。

(意見聴取等)

第7条 会長は、必要があると認めたときは、関係者の出席を求め、その意見を聴き、又は説明を求めることができる。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、都市計画部都市計画課において処理する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

付則 この要綱は、平成27年3月26日から施行する。

付則 この要綱は、平成27年5月29日から施行する。

付則 この要綱は、平成27年7月16日から施行する。

付則 この要綱は、平成28年4月1日から施行する。

付則 この要綱は、令和4年10月7日から施行する。

付則 この要綱は、令和6年11月26日から施行する。

付則 この要綱は、令和7年4月1日から施行する。

参考2 文京区バリアフリー基本構想推進協議会 委員名簿

(敬称略)

No.	区分		所属	氏名
1	学識経験者		岩手県立大学 名誉教授	元田 良孝
2			東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻 准教授	松田 雄二
3	区民	障害者団体	文京区視覚しょうがい者協会	吉田 美奈子
4			文京区肢体障害者福祉協会	松井 幸子
5			文京区聴覚障害者協会	高岡 正
6			文京区肢体不自由児者父母の会	住友 孝子
7			文京区家族会	雄川 千枝子
8			文京区知的障害者（児）の明日を創る会	賀藤 一示
9			高齢者団体	文京区高齢者クラブ連合会
10		商店街	文京区商店街連合会	寺澤 弘一郎
11		町会	文京区町会連合会	上田 泰正
12		地域員	文京区民生委員・児童委員協議会	佐古 陽子
13		公募	－	鈴木 好美
14		公募	－	谷中 匡子
15		公募	－	柘植 直子
16		公募	－	山本 司
17	関係行政機関	国	国土交通省 関東運輸局 交通政策部 共生社会推進課長	平井 靖範
18		東京都	東京都 都市整備局 都市基盤部 交通政策担当課長	荒井 大介
19	施設管理者	国道	国土交通省 関東地方整備局 東京国道事務所 交通対策課 建設専門官	菊池 信久
20		都道	東京都 建設局 第六建設事務所 補修課長	藤木 健太郎
21		都立公園	東京都 建設局 東部公園緑地事務所 管理課長	五十嵐 純
22	交通管理者	警視庁	富坂警察署 交通課長	中藤 大樹
23			大塚警察署 交通課長	青木 政博
24			本富士警察署 交通課長	秋田 恵
25			駒込警察署 交通課長	三浦 秀一郎
26	交通事業者	地下鉄	東京地下鉄株式会社 鉄道統括部 移動円滑化設備整備促進担当課長	倉本 広太郎
27			東京都 交通局 総務部 技術調整担当課長	近藤 琢哉
28		都営バス	東京都 交通局 自動車部 事業改善担当課長	内山 琢矢
29		区コミュニティバス	日立自動車交通株式会社 運行部	坂口 央
30	関係事業者		医療法人社団 龍岡会 高齢者あんしん相談センター本富士センター長	中谷 伸夫

参考3 文京区バリアフリー基本構想推進協議会 幹事名簿

(敬称略)

No.	所属	氏名
1	文京区企画政策部長	新名 幸男
2	文京区福祉部長	鈴木 裕佳
3	文京区都市計画部長	鵜沼 秀之
4	文京区土木部長	小野 光幸
5	文京区企画政策部企画課長	川崎 慎一郎
6	文京区企画政策部用地・施設マネジメント担当課長	岡村 健介
7	文京区福祉部福祉政策課長	篠原 秀徳
8	文京区福祉部障害福祉課長	永尾 真一
9	文京区都市計画部都市計画課長	真下 聡
10	文京区土木部管理課長	橋本 淳一
11	文京区土木部道路課長	村岡 健市
12	文京区土木部みどり公園課長	高橋 彬
13	文京区教育推進部副参事（学校施設担当）	内山 真宏

参考4 検討経緯

会議名等	主な検討内容
第1回文京区バリアフリー基本構想推進協議会 令和7年5月9日（金）	(1)文京区バリアフリー基本構想改定方針について (2)アンケート調査・地域懇談会の実施について
アンケート調査（区民/障害者・高齢者団体） 令和7年5月～6月	アンケート形式による区内の主要施設や交通施設等の利用状況、満足度、具体的な課題の把握・分析
地域懇談会（5地区） 令和7年6月26日（木）	意見交換による各重点整備地区の主要施設や交通施設等の利用状況、利用しやすさ、具体的な課題の把握・分析
第2回文京区バリアフリー基本構想推進協議会 令和7年9月2日（火）	(1)特定事業等の進捗及びアンケート調査等の結果について (2)各種調査結果を踏まえた改定方針について (3)生活関連施設・生活関連経路の追加について (4)移動等円滑化に向けた配慮事項の更新について
心のバリアフリーの取組 令和7年11月2日（日）	文京総合福祉センター祭りにおける啓発活動の実施及び意見収集 ・心のバリアフリーの木をつくろう ・障害疑似体験
第3回文京区バリアフリー基本構想推進協議会 令和7年11月4日（火）	(1)旧基本構想の最終評価（案）について (2)改定基本構想（素案）について
パブリックコメント 令和7年12月5日～ 令和8年1月5日	バリアフリー基本構想（素案）の公表・意見収集
第4回文京区バリアフリー基本構想推進協議会 令和8年1月23日（金）	(1)改定基本構想（案）について (2)次年度の進め方について

※各協議会前に推進委員会を実施（検討内容は協議会と同様）

参考5 アンケート調査

<実施概要>

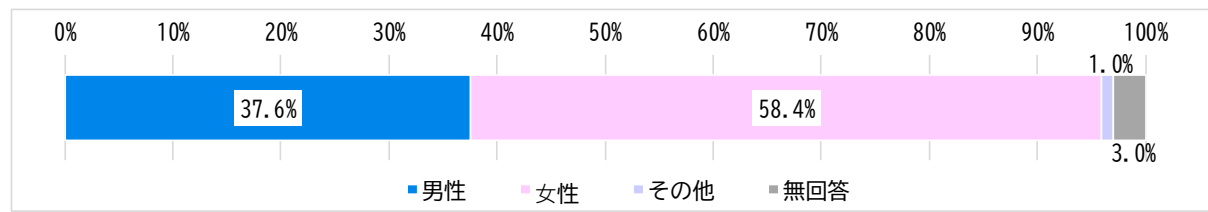
区分	区民アンケート調査	障害者・高齢者団体アンケート調査
対象者	住民基本台帳を基に無作為抽出した区内在住者（満18歳以上）	<ul style="list-style-type: none"> ・家族会 ・高齢者クラブ連合会 ・肢体障害者福祉協会 ・肢体不自由児者父母の会 ・視覚しょうがい者協会 ・知的障害者（児）の明日を創る会 ・聴覚障害者協会
調査方法	郵送配付（1,000票）・郵送回収	メール配布
回答方法	①返信用封筒にて郵送 ②Web上の回答フォーム	メール回収
回答数	298票（回答率：29.8%）	7団体（回答率：100%）
調査期間	令和7年5月～6月	令和7年5月～6月
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道駅（地下鉄）の状況 ・都営バスの状況 ・コミュニティバス「Bーぐる」の状況 ・タクシーの状況 ・道路の状況 ・横断歩道の状況 ・信号機の状況 ・施設の状況 ・情報バリアフリーについて ・心のバリアフリーについて ・観光のバリアフリーについて ・バリアフリーに関する自由意見 ・回答者属性 	左記の項目と同様 ※より具体的な内容を把握するため、 回答方法を選択形式ではなく、自由記述形式を基本とした調査を実施

※文京総合福祉センター及び文京福祉センター湯島においてもWebアンケートへの回答を案内しましたが、回答は得られませんでした。

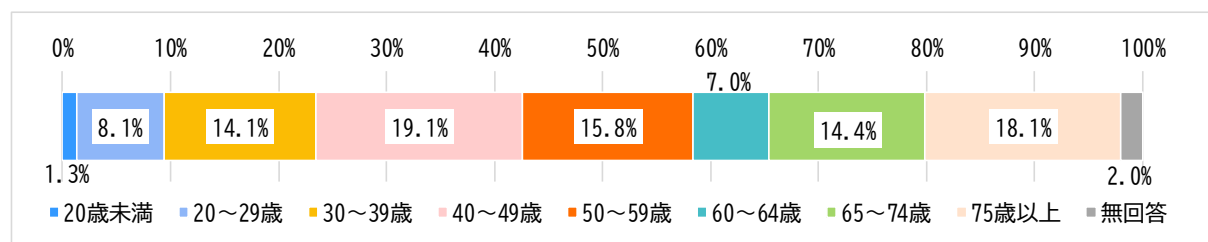
<区民アンケート調査の結果概要>

■ 回答者の属性

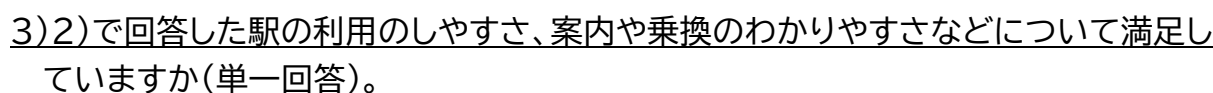
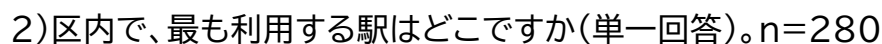
<性別>



<年齢>



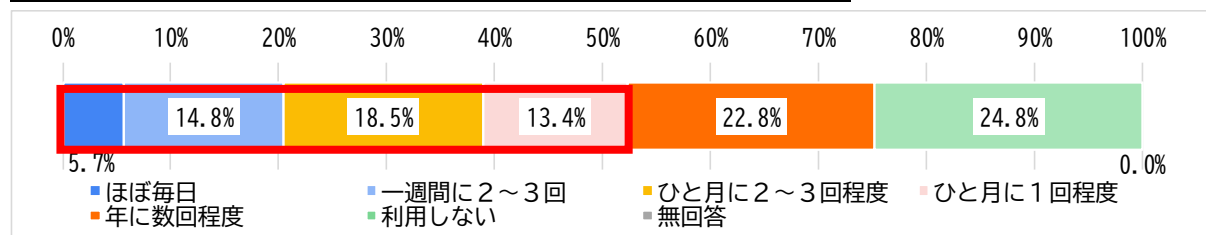
1)鉄道にはどのくらい乗りますか(単一回答)。 n=298



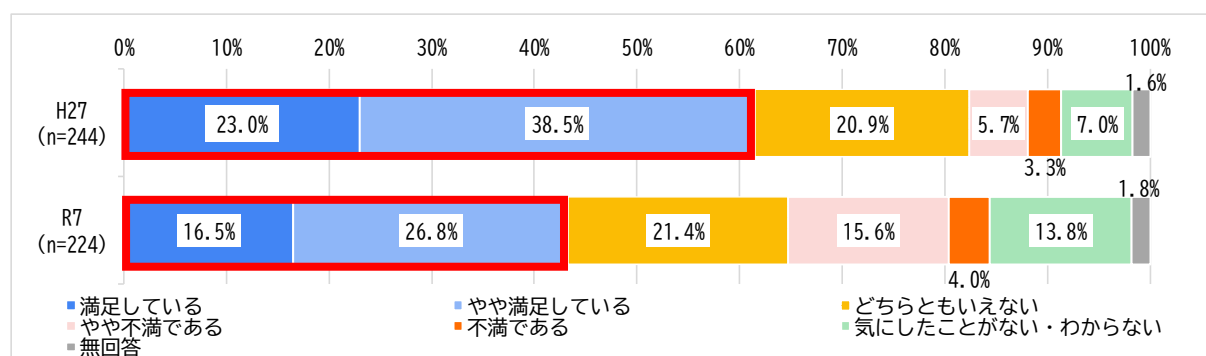
- ・回答者の6割以上が週に2～3回以上と日常的に地下鉄を利用している。
- ・後樂園・春日、茗荷谷、千石の駅利用者が比較的多い。JR(区外)との乗換駅である御茶ノ水・水道橋・飯田橋で地下鉄を利用している人は比較的少ない。丸ノ内線と都営三田線の利用が多い。
- ・回答者の4割以上が駅の利用しやすさ、わかりやすさに満足している。
- ・10年前と比較すると満足していると答えた回答者は、11.3%減少した。

設問2 区内の【都営バス】の状況について

1)都営バスにはどのくらい乗りますか(単一回答)。n=298



2)都営バスについて、バリアフリーの視点から、乗り降りのしやすさ、案内のわかりやすさなどについて満足していますか(単一回答)。

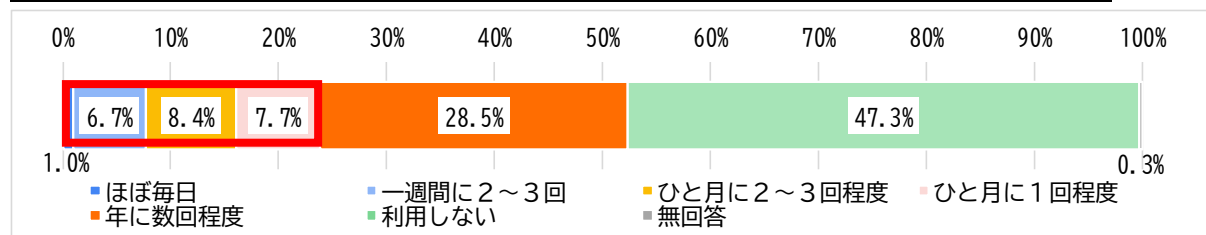


回答の傾向

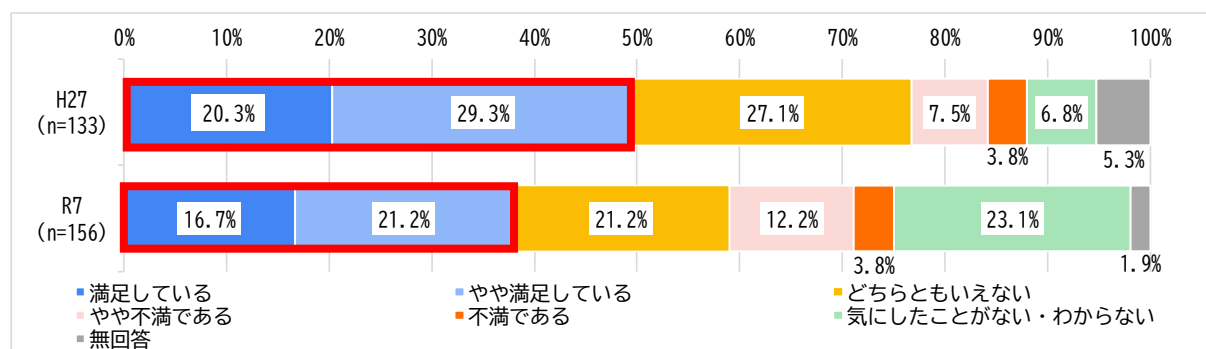
- ・回答者の半数以上が月に1回程度以上都営バスを利用しており、週2～3回程度以上の日常利用は2割程度である。
- ・回答者の4割以上が都営バスの乗り降りのしやすさ、わかりやすさに満足している。
- ・10年前と比較すると満足していると答えた回答者は、18.2%減少した。

設問3 区内の【コミュニティバス「Bーぐる」】の状況について

1)コミュニティバス「Bーぐる」にはどのくらい乗りますか(単一回答)。n=298



2)コミュニティバス「Bーぐる」について、バリアフリーの視点から、乗り降りのしやすさ、案内のわかりやすさなどについて満足していますか(単一回答)。

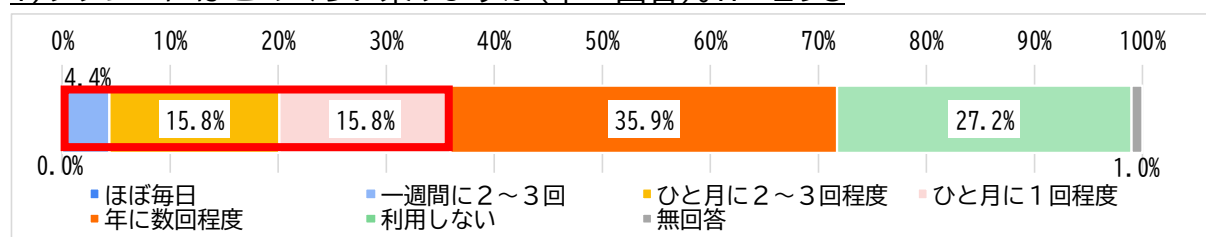


回答の傾向

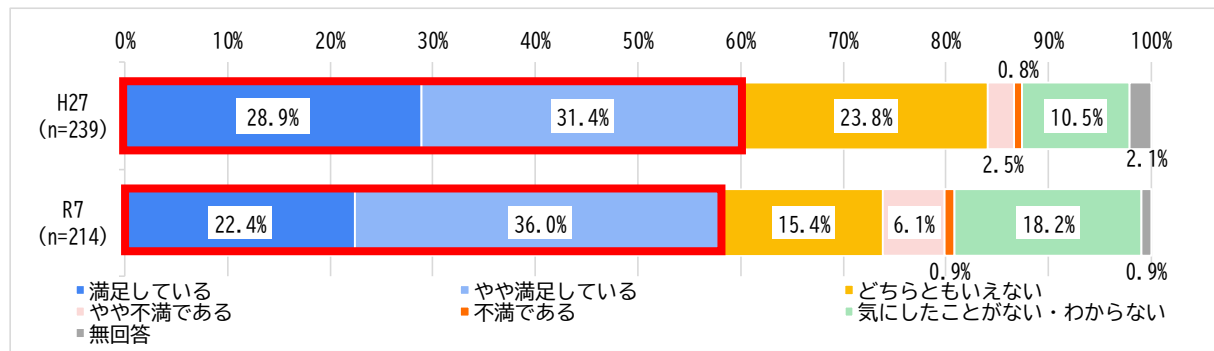
- ・回答者の2割以上が月に1回程度以上Bーぐるを利用しており、週2～3回程度以上の日常利用は約8%である。
- ・回答者の4割程度がBーぐるの乗り降りのしやすさ、わかりやすさに満足している。
- ・10年前と比較すると満足していると答えた回答者は、11.7%減少した。

設問4 区内を運行する【タクシー】の状況について

1)タクシーにはどのくらい乗りますか(単一回答)。n=298



2) タクシーについて、バリアフリーの視点から、利用しやすさについて満足していますか(単一回答)。



回答の傾向

- ・回答者の3割以上が月に1回程度以上タクシーを利用しており、週2～3回程度以上の日常利用は約4%である。
- ・回答者の半数以上がタクシーの利用しやすさに満足している。
- ・10年前と比較すると満足していると答えた回答者は、どちらも6割程度である。

公共交通に関する主な意見

鉄道について

- ・階段・エスカレーター: 階段が多い/エスカレーターが上下両方に設置されているのが良い
- ・エレベーター: 設置場所が分かりにくい/数が少ない/本当に必要な人が使えない
- ・案内: 駅員が少ない、声掛けがない/乗換案内や運行状況の表示が分かりにくい/多言語対応が不足している
- ・その他: 可動式ホーム柵やホームドア、トイレが整備されて安心

都営バスについて

- ・乗降: 歩道から離れてバスが停まると、乗降が大変/バスの傾き停車(ニーリング)が良い
- ・停留所: 雨天時の屋根付きスペースや座れる場所が少ない/案内表示が分かりにくい
- ・対応: 車いすの人にも運転手さんが手厚く対応/ベビーカーを固定する前に発車される

コミュニティバス「Bーぐる」について

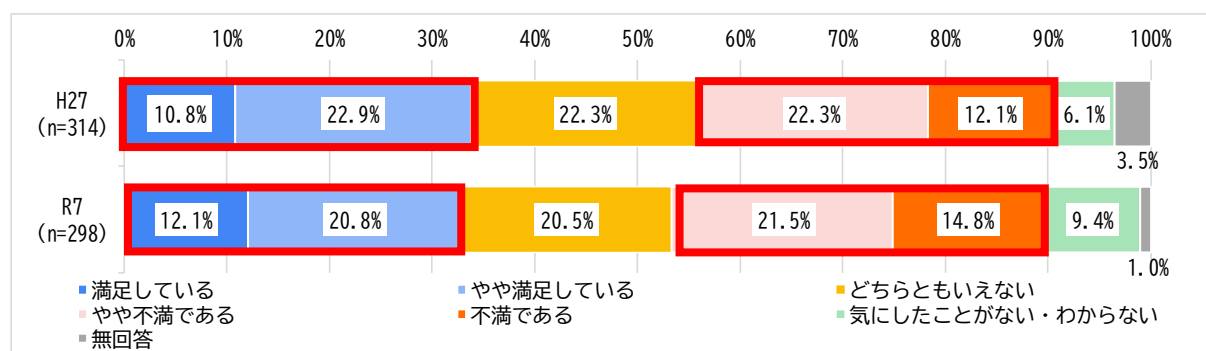
- ・停留所: バス停がどこにあるのかわかりにくい/バス停に屋根がない
- ・車両: 車内が小さく、混雑時はベビーカーや車いすでの乗車が困難

タクシーについて

- ・車両: アプリの普及で予約車が多く流しの車が見つからない/車が大きくなった
- ・対応: 以前より親切な対応が増えた/荷物やベビーカー、車いすの移動を手伝ってほしい

設問5 区内の【道路】の状況について

1)ふだんまちを利用して、区内の【道路】について、バリアフリーの視点から、歩きやすさに満足していますか(単一回答)。

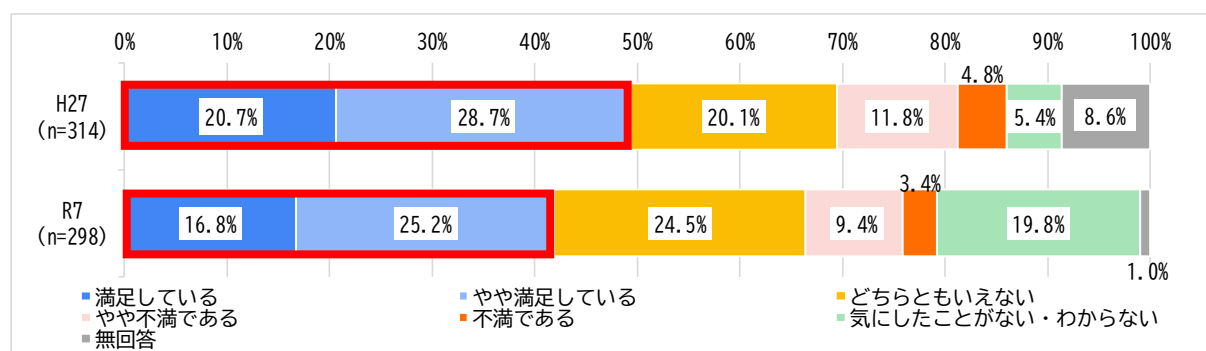


回答の傾向

- ・道路への満足度は、満足している人と不満がある人がいずれも回答者の1/3程度である。
- ・10年前と比較すると全体的に満足度合いの傾向が変わらない結果となった。

設問6 区内の【横断歩道】の状況について

1)ふだんまちを利用して、区内の【横断歩道】について、バリアフリーの視点から、安全性やわかりやすさに満足していますか(単一回答)。



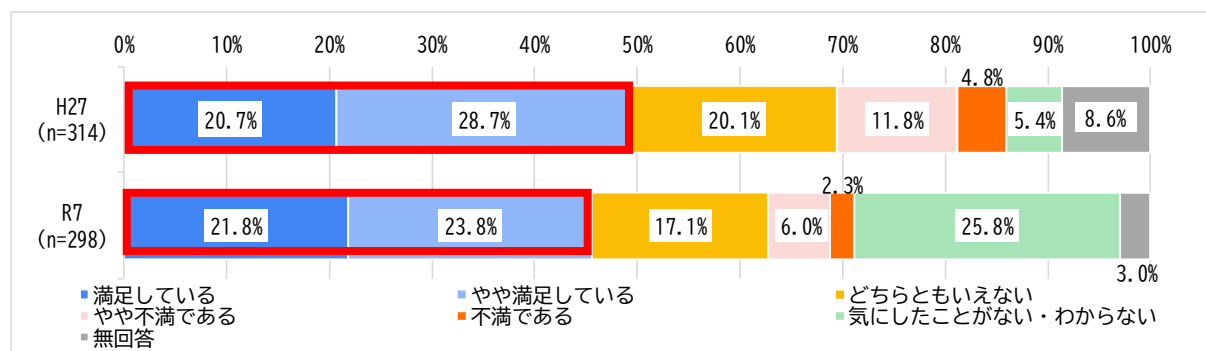
回答の傾向

- ・回答者の4割以上が横断歩道の安全性やわかりやすさに満足している。
- ・10年前と比較すると満足していると答えた回答者は、7.4%減少した。

※H27 調査は「横断歩道」「信号機」を併せた設問としていた。

設問7 区内の【信号機】の状況について

1)ふだんまちを利用して、区内の【信号機】について、バリアフリーの視点から、安全性やわかりやすさに満足していますか(単一回答)。



回答の傾向

- ・回答者の4割以上が信号機の安全性やわかりやすさに満足している。
- ・10年前と比較すると気にしたことがない・わからないと答えた回答者の増加が顕著であり、20.4%増加した。

※H27 調査は「横断歩道」「信号機」を併せた設問としていた。

■道路や横断歩道、信号機に関する主な意見

道路について

- ・道路のひび割れや凹凸が目立ち、水が溜りやすく劣化している
- ・自転車のスピードが速く、歩道を走るため危険、利用者のマナー向上が必要
- ・10年前に比べて視覚障害者誘導用ブロックや自転車専用通行帯が増えた
- ・ベビーカーでは歩きにくい

横断歩道について

- ・横断歩道が薄く、消えかかっている
- ・歩きスマホなど歩行者マナーが悪い
- ・視覚障害者対応としてエスコートゾーンの整備が必要

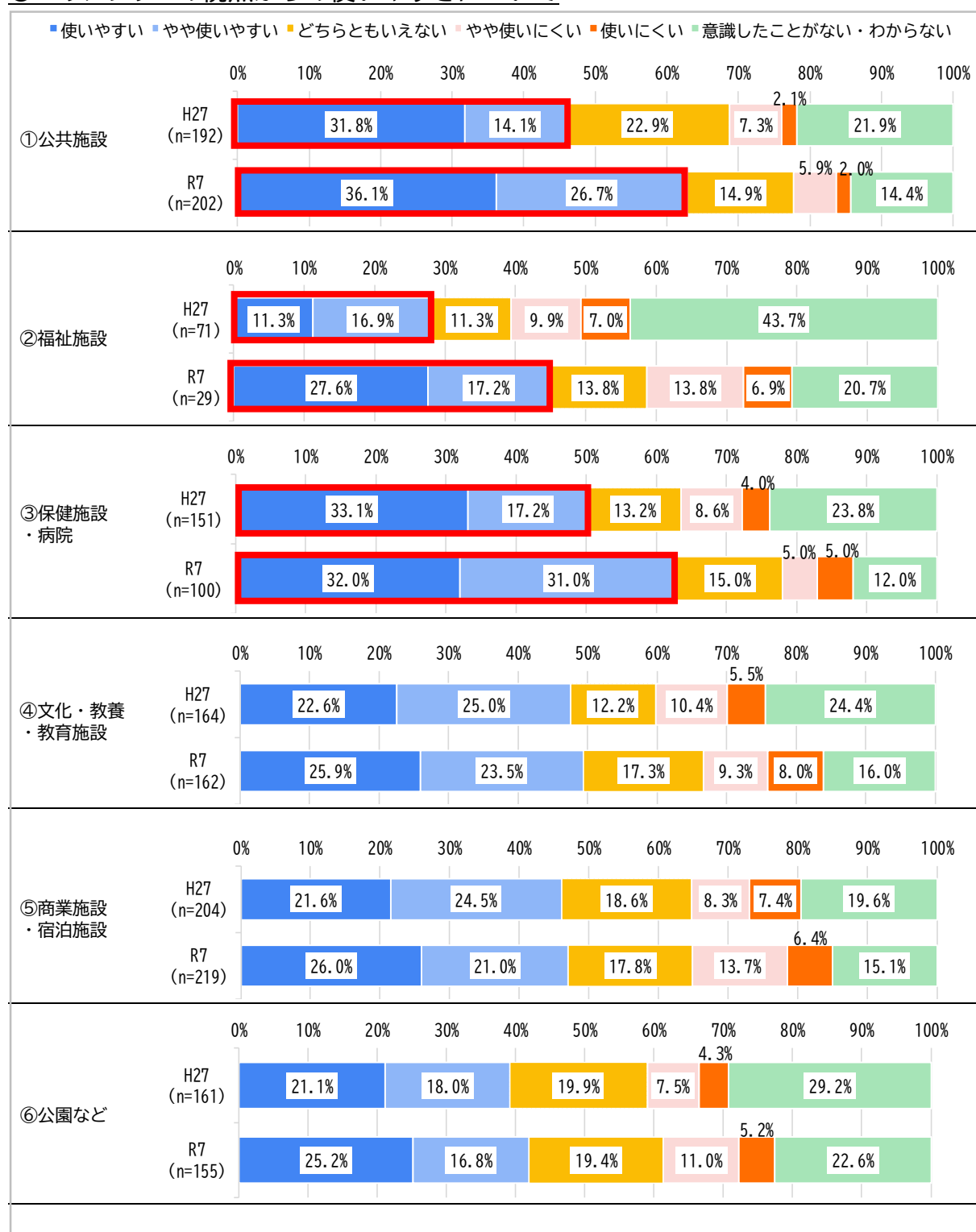
信号機について

- ・音響式信号機の音が小さく数が少ない
- ・青信号の時間が短すぎる、渡り切れない
- ・経過時間表示式信号機の設置が必要
- ・バリアフリーに配慮した信号機が増えた

設問8 区内の【施設】の状況について

1)区内の【不特定多数の人が利用する主要な施設】は、高齢者・障害者などをはじめ、妊産婦や乳幼児連れ、けが人などさまざまな人にとって使いやすいと感じますか。あなたがよく利用する施設について、その施設の使いやすさやご意見をお答えください（単一回答）。

●バリアフリーの視点からの使いやすさについて



回答の傾向

- ・R7では、施設の使いやすさについて、すべての施設カテゴリで使いやすいとの回答が最も多く4割程度以上となる。なかでも、公共施設、保健施設・病院は特に多く、6割以上が使いやすいと回答した。
- ・公共施設、福祉施設、保健施設・病院は10年前と比較すると使いやすいと答えた回答者が1割以上増加した。

■特に利用者の多い施設(10件以上)

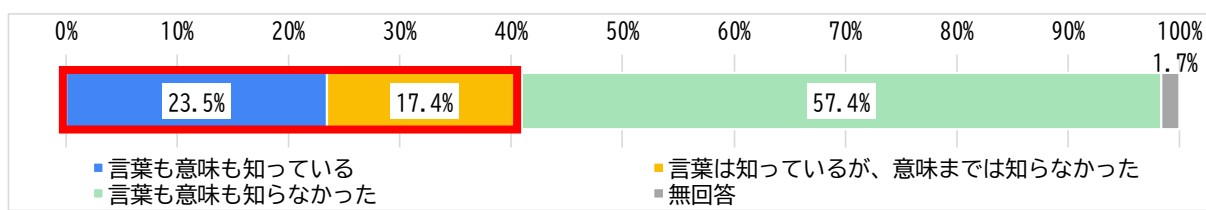
公共施設(窓口・集会)	文京区役所(シビックセンター)
保健施設・病院	日本医科大学付属病院/順天堂大学医学部附属順天堂医院/東京大学医学部附属病院
文化・教養・教育施設	根津図書室/小石川図書館/千石図書館/東京ドーム/文京スポーツセンター
商業・宿泊施設	オリンピック白山店/クイーンズ伊勢丹小石川店/ドン・キホーテ後楽園店/ラクーア/文京グリーンコート
公園など	教育の森公園/江戸川公園/小石川後楽園/小石川植物園/大塚公園/肥後細川庭園/目白台運動公園/六義園

■区内の施設に関する主な意見

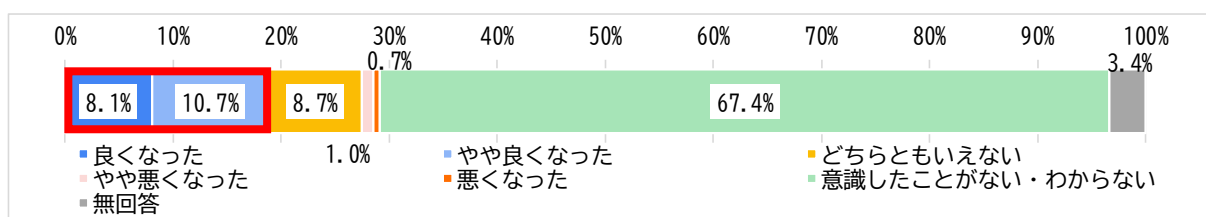
- ・古いが、車いす使用者用トイレやエレベーターなどの設備は整っている(公共施設)
- ・案内表示が少なく施設内がわかりにくい(病院)
- ・階段しかなく、足の不自由な児童などは利用できない(福祉施設)
- ・施設が古く、通路やトイレなど車いすには狭い(図書館)
- ・エレベーターの優先利用が守られていない(商業施設)
- ・車止めの間をベビーカーでは通りにくい(公園施設)

設問9【情報バリアフリー】について

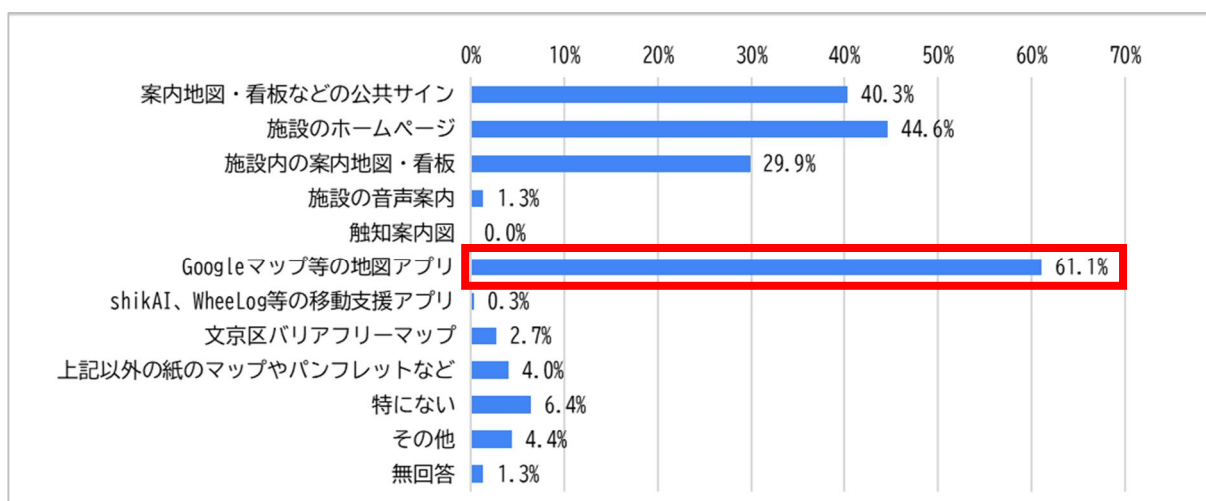
1)「情報バリアフリー」について知っていましたか(単一回答)。n=298



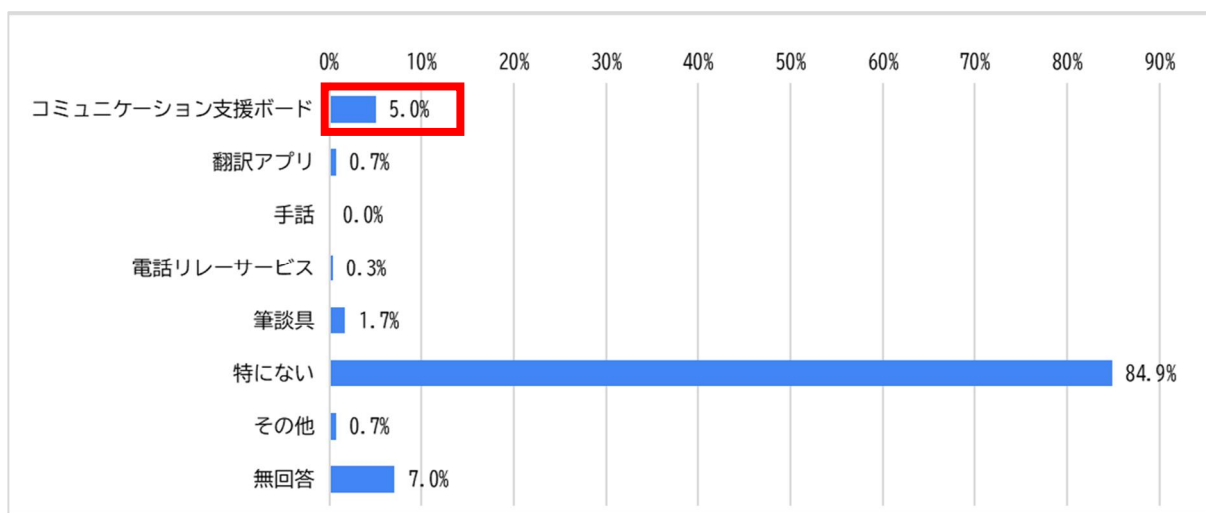
2)区内を移動したり駅や施設、公園等を利用する際の「情報バリアフリー」について、10年前と比較して良くなったと思いますか(単一回答)。n=298



3)区内での移動経路や施設の情報を取得する際の手段は何ですか(複数回答)。n=298



4)施設利用等で使用するコミュニケーションツールは何ですか(複数回答)。n=298



回答の傾向

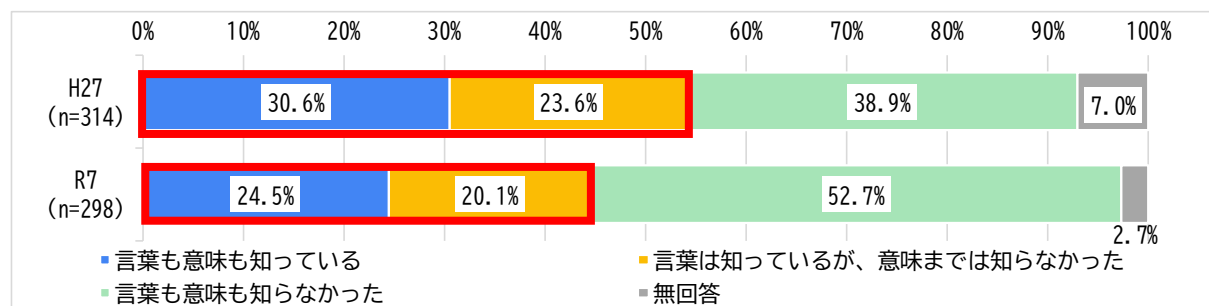
- ・回答者の4割以上が情報バリアフリーの言葉を知っていると回答した。
- ・回答者の2割程度が情報バリアフリーの10年前との比較について良くなったと回答した。
- ・移動経路や施設の情報を取得する際の手段は、Google マップ等の地図アプリが最も多く、6割程度となっている。
- ・施設利用等で使用するコミュニケーションツールは、特になしを除くと、コミュニケーション支援ボードが最も多く、5.0%となっている。

■情報バリアフリーに関する主な意見

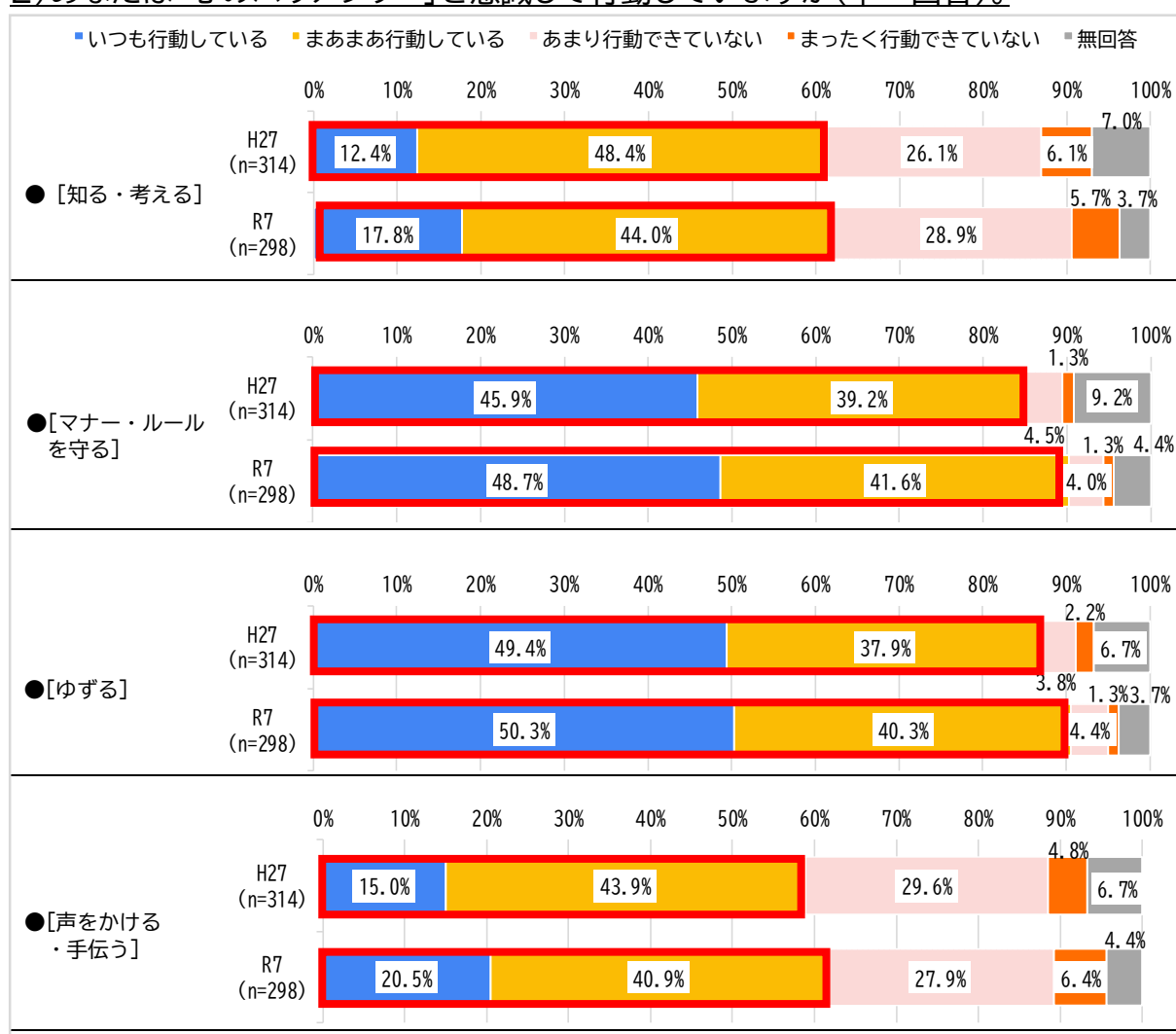
- ・施設のバリアフリー情報を事前にスマホで簡単に取得できるとよい
- ・車いす利用などの人の目線に合わせられる案内板も必要
- ・乗り継ぎ駅でのベビーカー移動がスムーズにいくよう駅に目立つ案内がほしい

設問10 【心のバリアフリー】について

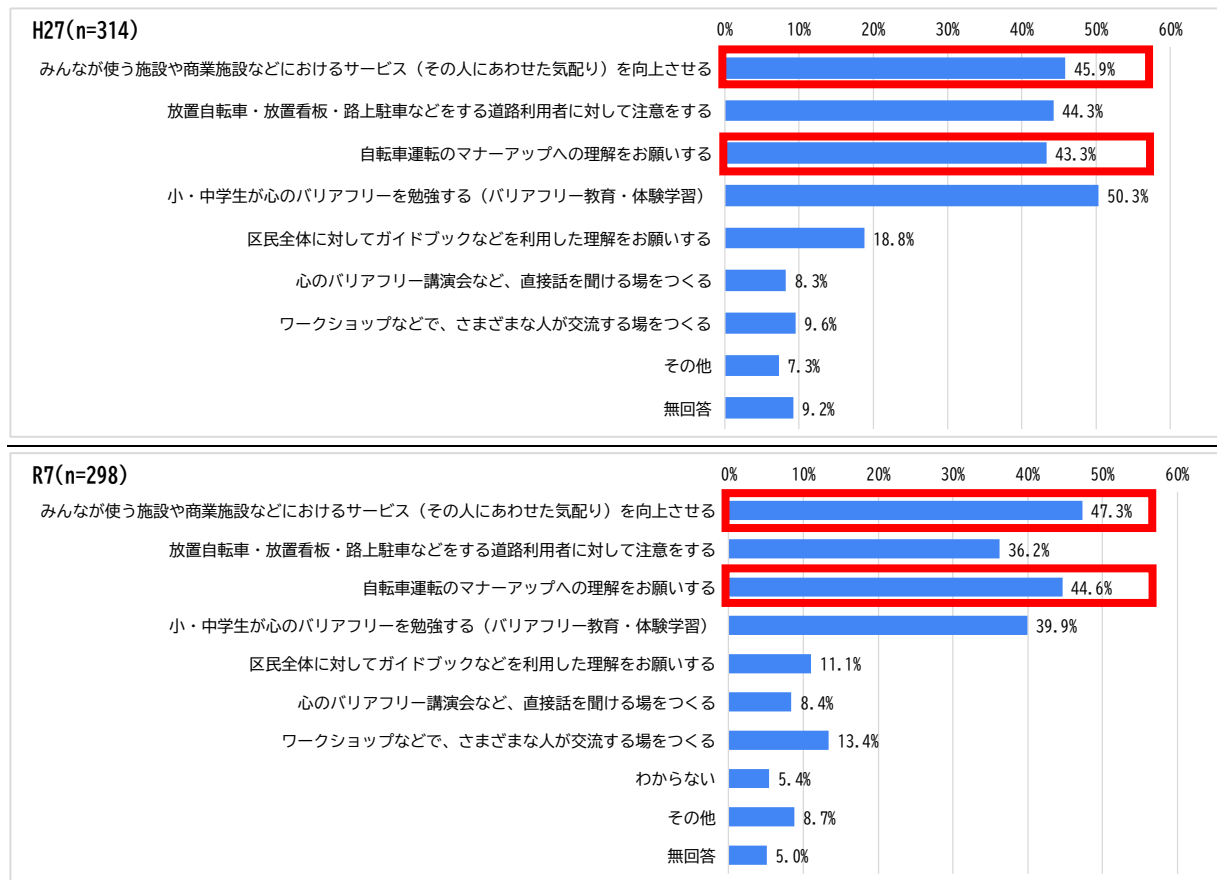
1) 同封する資料(心のバリアフリーって何だろう?)を読んでお答えください。「心のバリアフリー」について知っていましたか(単一回答)。



2) あなたは「心のバリアフリー」を意識して行動していますか(単一回答)。



3)区全体で「心のバリアフリー」を進めるためには、どのような取組みが必要だと思いますか(複数回答)。



回答の傾向

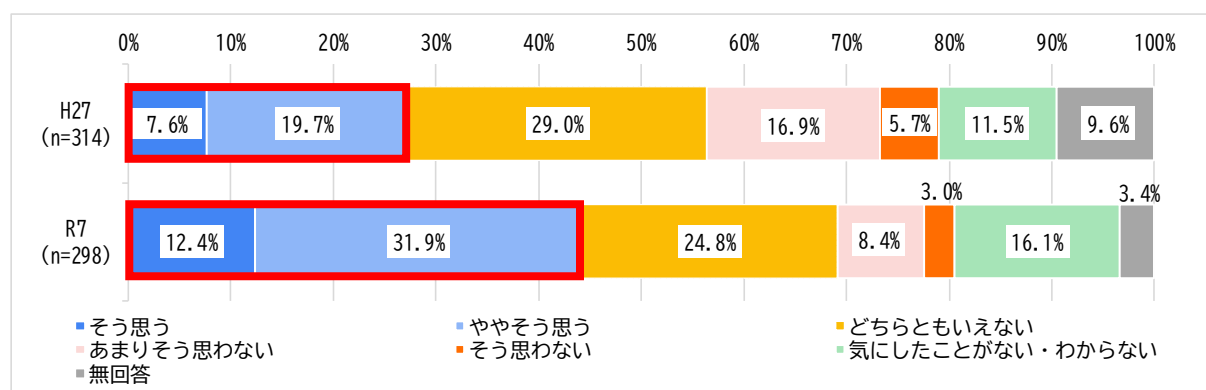
- ・回答者の4割以上が心のバリアフリーの言葉を知っていると回答した。
- ・10年前と比較すると、心のバリアフリーの言葉を知っていると答えた回答者が9.6%減少した。
- ・10年前と同様に、知る・考える、声をかける・手伝う行動について、回答者の約6割が行動している。また、マナー・ルールを守る、ゆずる行動について、回答者の約9割が行動している。
- ・10年前と同様に、4割以上の回答者が施設におけるサービスの向上や、自転車へのマナー周知を必要としている。

■心のバリアフリーに関する主な意見

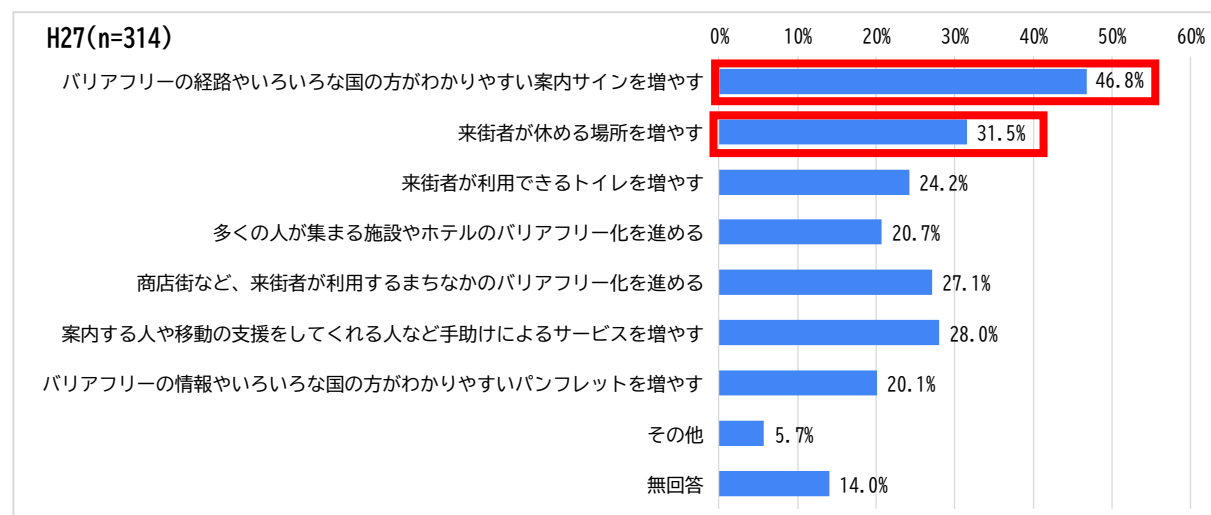
- ・自転車マナーに関して啓発活動をしてほしい
- ・ヘルプマークだけだと何に困っているかわからないので、声もかけにくい
- ・周りからは一見普通に見えても、自分が抱えている精神障害は理解してもらいにくく、困っている状況をわかってもらうのが難しい
- ・お節介にならないかと思い、ためらう
- ・区民にまだまだ心のバリアフリー、マナー、ルールが行き渡っていない

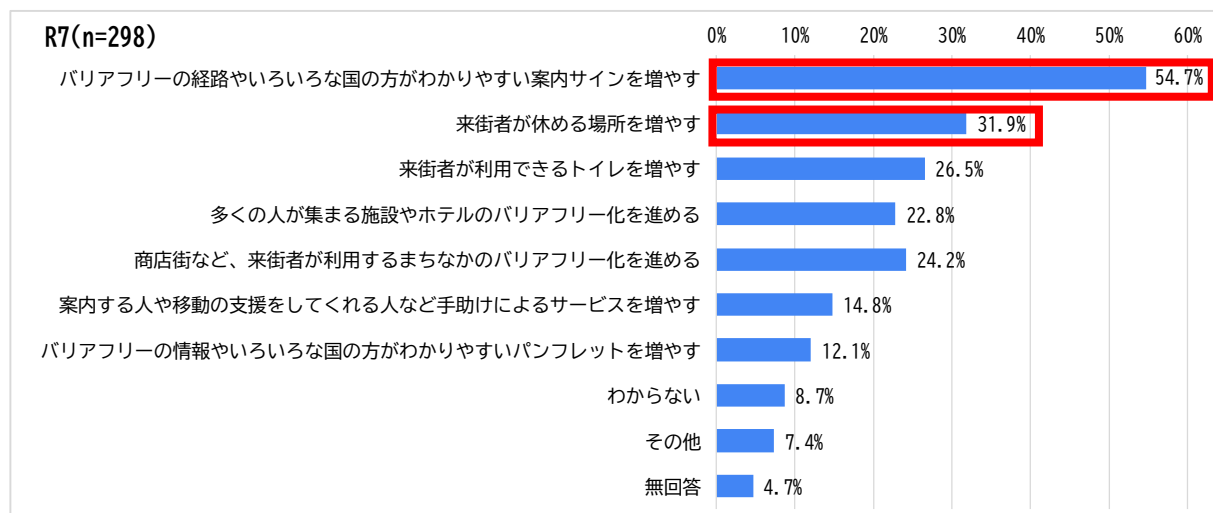
設問11 【観光のバリアフリー】について

1)区内は、高齢者・障害者・外国人などを含めたさまざまな来街者(観光などで来た人)にとってわかりやすく、安心して楽しめるまちになっていると思いますか(単一回答)。



2)区の観光のバリアフリーを進めるためには、どのような取組みが必要だと思いますか(3つまで選択可)。





回答の傾向

- ・回答者の4割以上が、区内は来街者にとってわかりやすく安心して楽しめると回答した。
- ・10年前と比較すると、区内は来街者にとってわかりやすく安心して楽しめると回答した割合は17.0%増加した。
- ・必要な取組としては案内サインの整備を挙げる人が半数以上と最も多く、10年前と比較すると7.9%増加した。次いで、10年前と同様に、休める場所の整備を挙げる人が3割程度であった。

■その他、バリアフリー全般に関する主な自由意見

- ・バリアフリーの内容をもっと区民に広めてほしい
- ・車いすで利用できるトイレがもう少し増えるとよいのではないかなと思う
- ・歩行者の多い道路では自転車専用通行帯を増やし、もう少し歩道を走行する自転車が減るとよりバリアフリーになるのではないかなと思う
- ・視覚障害者誘導用ブロックのない道路や舗装が凹んでいる道路、音響式信号機がない交差点は、家族としても不安が大きい
- ・エレベーターは、ベビーカーの人や杖を持つ人が優先して乗れるようにした方がいいと思う(健常者はエスカレーターor階段)

<障害者・高齢者団体アンケート調査の結果概要>

団体名	意見内容
家族会	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道駅の窓口に駅員がいなくなったので不便を感じる。 ・青信号の長さが短いと感じる時がある。 ・高齢者や障害者にとって移動中に少しでも休める場所がほしい。 ・高齢者の自転車利用について時々危険を感じる、ぶつけられたことがある。
高齢者クラブ	<ul style="list-style-type: none"> ・都営地下鉄三田線はバリアフリー化が進んでない。 ・鉄道駅にエレベーターはできたが、近くにないことが多い。
肢体障害者福祉協会	<ul style="list-style-type: none"> ・小石川では、コンビニやスーパーなどの入口前に段差があり、車いすなどの人が利用出来ない。 ・歩道と車道の間の側溝は、格子の目が細くなり、杖がはまる事がなくなった。 ・最近、障害者と健常者の共生社会について、学生が中心となり1日間の体験実習を行った。障害者団体と東京法務局が協賛となり、各障害者を招いた催し物に先日参加した。心のバリアフリーに関して、とても良い取り組みであり、普及してほしい。
肢体不自由児者父母の会	<ul style="list-style-type: none"> ・出来るだけ多くのバス停にベンチや屋根を設置してほしい。 ・バス停でバスが停車した時、車両と歩道が離れていると乗り降りがしにくい。 ・不忍通りの歩道が狭い。狭い道に電柱がある場所も車いす使用者や体の不自由な人は、通行が不便である。 ・ヘルプマークを使用している人も増えたため、今後障害者の理解を進めていく事も大切である。
視覚しょうがい者協会	<ul style="list-style-type: none"> ・エスカレーターに誘導チャイムではなく、上り・下りのアナウンスがあれば、迷うことが少なくなる。 ・駅構内で駅員さんを見つけることは困難である。 ・全てのバス停留所に屋根が欲しい。 ・ある日突然、歩車道の段差が無くなったことに気づき、一瞬危険を感じた。 ・エスコートゾーンが損傷したままの場所がいくつかあり、危ない。
知的障害者(児)の明日を創る会	<ul style="list-style-type: none"> ・排水のために傾斜が大きい箇所がある。 ・商業施設は、フロアが広いと方向がよくわからなくなる。 ・身体的な障害についてはわかりやすいが、知的障害・精神障害についてはわかりにくい。精神障害についての理解教育を推進してほしい。
聴覚障害者協会	<ul style="list-style-type: none"> ・通常または緊急時の構内放送の内容がわからない。 ・無人改札になると、インターホンでは応答できない。 ・鉄道駅の場合、「みどりの窓口」がどんどん減っているが、自動券売機は音声対応になっているため、対応できない。 ・公共施設には全て、自動字幕化機器をつけてもらいたい。 ・春日通りなどでは、自転車専用通行帯に駐車している車が多い。 ・青信号を渡る時、あとどのくらい青なのかがわからないと、渡り始めて渡れるかどうかわからない。あと何秒なのが表示してほしい。 ・受付窓口や支援を受ける際の受け入れ面接(インテーク)で対話が聞こえない。対話支援器と透明字幕表示装置、遠隔手話通訳があると良い。

参考6 地域懇談会

<実施概要>

項目	内容
目的	現行基本構想の改定に向け、現行基本構想の重点整備地区別（5地区）に、協議会の区民委員や関係団体当事者等による主要施設や交通施設等の利用状況や利用しやすさ、具体的な課題を把握する。
日程	令和7年6月26日（木） ①10：00～12：00 ②14：30～16：30
場所	文京シビックセンター21階北側 2102・2103 会議室
対象地区	①都心地域、下町隣接地域 ②山の手地域東部、山の手地域中央・西部
参加者	・協議会の区民委員 ・区民委員の紹介者（関係団体当事者等） 等
実施方法	参加者を現行基本構想の重点整備地区別（5地区：都心地域、下町隣接地域、山の手地域東部、山の手地域中央、山の手地域西部）にグループ分けし（山の手地域中央、山の手地域西部は参加人数の都合上、1グループとして実施）、グループごとに意見交換を実施し、課題等を共有しました。
意見交換のテーマ	○テーマ1：バリアフリー化されてよくなった点[20分] ○テーマ2：更なるバリアフリー化が必要な点[30分] 各テーマは、重点整備地区ごとに以下の項目で整理しました。 鉄道駅／バス／タクシー／道路／信号機・横断歩道等／建築物（駐車場含）／公園／心のバリアフリー／情報のバリアフリー／その他

<地域懇談会の様子>



<結果概要>

■都心地域 【凡例 ◎良い点、△課題点、□その他】

鉄道駅	<p>◎ 東京メトロ丸ノ内線 御茶ノ水駅は、エレベーター、エスカレーターが出来て上下移動が楽になった。</p> <p>◎ 地下鉄駅はホームドアが完備された。</p> <p>△ 駅の無人化、省人化で窓口対応をしてもらいにくい。</p> <p>△ 鉄道駅のエスカレーターを歩いて登っている人が多い。2列に並んで止まるようにしてほしい。</p>
バス	<p>◎ バスの掲示板(運転手横)が大きくなって見やすくなった。</p> <p>◎ 都バスに低床型車両が導入された。</p> <p>△ 路線がいくつかある停留所には行き先の音声による案内があると良い。</p>
タクシー	<p>◎ タクシーアプリができたことで、どこからでも乗れるようになった。ユニバーサルデザイン認定要領適合のタクシーも増えた。</p> <p>△ 視覚障害者にとってタクシーアプリを使うことは困難であるが、アプリ対応のタクシーが増えたため、流し営業のタクシーを利用することが難しくなった。</p>
信号機等	<p>◎ 白山通りに、音響式信号機とエスコートゾーンがついた。</p> <p>◎ 自転車専用通行帯などが整備され、安全に走れるようになった。</p> <p>△ エスコートゾーンの修繕がされていなく、摩耗したままになっている所が多い。</p>
道路	<p>◎ 御茶ノ水駅とお茶の水橋周辺の歩道幅員の拡張により、人流が低密度になり、安心して歩けるようになった。</p> <p>△ 道路管理者が自転車通行空間を整備する必要がある。「自転車は歩道を走るもの」という意識を変えていく必要がある。</p> <p>△ 自転車がが多く、坂で加速した自転車がベビーカーの横を通り過ぎる場面をよく見かける。</p> <p>△ 都道・区道の境では、視覚障害者誘導用ブロックを連続的に設置して欲しい。</p>
建築物	<p>◎ 文京区役所の福祉課には手話通訳もモニターもあり、聴覚障害者にとって利用しやすい。</p> <p>△ 役所や銀行での呼び出し待ちの際、聴覚障害者は、呼び出し番号が表示されるモニター等をずっと見ていないとわからないため、ポケットベル(バイブレーション)があると良い。</p> <p>△ 視覚障害の場合、番号札が取れない(どこにあるかわからない)。</p>
情報のバリアフリー	<p>△ スマホでの情報が発展しているものの、アクセシビリティという点では課題が残る。</p> <p>△ 交通状況等の放送とあわせてリアルタイム情報の字幕化が進むと良い。</p> <p>△ 引越してきた視覚/聴覚障害者が案内の位置を理解しやすい取組(転入障害者への情報提供など)を実施してほしい。</p> <p>□ 視覚障害者が利用する音声ナビのアプリも出てきたが、アプリに集中すると周りの音や位置感覚がなくなってしまう。視覚障害者も歩きながらの使用はやめた方が良い。</p>
その他	<p>◎ 声をかけられる機会が増えた。(視覚障害)</p> <p>△ 機器を利用する人が少なくてもモニター等設備をなくさないでほしい。</p>

■下町隣接地域 【凡例 ◎良い点、△課題点、□その他】

鉄道駅	<p>◎ 車内のモニターで、停車駅名や案内が文字でわかる。(聴覚障害)</p> <p>◎ 無人改札では券売機の前にカメラがあり、それに映すと駅員が遠隔で対応してくれるところもある。</p> <p>△ 東京メトロ南北線 東大前駅は、ホームにもインターホンがあるが、耳の聞こえない人は困る。</p> <p>△ 各出口にエレベーターの所在表示があると良い。</p>
バス	<p>◎ 空いている席を言葉で具体的に教えてくれるようになった。「優先席の一番前が空いています」等。(視覚障害)</p> <p>△ バスが斜めに停まることがあるが、手前に車が止まっていると必ずそうなる。駐車禁止ゾーンをもっと長くして、一般車が駐車できないようにして、バスが歩道に正着できるようにしてほしい。</p>
タクシー	<p>◎ 車いす用乗降場所が出来ている。</p> <p>◎ 乗務員が親切。肢体不自由者を乗降させるとき、危ないと感じたら手伝ってくれたり、声をかけてくれたりする。スムーズに乗れるようになった。</p>
信号機等	<p>◎ 勤労福祉会館とコンビニの間にある信号機に、信号が変わるまでの時間のカウントダウン表示がついた(経過時間表示式信号機)。もっとほかのところにもつけてほしい。</p> <p>△ 団子坂下交差点にはエスコートゾーンがないため、敷設してほしい。</p>
道路	<p>◎ 自転車専用通行帯が整備された。</p> <p>△ 道灌山から団子坂までの歩道の両側が狭く、また真ん中に電柱が立っているの車いすですり通りにくい。視覚障害者誘導用ブロックが敷設されており、車いすやベビーカーとの共存も課題である。</p> <p>△ 団子坂下交差点から谷中方面に向かう歩道がデコボコしているので整備してほしい。</p>
建築物	<p>◎ 放送の一部は文字化されている。</p> <p>△ 根津図書館では、本棚の間の通路や座るところ等が狭い。車いすの人は入れないだろう。</p>
駐車場	<p>◎ 日本医科大学付属病院では、車いすが乗り降りできる大きめの駐車スペースが設置されており、利用しやすかった。</p>
公園	<p>△ 防災無線の放送があっても聴覚障害者は気づけない。放送があったことがわかれば、防災アプリを開いて確認できる。</p>
心のバリアフリー	<p>△ ヘルプマークを付けている人を見ても、席を譲らずに知らないふりをする人がいる。</p> <p>△ 優先席でスマホを触っていて、目の前に必要とする人がいても気づかないことがあるため、啓発が必要である。</p> <p>△ 心のバリアフリーについてはまだまだ理解している人は少ないと思う。ヘルプマークを使用している人も多くなっているため、今後も障害者の理解を進めていく事も大切である。</p>
その他	<p>◎ コンビニに指差しシートがあり、「お箸は要りますか」等を指差しで聞いてもらえる。ガソリンスタンド等他の施設でも設置してほしい。</p> <p>◎ 歯科医院や床屋等で会話が必要な場面がある。相手の話していることがわからないため、スマホでテキスト化しているが、面倒がらないで対応してくれる。(聴覚障害)</p> <p>△ 夜交番に行くと無人で、「電話してください」とあるが、聴覚障害者は電話できないので困る。</p>

■山の手地域東部 【凡例 ◎良い点、△課題点、□その他】

鉄道駅	△ 白山駅は、出入口のエレベーターに車止めがあって車いすが入りにくい。 △ 白山駅は、道路から地下鉄への出入口がわかりにくい、エレベーターの位置もわかりにくい。
バス	△ バスが正着できていないと車歩道間に段差が生じ、子ども・荷物を持った老人がまずいて危険である。
信号機等	◎ 白山通りは、車通りが多いと音が聞こえにくかったが、音響式信号機の音量を上げてもらえて渡りやすくなった。 △ 音響式信号機は8時15分から17時までしか音が鳴らないため不便である。 △ 音響式信号機の設置箇所を増やしてほしい。
道路	◎ 工事中で視覚障害者誘導用ブロックが無くなってしまったが、都道管理者がすぐ対応してくれて敷設された。 △ 白山下～白山上に行く間の交差点は視覚障害者誘導用ブロックとエスコートゾーンを設置してほしい。現状一部設置されているが分かりにくい、不十分である。 △ 菊坂通りは、歩道がガタガタしていて歩きにくい。 △ 高齢者が道路で休憩できる場所が欲しい。
公園	△ 清和公園は、階段が狭くて危険である。

■山の手地域中央・西部 【凡例 ◎良い点、△課題点、□その他】

鉄道駅	◎ 東京メトロ有楽町線 江戸川橋駅にエレベーターが設置された。便利で使っている。 ◎ オリンピックを契機に地下鉄のホームドアがほぼ整備された。転落の危険が減り、視覚障害者だけでなく高齢者等にとっても良い。 △ 東京メトロ丸ノ内線茗荷谷駅は、中央大学(茗荷谷キャンパス)ができてから利用者が増えた。小学生等、駅員が改札におらず困っている人を見かけることも増えた。小学生の通学時間帯も駅員がいない。 △ インターホンのボタンは視覚障害者が見つけられない。少しでも音を鳴らしてほしいと要望しているが、音を嫌う障害もある。 △ バリアフリールートは1ルートでは少ない。ベビーカーがエレベーターに列を作ることもある。
バス	◎ 最近反転式スロープ板が増えてきており、運転手が短時間で設置している。 △ バスが正着しないために段差が発生してしまい、乗り降りが大変である。
タクシー	◎ オリンピックを契機に乗りやすい車両が増えた。 △ スマホでタクシーを予約する事が難しい人への対応が必要である。
信号機等	△ 音響式信号機がない。整備されていても周辺住民から苦情が出るため切っているそうだが、折り合いをつけた音響式信号機はできないか。 △ 渡り始めと終わりさえ認識できれば良いため、音響式信号機に大きな音は要らない。小さな音で良いから設置してほしい。

道路	<p>◎ 目白通りは、整備されてきれいになった。</p> <p>◎ 音羽通りは、筑波大学附属視覚特別支援学校が近くにあるため、目の悪い方が多く通行するが、視覚障害者誘導用ブロックが整備されてよくなったと思う。</p> <p>△ 視覚障害者誘導用ブロックとベビーカーの共存が課題である。視覚障害者誘導用ブロックが歩道の真ん中を通っているが、どちらかに寄せたほうが良いのではないか。</p> <p>△ 自転車は自転車通行空間を通行してほしい。スピードが出ているため危ない。</p>
建築物	<p>◎ 文京スポーツセンターは、トイレがきれいに整備された。</p> <p>△ 公共施設で道路からその建物に入る経路について、視覚障害者誘導用ブロックがないところがある。</p>
公園	<p>◎ 教育の森公園・占春園は、舗装が適切でベビーカー等も通りやすそう。</p> <p>◎ トイレの整備が進んできた。水栓でキレイ、使いやすい。</p>
心のバリアフリー等	<p>◎ ヘルプマークが普及されてきた。娘もヘルプマークを付けていると電車で席を譲ってもらえるようになった。</p> <p>◎ バスで、車いすの固定等、運転手の手際が良くなった。</p> <p>◎ 人が多いところでは自閉症の娘は声を出してしまうことがあるが、ヘルプマークを付けていたら、好奇の目では見られなくなった。</p> <p>◎ 「どちらに行かれますか」等と声をかけてもらえるようになった。道を歩いていても一般の方に声をかけられるようになった。(視覚障害)</p>
情報のバリアフリー	<p>◎ 案内板の中に QR コードをつけているものが多くなった。障害のある人の情報収集に役立つ。</p> <p>△ 文京区のホームページは、知りたい内容になかなかたどり着けない。すぐにたどり着けるようにしてほしい。</p> <p>△ 公園の禁煙等の情報が多言語化されていない。本人がほしい情報というより、運用上等で知ってほしい情報をわかりやすく伝えてほしい。</p> <p>△ 電子機器を使えない人が取り残されている。アプリ習熟の機会を提供することが重要である。</p> <p>△ 障害者対応のアプリが充実すると良い。</p> <p>△ インターネットで調べ物をしている時に、詳細を知りたくて電話をかけようと思っても AI チャットやメール対応のみで電話番号が掲載されない所が増え、不便を感じる。人に対応してほしい。</p>
その他	<p>◎ 全体的にエレベーターが増えて便利になった。</p> <p>△ 目白台は標高差が大きく、既にバリアになっている。最寄りの住民票等を取れる施設、図書館、交流館までそれぞれ大きな標高差を超えて移動しないといけないが、公共交通がない。手すりがついたため上りやすくなったが、高齢者はタクシーを使っている。Bーぐるの運行路線を変えてもらえないかと発案したが、却下された。公共施設に行くところくらいは対応してほしい。</p>

参考7 用語解説

あ行

■ ICT（アイシーティ）

Information Communication Technologyの略。ICTは、情報・通信に関連する技術一般の総称で、従来頻繁に用いられてきた「IT」とほぼ同様の意味で用いられるもの。

■ 愛の手帳

東京都愛の手帳交付要綱に基づき、知的障害者（児）に対する社会の理解と協力を深めるために交付するもの。障害の程度によって、1度から4度に区分される。

■ アクセシビリティ

アクセス（＝目的の場所などの利用やそこへの接近）のしやすさのこと。情報やサービスなどがどれくらい利用しやすいか、特に高齢者、障害者等が不自由なく利用可能かどうかの度合いを示すもの。

■ 移動等円滑化基準

移動等円滑化（＝バリアフリー化）のために必要なものとしてバリアフリー法に基づき主務政省令で定められた基準。旅客施設、車両、道路、信号機、路外駐車場、都市公園、建築物等に関するものがある。

■ 移動等円滑化の促進に関する基本方針
バリアフリー法第3条第1項の規定に基づき、主務大臣が定める移動等円滑化を総合的かつ計画的に推進するための基本方針。（令和2年国家公安委員会、総務省、文部科学省、国土交通省告示第1号）

■ 役務の提供

バリアフリー施設や設備等の機能を十分に発揮するために、サービスを提供する事業者が施設・設備等の維持管理や、操作方法・障害者等への接遇方法の習得、サービス提供体制の確保や操作・人的対応を実施すること。令和2年のバリアフリー法改正により、公共交通移動等円滑化基準に新たに役務の提供に関する基準が定められた。

■ エスコートゾーン

視覚障害者横断帯。横断歩道の中央部に視覚障害者が認知できる突起を設け、横断歩道内をまっすぐ進めるようにするもの。

■ オストメイト

人工肛門や人工膀胱を持つ人たちのこと。疾患部の全部又は一部の摘出手術を受け、腹部に排泄するためのストーマ（人工肛門・人工膀胱）を造設し、排せつ、排尿に対応するためのストーマ装具を装着している。

■ オストメイト対応設備

トイレ等でオストメイトが排せつ物の処理やストーマ装具の交換・装着などをするための設備であり、汚物流し台やカウンター、荷物用フック、化粧鏡、着替え台などがある。

か行

■ ガイドライン

国や自治体などが、関係者らが取り組むことが望ましいとされる指針や、基準となる目安などを示したもの。

■ 輝度

ものの明るさを表現したものであり、単位面積当たり、単位立体角当たりの放射エネルギー（発散する光の量）を比視感度（電磁波の波長毎に異なる感度）で計測したものである。

■ QR コード

白と黒の四角で構成された模様の 2 次元コード。携帯電話やスマートフォンなどで読み取ることで文字情報や URL（ウェブページのアドレス）などのデータを読み取ることができる。

■ グレーチング

鋼材を格子状に組んだ側溝の蓋。

■ 経過時間表示式信号機

信号交差点における横断歩行者の安全性を向上させるため、経過時間（待ち時間及び残り時間）を表示した信号機。

■ 建築物バリアフリー条例（東京都）

「高齢者、障害者等が利用しやすい建築物の整備に関する条例」（平成 15 年制定、令和 5 年改定）の略称。バリアフリー法に基づき東京都が定めた条例で、義務付け対象とする用途の拡大や対象規模の引き下げ、整備基準の強化について定めている。

■ 高度化 PICS（ピックス）

スマートフォン等に歩行者信号の状態を送信するとともに、スマートフォン等から青信号の延長要求ができるシステムであり、歩行者等支援情報通信システム（PICS：Pedestrian Information and Communication Systems）を高度化したもの。

■ 合理的配慮

障害のある人から社会の中にあるバリアを取り除くための対応を求められた場合に、負担が重すぎない範囲で対応すること。なお、「合理的配慮の提供」にあたり、障害のある人と事業者が話し合い、お互いに理解し合いながら共に対応案を検討することが重要とされている。

■ 高齢化率

総人口に対する 65 歳以上の人口の割合。

■ 心のバリアフリー

高齢者、障害者等に対する無理解や誤解を取り除き、相手の気持ちになって考え、支え合っていくこと。また、高齢者、障害者等の施設の利用等を妨げないことや移動及び施設利用を手助けすること等の支援により、円滑な移動及び施設利用に積極的に協力すること。

■ コミュニケーション支援ボード

障害者や外国人などのコミュニケーションをとりにくい方が、自分の意志を相手に伝えるために利用する絵や図記号が示されたボード。

■ コミュニティ道路

人と車の調和を図り、歩行者等が安全かつ安心して利用できる道路。車道を蛇行させる、ジグザグにする、車道面を隆起させたハンプを設置するなど、心理的、物理的に車の速度が低下するように設計されている。

■ コミュニティバス

従来の路線バスによるサービスを補う公共交通サービスとして、自治体が関与して運行する乗合バス。生活道路など狭い道を運行するため、小型バスが使用されることが多い。

さ行

■ サイン

道路や鉄道駅、建築物などに設置される誘導表示や案内図。

■ 視覚障害者誘導用ブロック

視覚障害者を誘導するために床面や路面等に敷設される、線状、点状の突起をもったブロック。

■ 施設設置管理者

公共交通事業者等、道路管理者、路外駐車場管理者等、公園管理者等及び建築主等のこと。

■ 自転車通行空間整備

自転車が安全に通行できる空間を道路上に整備（自転車道、自転車専用通行帯、路肩のカラー化や路面標示、交通規制など）すること。

■ 社会的障壁

障害者にとって、日常生活や社会生活を送る上で障壁となるような、社会における事物、制度、慣行、観念その他一切のもの。

<社会的障壁の例>

- ・ 事物…通行や利用がしにくい施設、設備等（例：階段がある、通路の幅が狭く車いすが通れない、ウェブサイトが拡大・音声読み上げなどの閲覧補助に対応しておらず閲覧できない 等）
- ・ 制度…利用しにくい制度（例：障害があると加入できない会員規約 等）
- ・ 慣行…障害のある方の存在を意識していない慣習や文化等（例：講演会の申込先が電話番号しかないため、聴覚・言語障害者が申し込めない 等）
- ・ 観念…障害のある方への偏見など（例：障害のある方は、〇〇と思うに違いない 等）

■ 重点整備地区

バリアフリー法に基づく基本構想に定める地区。バリアフリー化のための事業を重点的かつ一体的に推進すべき地区として区市町村が定めるもの。

■ 障害者差別解消法

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（平成 25 年制定、令和 3 年改正）の略称。国連の「障害者の権利に関する条約」の締結に向けた国内法制度の整備の一環として、全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別の解消を推進するもの。

■ 障害の社会モデル

障害のある人が日常生活又は社会生活で受ける様々な「制限」は、障害のある人ご自身の心身のはたらきの障害のみが原因なのではなく、社会の側に、様々な障壁(バリア)があることによって生じるもの、という考え方。

■ 触知（案内）図

視覚障害者が触覚により空間認識を行うための地図。道路や建物などの地物を凹凸のある線や網目模様で、注記を点字で表現したもの。

■ 身体障害者手帳

身体障害者福祉法に定める障害程度に該当すると認められた場合に、本人（15歳未満はその保護者）の申請に基づいて交付されるもので、各種のサービスを受けるための証明になる。障害の等級には、障害の程度により、1級から6級がある。

■ スパイラルアップ

計画（Plan）→実施（Do）→評価（Check）→改善（Action）のPDCAサイクルに基づき取組を進めながら理想に向かっていくプロセス。「継続的に改善すること」として用いられる。

■ 生活関連経路

生活関連施設相互間の経路（道路や通路など）。

■ 生活関連施設

高齢者、障害者等が日常生活又は社会生活において利用する旅客施設、官公庁施設、福祉施設その他の施設のこと。

■ 精神障害者保健福祉手帳

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律に規定された障害者手帳。一定の精神障害の状態にあることを証明するもので、本人の申請に基づいて交付される。手帳を取得することで各種サービスが受けやすくなる。手帳の有効期限は2年で、障害の程度により1級から3級がある。

■ （バスの）正着

バスが停留所との隙間を空けずに停車すること。

た行

■ 東京都福祉のまちづくり条例

ユニバーサルデザインを基本理念とし、高齢者や障害者を含めたすべての人が、安全、安心、快適に暮らし、訪れることができるまちづくりを進めることを目的とした条例（平成7年制定、平成21年改正）。施行規則において、対象となる施設や整備基準を定めている。

■ 特定公園施設

都市公園の出入口・駐車場と特定公園施設及び主要な公園施設との間の経路を構成する園路及び広場/休憩場/野外劇場/野外音楽堂/駐車場/便所/水飲場/手洗場/管理事務所/掲示板/標識などがある。

■ 特定事業

バリアフリー法に基づく基本構想に記載される事業（バリアフリー化に関する事業）で、公共交通特定事業、道路特定事業、交通安全特定事業、建築物特定事業、路外駐車場特定事業、都市公園特定事業及び教育啓発特定事業をいう。

■ 特定事業計画

バリアフリー法に基づく基本構想に記載された特定事業に関し、関係する事業者が作成する計画。公共交通特定事業計画、道路特定事業計画、交通安全特定事業計画、建築物特定事業計画、路外駐車場特定事業計画、都市公園特定事業計画及び教育啓発特定事業計画がある。

■ 特定車両

公共交通特定事業の対象となる路線バスや貸切バス、タクシー等の車両のこと。

■ 特定旅客施設

1 日あたりの平均的な利用者数が 5,000 人以上であること、又は相当数の高齢者、障害者等の利用が見込まれることなどの要件に該当する旅客施設。

■ 特定路外駐車場

道路の付属物である駐車場、公園施設である駐車場、建築物及び建築物に付属する駐車場を除く路外駐車場であって、駐車用の用に供する部分の面積が 500 m²以上であり、かつ駐車料金を徴収するもの。

■ 特別支援学校

学校教育法で規定された、心身障害児を対象とする学校。視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者(身体虚弱者を含む)に対し、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施すとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けることを目的とする。

な行

■ ニーリング

バスのエアサスペンションの空気を抜いて車体を傾け、乗り降りをしやすくする機能。

■ 認知症サポーター

認知症を正しく理解し、認知症の方や家族を地域で見守る応援者。講師役である「キャラバン・メイト」が、地域住民や職域団体・学校等を対象に、認知症の基礎知識やサポーターとして何ができるかな等を学ぶ「認知症サポーター養成講座」を随時開催している。

■ 認知症基本法

「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」(令和 6 年 1 月施行)の略称。認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができるよう、認知症施策を総合的かつ計画的に推進することを目的に制定され、基本理念や認知症施策推進基本計画、基本的施策などについて定めている。

■ ノンステップバス

乗降部に階段がなく、スムーズな乗降が可能なバス。車いす使用者の乗降の際はスロープ板などを出す。ノンステップバスにおける乗降口床面の高さは 270mm 以下とされている(公共交通機関の車両等に関する移動等円滑化整備ガイドライン)。

は行

■ ハード・ソフト

ハードとは道路や建築物、設備など主に施設に関するもの。ソフトとは人、システム、制度などに主に運用に関するもの。

■ パブリックコメント

行政が計画を策定する際に、あらかじめ計画の原案を公表し、寄せられた意見を考慮して最終決定するための一連の手続のこと。

■ バリアフリー

障害者などが社会生活をしていく上で障壁(バリア)となるものを除去すること。ここでいうバリアには、物理的、社会的、制度的、心理的、情報面など、すべての障壁を含む。

■ バリアフリー基本構想

バリアフリー法に基づき、区市町村が、当該区市町村の区域内の旅客施設を中心とする地区や、高齢者、障害者等が利用する施設が集まった地区(重点整備地区)について、移動等円滑化に係る事業の重点的かつ一体的な推進に関して定める構想。

■ バリアフリー対応型信号機

音響式信号機、経過時間表示式信号機、歩行者感应制御信号機、青延長用押しボタン付き信号機(高齢者等感应式信号機)を総称したもの。

■ バリアフリー法

「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」(平成 18 年施行)の略称。従来の交通バリアフリー法では大規模な鉄道駅等の旅客施設を中心として、周辺道路や信号機等のバリアフリー化を図ることが目的とされていたが、より面的かつ一体的・連続的なバリアフリー化を促進していくための枠組みとして、建築物のバリアフリーに関する法律であるハートビル法と交通バリアフリー法が一体化した法制度となったもの。平成 30 年、令和 2 年に改正が行われた。

■ PDCA サイクル

⇒「スパイラルアップ」の項を参照。

■ バリアフリーマップ

地方公共団体、地域団体等が地域におけるバリア又はバリアフリー情報を収集し、印刷配布・ウェブ上での公表その他の方法により一般に公開しているもの。

■ ピクトグラム

「絵文字」「絵単語」などで、何らかの情報や注意を示すために用いられる視覚記号(サイン)の一つ。

■ 福祉タクシー

道路運送法第 3 条に掲げる一般乗用旅客自動車運送事業を営む者であって、一般タクシー事業者が福祉自動車を使用して行う運送や、障害者等の運送に業務の範囲を限定した許可を受けたタクシー事業者が行う運送のこと。

■ 「文の京」総合戦略

区が解決すべき主要課題を明らかにした「重点化計画」で、財政的な裏付けを伴う区の最上位計画（令和6年3月策定）。

■ 文京区都市マスタープラン

都市計画法第18条の2により「市町村の都市計画に関する基本的な方針」として定めるものであり、長期的な視点にたって、まちの将来像や土地利用・都市施設などの整備方針を明らかにし、都市計画の方針及びまちづくりのガイドラインとしての役割を果たすもの。『文京区都市マスタープラン2024』P3参照

■ ホームドア・可動式ホーム柵

駅のホームで線路に面する部分に設置された可動式の開口部を持った仕切り。ホーム上の利用者への安全対策の一つで、線路内への転落事故や列車との接触事故を未然に防ぐ。可動式ホーム柵は高さが床面から腰高程度のタイプ。

や行

■ ユニバーサル社会

年齢、性別、障害、文化などの違いにかかわらず、だれもが地域社会の一員として支え合うなかで安心して暮らし、一人ひとりが持てる力を発揮して元気に活動できる社会。

■ ユニバーサル社会実現推進法

「ユニバーサル社会の実現に向けた諸施策の総合的かつ一体的な推進に関する法律」（平成30年制定）の略称。障害の有無、年齢などにかかわらず、すべての国民が尊重され、自立した社会生活を送れる「ユニバーサル社会」の実現を目指し、関係施策を総合的・一体的に推進することを目的としている。

■ ユニバーサルデザイン

あらかじめ、障害の有無、年齢、性別、国籍、言語、文化などにかかわらず、多様な人々が利用しやすいような都市や生活環境をデザインする考え方。ユニバーサルデザインとは何か、を説明するにあたっては、ロナルド・メイスらがまとめた7つの原則（①公平性の原則、②柔軟性の原則、③単純性と直感性の原則、④安全性の原則、⑤認知性の原則、⑥効率性の原則、⑦快適性の原則）がよく用いられる。

■ ユニバーサルデザインタクシー

健康な方はもちろん、車いす使用者、ベビーカー利用者、高齢者、妊娠中の方など「誰もが利用しやすいタクシー」のこと。

ら行

■ 路外駐車場

道路の路面外に設置される自動車の駐車施設で、一般公共用の駐車施設のこと。

わ行

■ ワークショップ

一方的な情報提供でなく、参加者が自ら参加・体験し、グループの相互作用の中で問題解決や創造を行う場、又はその活動手法のこと。

文京区バリアフリー基本構想（案）

令和8(2026)年1月

発行／文京区

編集／都市計画部

〒112-8555

東京都文京区春日一丁目16番21号

電話 03-3812-7111（代表）

本書で用いている地図は、東京都縮尺1/2,500地形図を使用（承認番号：7都市基交測第169号）して作成した。地図の著作権は東京都及び株式会社ミッドマップ東京に帰属する。無断複製を禁ずる。